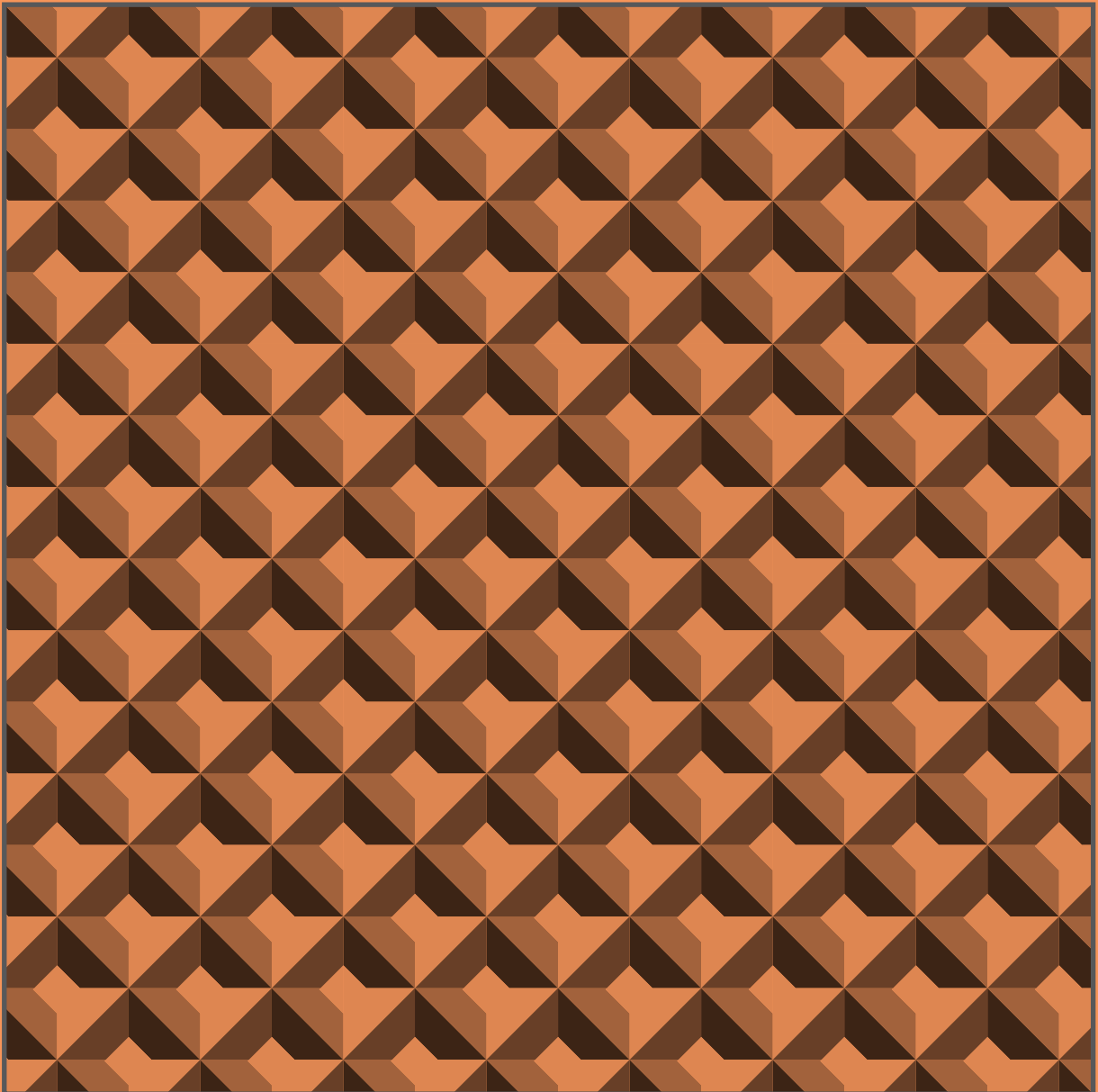

2014年度

シラバス

交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

I 交流文化学科授業科目について

【シラバスページの検索方法】

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で記載されています。

【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
- ② 表記方法

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科		営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		環：国際環境経済学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科			
言：言語文化学科	全：交流文化学科以外の全学部学科		

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

II シラバス本文の見方(右図参照)

- ① 入学年度
- ② 入学年度に対応した科目名
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④ 学期の授業計画
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
- ⑤ 授業で使用するテキスト、参考文献
- ⑥ 評価方法

【注意事項】

1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

2.定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

●参考資料(英語レベル一覧表)●

上級	TOEIC®	800点以上
		(iBT) 68点以上
	TOEFL®	(PBT) 520点以上
		(CBT) 190点以上
	実用英語技能検定	準1級以上

中級	TOEIC®	600点以上
		(iBT) 54点以上
	TOEFL®	(PBT) 480点以上
		(CBT) 157点以上

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施したTOEIC®テストで満たしていれば履修登録は可能です。
学外で受験したスコアを利用する場合は、証明するコピーを教務課外国語学部係へ提出してください。

交流文化学科 授業科目

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜 時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化概論i	鈴木 涼太郎	春	水 3	2	1	全	13
交流文化概論ii	北野 収 / 須永 和博	春	金 1	2	1	全	14
交流文化概論iii	永野 隆行	秋	木 5	2	1	全	14
基礎演習 I	高橋 雄一郎	春	水 1	2	1	全	15
基礎演習 II	高橋 雄一郎	秋	水 1	2	1	全	15
基礎演習 I	島田 啓一	春	水 1	2	1	全	16
基礎演習 II	島田 啓一	秋	水 1	2	1	全	16
基礎演習 I	北野 収	春	水 1	2	1	全	17
基礎演習 II	北野 収	秋	水 1	2	1	全	17
基礎演習 I	鈴木 涼太郎	春	水 1	2	1	全	18
基礎演習 II	鈴木 涼太郎	秋	水 1	2	1	全	18
基礎演習 I	須永 和博	春	水 1	2	1	全	19
基礎演習 II	須永 和博	秋	水 1	2	1	全	19
英語圏の文学と文化概論	児嶋 一男	春	火 2	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	児嶋 一男	秋	火 2	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	上野 直子	春	木 4	2	1	全	21
英語圏の文学と文化概論	片山 亜紀	春	木 4	2	1	全	21
英語の世界 I	府川 謹也	春	火 5	2	1	全	22
英語の世界 I 再履修	佐藤 芳明	秋	水 4	2	1	全	22
English for Business I	各担当教員	春		1	2	全	23
English for Business II	各担当教員	秋		1	2	全	23
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火 2	1	1	全	24
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	D. ブラドリー	秋	火 2	1	1	全	24
Listening & Speaking	R. ダラム	春	火 1	1	1	全	25
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	R. ダラム	秋	火 1	1	1	全	25
Listening & Speaking	田川 憲二郎	春	金 3	1	1	全	26
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	田川 憲二郎	秋	金 3	1	1	全	26
Listening & Speaking	日野 克美	春	火 1	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	日野 克美	秋	火 1	1	1	全	27
Listening & Speaking	日野 克美	春	火 3	1	1	全	28
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	日野 克美	秋	火 3	1	1	全	28
Grammar for TOEFL® & TOEIC® I	各担当教員	春		1	1	全	29
Grammar for TOEFL® & TOEIC® II	各担当教員	秋		1	1	全	29
Reading Strategies I	伊藤 兵馬	春	月 2	1	1	全	30
Reading Strategies II	伊藤 兵馬	秋	月 2	1	1	全	30
Reading Strategies I	伊藤 兵馬	春	木 3	1	1	全	31
Reading Strategies II	伊藤 兵馬	秋	木 3	1	1	全	31
Reading Strategies I	佐藤 芳明	春	水 2	1	1	全	32
Reading Strategies II	佐藤 芳明	秋	水 2	1	1	全	32
Reading Strategies I	島田 啓一	春	火 1	1	1	全	33
Reading Strategies II	島田 啓一	秋	火 1	1	1	全	33
Reading Strategies I	瀬戸 千尋	春	月 4	1	1	全	34
Reading Strategies II	瀬戸 千尋	秋	月 4	1	1	全	34
Reading Strategies III	佐藤 芳明	春	水 3	1	2	全	35
Reading Strategies IV	佐藤 芳明	秋	水 3	1	2	全	35
Reading Strategies III	河原 宏之	春	水 1	1	2	全	36
Reading Strategies IV	河原 宏之	秋	水 1	1	2	全	36
Reading Strategies III	白川 貴子	春	水 1	1	2	全	37
Reading Strategies IV	白川 貴子	秋	水 1	1	2	全	37
Reading Strategies III	白川 貴子	春	水 2	1	2	全	38
Reading Strategies IV	白川 貴子	秋	水 2	1	2	全	38
Reading Strategies III	三吉 美加	春	月 4	1	2	全	39
Reading Strategies IV	三吉 美加	秋	月 4	1	2	全	39

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜 時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Strategies I	D. マッキャン	春	金 2	1	1	全	40
Writing Strategies II	D. マッキャン	秋	金 2	1	1	全	40
Writing Strategies I	M. ダーリン	春	月 4	1	1	全	41
Writing Strategies II	M. ダーリン	秋	月 4	1	1	全	41
Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火 2	1	1	全	42
Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火 2	1	1	全	42
Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火 3	1	1	全	43
Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火 3	1	1	全	43
Writing Strategies I	伊藤 兵馬	春	月 4	1	1	全	44
Writing Strategies II	伊藤 兵馬	秋	月 4	1	1	全	44
Comprehensive English I	A. R. ファルヴォ	春	月 2	1	1	全	45
Comprehensive English II	A. R. ファルヴォ	秋	月 2	1	1	全	45
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	木 3	1	1	全	46
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	木 3	1	1	全	46
Comprehensive English I	K. ミーハン	春	月 3	1	1	全	47
Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	月 3	1	1	全	47
Comprehensive English I	K. ミーハン	春	金 2	1	1	全	48
Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	金 2	1	1	全	48
Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	金 2	1	1	全	49
Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	金 2	1	1	全	49
Comprehensive English I	M. ダーリン	春	木 3	1	1	全	50
Comprehensive English II	M. ダーリン	秋	木 3	1	1	全	50
Comprehensive English I	N. H. ジョスト	春	月 3	1	1	全	51
Comprehensive English II	N. H. ジョスト	秋	月 3	1	1	全	51
Comprehensive English I	P. M. ホーネス	春	月 2	1	1	全	52
Comprehensive English II	P. M. ホーネス	秋	月 2	1	1	全	52
Comprehensive English I	T. ミニオン	春	木 3	1	1	全	53
Comprehensive English II	T. ミニオン	秋	木 3	1	1	全	53
Comprehensive English I	A. ジェネス	春	月 3	1	1	全	54
Comprehensive English II	A. ジェネス	秋	月 3	1	1	全	54
Comprehensive English III	D. マッキャン	春	木 3	1	2	全	55
Comprehensive English IV	D. マッキャン	秋	木 3	1	2	全	55
Comprehensive English III	E. フランコ	春	木 1	1	2	全	56
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	木 1	1	2	全	56
Comprehensive English III	N. H. ジョスト	春	水 2	1	2	全	57
Comprehensive English IV	N. H. ジョスト	秋	水 2	1	2	全	57
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木 3	1	2	全	58
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木 3	1	2	全	58
Comprehensive English III	バーナード クリストファ	春	月 4	1	2	全	59
Comprehensive English IV	バーナード クリストファ	秋	月 4	1	2	全	59
E-learning I	倉林 秀男	春	月 5	1	1	全	60
E-learning II	倉林 秀男	秋	月 5	1	1	全	60

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	N. H. ジョスト	春秋	月2	2	2	全	61
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Social Inequality & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	全	62
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原 宏之	春秋	月3	2	2	全	63
英語専門講読Ⅰ (生成英語統語論への誘い)	鈴木 英一	春のみ	月3	2	2	全	64
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国のアフリカ系アメリカ人の文化 / 米国のラティーノ文化)	三吉 美加	春秋	月3	2	2	全	65
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー文化を読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	全	66
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	月5	2	2	全	67
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春秋	火1	2	2	全	68
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	火1	2	2	全	69
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビデオゲーム研究 / ロラン・バルトの記号論)	松本 健太郎	春秋	火1	2	2	全	70
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの理論)	工藤 和宏	春秋	火2	2	2	全	71
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディスコース分析)	佐藤 芳明	春秋	火2	2	2	全	72
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ツーリズム研究の現代的課題 / ツーリズム研究の方法と理論)	鈴木 涼太郎	春秋	火2	2	2	全	73
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語教育・SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	全	74
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (子どもの言葉獲得／外国語習得 音の中心に)	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2	全	76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野 康子	春秋	火3	2	2	全	77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化理解の基礎と応用)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	全	78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代東南アジア諸国の経済・政治)	金子 芳樹	春秋	火4	2	2	全	79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史／米国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	全	80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	全	81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (映画批評)	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2	全	82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2	全	83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	水2	2	2	全	84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	春秋	水2	2	2	全	85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	水2	2	2	全	86

学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講 区分	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語でグローバル社会を語る)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	全	87
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2	全	88
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声が「言語音」となるしくみ)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	全	89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	木1	2	2	全	90
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (History of International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	全	91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ツーリズムの現状と課題 / The Leaders of Airline Business)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	全	92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (小さき人々の歴史——変化する英国社会を読む)	上野 直子	春秋	木3	2	2	全	93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビートに関する散文を読む)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	全	94
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木3	2	2	全	95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (通訳訓練のための原書講読)	柴原 早苗	春秋	木3	2	2	全	96
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	木3	2	2	全	97
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (観光研究入門 / ツーリズム人類学入門)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	全	98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩——Gary Snyder詩集 <i>Regarding Wave</i> を読む)	原 成吉	春秋	木3	2	2	全	99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバル・イシューズを考える)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	全	100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (動詞の意味と文法)	小早川 暁	春秋	木4	2	2	全	101
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリスの移民の物語)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	全	102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	金2	2	2	全	103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国のポピュラー・ナショナリズム ① / 米国のポピュラー・ナショナリズム ②)	板場 良久	春秋	金3	2	2	全	104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	高木 綾	春秋	金3	2	2	全	105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野 収	春秋	金4	2	2	全	106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国及び中国の対外政策決定過程)	高木 綾	春秋	金5	2	2	全	107

学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語の世界Ⅱ	府川 謹也	春	金1	2	2	全	109
英語の世界Ⅱ	府川 謹也	秋	火5	2	2	全	109
観光英語Ⅰ	日野 克美	春	木2	2	2	英	110
観光英語Ⅱ	日野 克美	秋	木2	2	2	英	110
通訳案内士の英語Ⅰ	日野 克美	春	木1	2	2	英	111
通訳案内士の英語Ⅱ	日野 克美	秋	木1	2	2	英	111
Business Writing	各担当教員	春		2	2	英	112
Business Writing	各担当教員	秋		2	2	英	112
Academic Writing	K. ミーハン	春	月2	2	2	全	113
Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	全	114
Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	全	114
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	115
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	115
Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	116
Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	116
Academic Writing	D. ベーカー	春	火4	2	2	全	117
Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	全	118
Academic Writing	C. B. 池口	春	水2	2	2	全	119
Academic Writing	C. B. 池口	秋	水2	2	2	全	119
Academic Writing	T. ミニオン	春	木2	2	2	全	120
Academic Writing	T. ミニオン	秋	木2	2	2	全	120
Academic Writing	D. ヴェラスコ	春	木3	2	2	全	121
Academic Writing	D. ヴェラスコ	秋	木3	2	2	全	121
Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	全	122
Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	全	122
Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	全	123
Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	全	123
翻訳Ⅰ	高田 宣子	春	火5	2	2	全	124
翻訳Ⅰ	高田 宣子	秋	火5	2	2	全	124
翻訳Ⅰ	上野 直子	秋	水2	2	2	全	125
翻訳Ⅰ	山中 章子	春	水5	2	2	全	126
翻訳Ⅰ	山中 章子	秋	水5	2	2	全	126
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	全	127
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	全	127
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	全	128
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	全	128
翻訳Ⅰ	田村 斉敏	春	金4	2	2	全	129
翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	水4	2	2	全	130
翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	水3	2	2	全	130
翻訳Ⅱ	白川 貴子	春	水3	2	2	全	131
翻訳Ⅱ	白川 貴子	秋	水3	2	2	全	131
College Grammar	靱江 静	春	月2	2	2	全	132
College Grammar	靱江 静	秋	月2	2	2	全	132
College Grammar	河原 宏之	春	月5	2	2	全	133
College Grammar	河原 宏之	秋	月5	2	2	全	133
College Grammar	小早川 暁	春	火3	2	2	全	134
College Grammar	佐藤 芳明	春	火3	2	2	全	135
College Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	2	2	全	135
College Grammar	鈴木 英一	春	水1	2	2	全	136
College Grammar	河原 宏之	春	水2	2	2	全	137
College Grammar	河原 宏之	秋	水2	2	2	全	137
College Grammar	靱江 静	秋	金2	2	2	全	138
College Grammar	田川 憲二郎	春	金2	2	2	全	139
College Grammar	田川 憲二郎	秋	金2	2	2	全	139
College Grammar	府川 謹也	春	金2	2	2	全	140
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	全	140
College Grammar	靱江 静	春	金3	2	2	全	141
College Grammar	靱江 静	秋	金3	2	2	全	141

学科共通科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
2013 年度以降入学者	Communication Skills	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	全	142
	Communication Skills	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	全	142
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	143
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	143
	Communication Skills	D. グライムズ	秋	月4	2	2	全	144
	Communication Skills	A. ジョーンズ	春	月2	2	2	全	145
	Communication Skills	A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	全	145
	Communication Skills	R. ダラム	春	火2	2	2	全	146
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火2	2	2	全	146
	Communication Skills	D. ベーカー	秋	火4	2	2	全	147
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	148
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	148
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	149
	Communication Skills	D. マッキャン	春	木2	2	2	全	150
	Communication Skills	D. マッキャン	秋	木2	2	2	全	150
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	全	151
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	全	151
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	全	152
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	152
	Communication Skills	M. ダーリン	春	木5	2	2	全	153
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	木5	2	2	全	153
	Communication Skills	K. ミーハン	春	金1	2	2	全	154
	Communication Skills	K. ミーハン	秋	金1	2	2	全	154
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	155
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	155
	Communication Skills	K. フォード	春	金3	2	2	全	156
	Communication Skills	K. フォード	秋	金3	2	2	全	156
	Communication Skills	未定	秋		2	2	全	157
2012 年度以前入学者	Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	全	142
	Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	全	142
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	143
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	143
	Communicative English	D. グライムズ	秋	月4	2	2	全	144
	Communicative English	A. ジョーンズ	春	月2	2	2	全	145
	Communicative English	A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	全	145
	Communicative English	R. ダラム	春	火2	2	2	全	146
	Communicative English	R. ダラム	秋	火2	2	2	全	146
	Communicative English	D. ベーカー	秋	火4	2	2	全	147
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	148
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	148
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	149
	Communicative English	D. マッキャン	春	木2	2	2	全	150
	Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	2	2	全	150
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	151
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	151
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	全	152
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	152
	Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	全	153
	Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	全	153
	Communicative English	K. ミーハン	春	金1	2	2	全	154
	Communicative English	K. ミーハン	秋	金1	2	2	全	154
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	155
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	155
	Communicative English	K. フォード	春	金3	2	2	全	156
	Communicative English	K. フォード	秋	金3	2	2	全	156
	Communicative English	未定	秋		2	2	全	157

学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	全	158
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	全	158
Discussion	K. ミーハン	秋	月2	2	2	全	159
Discussion	L. K. ハーキンス	春	月4	2	2	全	160
Discussion	N. H. ジョスト	春	水1	2	2	全	161
Discussion	N. H. ジョスト	秋	水1	2	2	全	161
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	全	162
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	全	162
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	163
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	163
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	全	164
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	全	164
Public Speaking I	D. マッキー	春	水4	2	2	全	165
Public Speaking I	D. マッキー	秋	水4	2	2	全	165
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	全	166
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	全	166
Debate I	D. グライムズ	春	月4	2	2	全	167
Debate I	N. H. ジョスト	春	火1	2	2	全	168
Debate II	N. H. ジョスト	秋	火1	2	2	全	168
1 Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	春	火4	2	2	全	169
3 Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	秋	火4	2	2	全	169
年 Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水3	2	2	全	170
度 Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	全	170
以降 英語の音声	青柳 真紀子	春	火2	2	2	全	171
以降 英語の音声	青柳 真紀子	秋	火2	2	2	全	171
通訳 I	柴原 早苗	春	木1	2	2	全	172
通訳 I	柴原 早苗	秋	木1	2	2	全	172
通訳 I	中島 直美	春	金1	2	2	全	173
通訳 I	中島 直美	秋	金1	2	2	全	173
通訳 I	中島 直美	春	金2	2	2	全	174
通訳 I	中島 直美	秋	金2	2	2	全	174
通訳 II	柴原 早苗	春	木2	2	2	全	175
通訳 II	柴原 早苗	秋	木2	2	2	全	175
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	全	182
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	全	182
メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	2	2	全	183
メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	2	2	全	183
メディア英語 I	中田 ひとみ	春	水5	2	2	全	184
メディア英語 I	中田 ひとみ	秋	水5	2	2	全	184
メディア英語 I	国見 晃子	春	木2	2	2	全	185
メディア英語 I	国見 晃子	秋	木2	2	2	全	185
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	2	全	186
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	2	全	186
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	全	187
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	全	187
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金3	2	2	全	188
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金3	2	2	全	188
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	189
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	189
メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	2	2	全	190
メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	2	2	全	190
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	全	191
メディア英語 II	P. ネルム	秋	金2	2	2	全	191
シネマ英語	高田 宣子	春	火4	2	2	全	192
シネマ英語	高田 宣子	秋	火4	2	2	全	192
シネマ英語	国見 晃子	春	木4	2	2	全	193
シネマ英語	国見 晃子	秋	木4	2	2	全	193
シネマ英語	靱江 静	春	金2	2	2	全	194
シネマ英語	田村 斉敏	秋	金4	2	2	全	195

学科専門科目

ツーリズム

科目名	担当者	開講 学期	曜	時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ツーリズム交流論	鈴木 涼太郎	秋	木	5	2	2	英	196
ツーリズム・リスク論	竹田 いさみ	春	月	3	2	2	全	197
ツーリズム文化論	鈴木 涼太郎	秋	火	3	2	2	外	198
ツーリズム・マネジメント論	鈴木 涼太郎	春	火	3	2	2	外	199
国際会議・イベント事業論	井上 泰日子	秋	月	1	2	2	外	200
ツーリズム政策論	井上 泰日子	秋	月	3	2	2	外	201
旅行・宿泊産業論	井上 泰日子	秋	木	4	2	2	外	202
航空産業論	井上 泰日子	春	月	3	2	2	外	203
サステナブル・ツーリズム論	2014年度不開講							
市民参加のまちづくり論(2012年度以前入学者)/ 地域開発論(2013年度以降入学者)	北野 収	春	金	3	2	2	外	204
オルタナティブ・ツーリズム論	須永 和博	秋	金	5	2	2	外	205
ツーリズム人類学	須永 和博	春	金	5	2	2	外	206
ツーリズム地誌論(2012年度以前入学者)/ ツーリズム特殊講義(ツーリズム地誌論)(2013年 度以降入学者)	須永 和博	秋	金	4	2	2	全	207
フィールドワーク論	須永 和博	春	金	4	2	2	全	208
インターンシップ	井上 泰日子	春	木	4	2	2	全	209
ツーリズム・メディア論(2012年度以前入学者)/ ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論) (2013年度以降入学者)	倉澤 治雄	秋	金	1	2	2	全	210

トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講 学期	曜	時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋 雄一郎	春	木	5	2	2	英	211
トランスナショナル・メディア論	倉澤 治雄	秋	金	2	2	2	英	212
表象文化論	高橋 雄一郎	春	木	4	2	2	外	213
開発文化論	北野 収	春	金	3	2	2	外	214
トランスナショナル社会学	北野 収	秋	金	2	2	2	外	215
食の文化論	北野 収	春	金	2	2	2	外	216
パフォーマンス研究(2012年度以前入学者)/ トランスナショナル文化特殊講義(パフォーマンス 研究)(2013年度以降入学者)	高橋 雄一郎	秋	木	4	2	2	外	217
トランスナショナル文化特殊講義(トランスナショ ナルな公共圏を求めて)(2013年度以降入学者)	高橋 雄一郎	秋	木	5	2	2	外	218
英語圏のエリア・スタディーズa	佐藤 唯行	春	火	2	2	2	全	219
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水	4	2	2	全	219
ヨーロッパの文化(フランスの美術Ⅰ)	阿部 明日香	春	水	1	2	2	全	220
ヨーロッパの文化(フランスの美術Ⅱ)	阿部 明日香	秋	水	1	2	2	全	220
ヨーロッパの文化(ドイツ語概論a)	柿沼 義孝	春	金	4	2	2	全	221
ヨーロッパの文化(ドイツ語概論b)	柿沼 義孝	秋	金	4	2	2	全	221
ヨーロッパの文化(フランスの音楽Ⅰ)	松橋 麻利	春	木	2	2	2	全	222
ヨーロッパの文化(フランスの音楽Ⅱ)	松橋 麻利	秋	木	2	2	2	全	222
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏文学・思想概論a)	矢羽々 崇	春	火	1	2	2	全	223
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏文学・思想概論b)	矢羽々 崇	秋	火	1	2	2	全	223
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏芸術・文化概論a)	山本 淳	春	木	1	2	2	全	224
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏芸術・文化概論b)	山本 淳	秋	木	1	2	2	全	224

学科専門科目

グローバル社会

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火 3	2	2	全	225
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火 3	2	2	全	225
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火 3	2	2	全	226
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火 3	2	2	全	226
国際協力論	竹田 いさみ	秋	月 3	2	2	全	227
国際開発論	金子 芳樹	春	火 2	2	2	全	228
国際交流論	小松 諄悦	春	金 2	2	2	全	229
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火 2	2	2	全	230
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月 2	2	2	全	231
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月 2	2	2	全	231
グローバル・ヒストリーa（2013年度以降入学者）	水本 義彦	春	木 2	2	2	全	232
グローバル・ヒストリーb（2013年度以降入学者）	水本 義彦	秋	木 2	2	2	全	232
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	佐野 康子	春	火 4	2	2	全	233
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	小松 諄悦	秋	金 2	2	2	全	234
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	永野 隆行	秋	木 3	2	2	全	235
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	伊藤 兵馬	秋	木 4	2	2	全	236
グローバル社会文献セミナー	2014年度不開講						
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	尾玉 剛士	春	月 2	2	2	全	237
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	尾玉 剛士	秋	月 2	2	2	全	237
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	廣田 愛理	春	水 2	2	2	全	238
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	廣田 愛理	秋	水 2	2	2	全	238
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論a)	古田 善文	春	木 5	2	2	全	239
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論b)	古田 善文	秋	木 5	2	2	全	239

第二外国語(英語プラス1言語)

言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	241
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	241
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	242
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	242
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本 勝好	春	金4	1	1	全	243
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本 勝好	秋	金4	1	1	全	243
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	244
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	244
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	245
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	245
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村 行子	春	火2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村 行子	秋	火2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIIa 応用)	E. ビリック	春	火1	1	3	全	247
	ドイツ語(IIIb 応用)	E. ビリック	秋	火1	1	3	全	247
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	横地 卓哉	春	月1	1	1	全	248
	フランス語(Ib 総合1)	横地 卓哉	秋	月1	1	1	全	248
	フランス語(Ia 総合2)	S. ジュンタ	春	火4	1	1	全	249
	フランス語(Ib 総合2)	S. ジュンタ	秋	火4	1	1	全	249
	フランス語(Ia 応用)	平井 康和	春	金4	1	1	全	250
	フランス語(Ib 応用)	平井 康和	秋	金4	1	1	全	250
	フランス語(IIa 総合1)	富塚 真理子	春	金2	1	2	全	251
	フランス語(IIb 総合1)	富塚 真理子	秋	金2	1	2	全	251
	フランス語(IIa 総合2)	Ch. ペリセロ	春	火2	1	2	全	252
	フランス語(IIb 総合2)	Ch. ペリセロ	秋	火2	1	2	全	252
	フランス語(IIa 応用)	竹内 久雄	春	月2	1	2	全	253
	フランス語(IIb 応用)	竹内 久雄	秋	月2	1	2	全	253
	フランス語(IIIa 応用)	Ch. ペリセロ	春	火1	1	3	全	254
	フランス語(IIIb 応用)	Ch. ペリセロ	秋	火1	1	3	全	254
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	児島 峰	春	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ia 総合1)	柴田 バネッサ	春	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ib 総合1)	児島 峰	秋	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ib 総合1)	柴田 バネッサ	秋	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井 道子	春	木2	1	1	全	256
	スペイン語(Ia 総合2)	篠崎 英樹	春	金4	1	1	全	256
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井 道子	秋	木2	1	1	全	256
	スペイン語(Ib 総合2)	篠崎 英樹	秋	金4	1	1	全	256
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリストイン	春	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリストイン	秋	月1	1	1	全	257
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	258
	スペイン語(IIa 会話1)	J. マルティネス	春	金2	1	2	全	258
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	258
	スペイン語(IIb 会話1)	J. マルティネス	秋	金2	1	2	全	258
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリストイン	春	金3	1	2	全	259
	スペイン語(IIa 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	春	火2	1	2	全	259
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリストイン	秋	金3	1	2	全	259
	スペイン語(IIb 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	秋	火2	1	2	全	259
	スペイン語(IIa 総合)	北岸 団	春	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIa 総合)	高橋 睦	春	金3	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 総合)	北岸 団	秋	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 総合)	高橋 睦	秋	金3	1	2	全	260

第二外国語(英語プラス1言語)

言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
スペイン語	スペイン語(IIIa 応用)	落合 佐枝	春	木1	1	3	全	261
	スペイン語(IIIa 応用)	中村 都珠子	春	水4	1	3	全	261
	スペイン語(IIIb 応用)	落合 佐枝	秋	木1	1	3	全	261
	スペイン語(IIIb 応用)	中村 都珠子	秋	水4	1	3	全	261
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	阿邊 淳	春	木2	1	1	全	262
	中国語(Ib 講読・文法)	阿邊 淳	秋	木2	1	1	全	262
	中国語(Ia 会話1)	張 亜紅	春	月1	1	1	全	263
	中国語(Ib 会話1)	張 亜紅	秋	月1	1	1	全	263
	中国語(Ia 会話2)	蔡 曉軍	春	金4	1	1	全	264
	中国語(Ib 会話2)	蔡 曉軍	秋	金4	1	1	全	264
	中国語(IIa 講読・文法)	阿邊 淳	春	火2	1	2	全	265
	中国語(IIb 講読・文法)	阿邊 淳	秋	火2	1	2	全	265
	中国語(IIa 会話1)	星野 芳欣	春	月2	1	2	全	266
	中国語(IIb 会話1)	星野 芳欣	秋	月2	1	2	全	266
	中国語(IIa 会話2)	秦 敏	春	金3	1	2	全	267
	中国語(IIb 会話2)	秦 敏	秋	金3	1	2	全	267
	中国語(IIIa 応用)	阿邊 淳	春	木1	1	3	全	268
	中国語(IIIb 応用)	阿邊 淳	秋	木1	1	3	全	268
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森 勇俊	春	土1	1	1	全	269
	韓国語(Ib 総合1)	森 勇俊	秋	土1	1	1	全	269
	韓国語(Ia 総合2)	森 勇俊	春	土2	1	1	全	270
	韓国語(Ib 総合2)	森 勇俊	秋	土2	1	1	全	270
	韓国語(Ia 応用)	沈 元燮	春	木2	1	1	全	271
	韓国語(Ib 応用)	沈 元燮	秋	木2	1	1	全	271
	韓国語(IIa 総合1)	柳 蓮淑	春	月2	1	2	全	272
	韓国語(IIb 総合1)	柳 蓮淑	秋	月2	1	2	全	272
	韓国語(IIa 総合2)	柳 蓮淑	春	火2	1	2	全	273
	韓国語(IIb 総合2)	柳 蓮淑	秋	火2	1	2	全	273
	韓国語(IIa 応用)	白 寅英	春	金3	1	2	全	274
	韓国語(IIb 応用)	白 寅英	秋	金3	1	2	全	274
	韓国語(IIIa 応用)	金 泰植	春	火1	1	3	全	275
	韓国語(IIIb 応用)	金 泰植	秋	火1	1	3	全	275

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	高橋 輝暁	春	水3	2	1	養・経・法	277
総合講座	高橋 輝暁	秋	水3	2	1	養・経・法	277
総合講座	廣田 愛理	春	月2	2	1	養・経・法	278
総合講座	廣田 愛理	秋	月2	2	1	養・経・法	278
情報科学概論a	吳 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	279
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	281
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	281
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	282
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	283
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	284
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	284
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	285
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	286
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	286
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	287
(言語情報処理1)	休講						
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	287
(言語情報処理2)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	288
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	288
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	288
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	288
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	289
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	290
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	290
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	291
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	291

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
 ※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

09 年度以降	交流文化概論 i	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、ツーリズムを研究する際の基本的な視座を身につけるための入門科目であり、交流文化学科の全教員によるオムニバス形式で行なわれる。 交流文化学科では、「人と文化の越境現象＝ツーリズム」という理解に基づき、ツーリズムに関する学究の対象を狭義の観光産業に限定することなく、さらには観光現象を人類学・社会学的に研究するいわゆる観光研究の範囲をも超えた、多様な視点からの学びを重視している。 以上の学科理念を踏まえ、本授業では、以下の3点を主たる目的とする。 ①ツーリズムをみる多様な視点の存在を知ること。 ②ツーリズムという現象を通して、国内外を問わず人間社会における文化的営みや政治経済の諸相について思考する態度を養うこと ③現実を理解し、知を生み出す作法としてのディシプリン（学問分野）の多様性を理解すること。		1. オリエンテーション（鈴木涼太郎） 2. ツーリズム研究への誘い（鈴木涼太郎） 3. ツーリズム史（鈴木涼太郎） 4. ツーリズムと文化①（鈴木涼太郎） 5. ツーリズムと文化②（須永和博） 6. ツーリズムと文学（島田啓一） 7. ツーリズムとパフォーマンス研究（高橋雄一郎） 8. ツーリズムと言語①（府川謹也） 9. ツーリズムと言語②（日野克美） 10. 外国人からみたツーリズム（N.H.ジョスト） 11. ツーリズムと農業・農村（北野収） 12. ツーリズムと外交・国際関係（永野隆行） 13. ツーリズムと経済政策・観光産業（井上泰日子） 14. ツーリズムと航空産業（井上泰日子） 15. まとめ（鈴木涼太郎）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に定めない。授業毎に参考文献リストを配布する。		授業毎に行なわれる小レポートおよび小テスト（100%）。ただし、欠席回数が4回以上の者は単位認定の資格を失うので注意すること。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	北野 収 須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
「トランスナショナル（越境的）」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「発展」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、思考を深めます。 前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。 後半は、グローバル～ナショナル～ローカルというフレームに基づき、近代化・発展、南北問題、国家と地域社会、戦後日本の開発経験などの問題について、社会学的な観点から考察を行い、現場から世界を捉え直すことの重要性について理解を深めます。		1. ガイダンス 2. 自己紹介—人類学・観光・タイ（須永） 3. 人類学的文明批評の可能性—映画『コイサンマン』から考える（須永） 4. Covering Other Cultures—アイヌ・パレスチナを中心に（須永） 5. 混淆する文化—アフロ・アメリカン文化（須永） 6. 日本のなかの外国人 1—中華街からみる華人・華僑文化（須永） 7. 日本のなかの外国人 2—日本のなかの「ブラジル空間」（須永） 8. 開発と私（達）のまなざし：自己紹介を兼ねて（北野） 9. 国際開発史概論（北野） 10. 貧困と豊かさについて考える（北野） 11. 国際協力と南へのまなざし（北野） 12. グローバル化の光と影（北野） 13. 日本の開発経験（北野） 14. まとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に定めない。		期末試験で評価する。ただし、期末試験の受験資格は欠席回数が4回未満の者に限る。	

09 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを、「戦争」について考えることを通じて理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。 2～3週間に一回程度、国際情勢に関心を持ってもらうために、新聞記事から面白そうなものをピックアップして紹介し、その記事について一緒に考える時間を30分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。 授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。 この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。 なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。		- 第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス - 第2回：グローバリゼーションとは何か？ - 第3回：国際関係論はなぜ生まれたのか？ - 第4回：国際関係における個人・国家 ～個人と国家の安全と国際関係の安定 - 第5回：戦争とは何か①その定義 - 第6回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争 - 第7回：戦争とは何か③戦争と国家 ～戦争は何をもたらすのか - 第8回：戦争とは何か④戦争観の変化 ～正戦論、無差別戦争観、人道的介入 - 第9回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ～オバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから - 第10回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ～21世紀の紛争の特徴とは何か - 第11回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ～「現代の傭兵」民間軍事会社（PMC）の登場 - 第12回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ～オバマ米大統領の「核なき世界」演説から - 第13回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ～構造的暴力のない世界を目指して - 第14回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家 - 第15回：まとめ（質疑応答）& 国際関係をさらに学ぶには	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。		不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 大学で何を、いかに勉強し、どのように発表（レポート、論文、口頭発表）していくか、大学での学びの基礎をしっかりと身につけると共に、少人数の演習（ゼミ）型のクラスで、活発なディスカッションをおこなうこと。 【講義概要】 図書館やデータベースを使ったリサーチの仕方、レポートや論文の書き方、文献一覧表の作成の仕方などを学び、授業中で口頭発表（プレゼンテーション）をおこなうと共に、秋学期末までに完成させるリサーチの準備をする。題材としては主に、移民や難民、その他のマイノリティ集団、社会的弱者を念頭に、多文化共生、文化多様性について考える。		1. インTRODakション 2. 講義・発表・ディスカッションの組み合わせ 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ 他に「図書館ガイダンス」が一度実施されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門第2版』（慶應義塾大学出版会） 『まんが・クラスメイトは外国人—多文化共生20の物語』（明石書店）		授業内での発表、小レポート、学期末レポートによる。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。 各個人でリサーチを完成させ、口頭発表（プレゼンテーション）をおこなうと共に、論文形式で提出する。		1. インTRODakション 2. 講義・発表・ディスカッションの組み合わせ 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期のテキストに加え、プリントなど。		春学期に同じ。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 交流文化学科 1 年生のゼミ形式の必修科目です。大学ではどのように勉強したらよいかを、実際に自分でテーマを探し、それについて調べ、自分自身の考えをまとめて発表し、他の学生と討論することにより学んでいく授業です。基本的なアカデミック・スキル(大学で学ぶ技能)を身につけ、プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方の基本について学び、実習するのが、この授業の目的です。 講義概要 まず、基本的なアカデミック・スキル(Study Skills)について学びます。次に、毎週、課題文献を読み、レジュメを作成し、グループで順番にプレゼンテーションをしてもらいます。質疑応答のあと、プレゼンに対してのリアクション・ペーパーを作成、提出してもらいます。最後に、レポートの書き方について解説し、プレゼンをしたテーマに関係するレポートを書いて提出してもらいます。		1. クラスガイダンス(1): 春学期の授業計画他 2. クラスガイダンス(2): クラスメートを知る 3. クラスガイダンス(3): クラスメートを紹介する 4. スタディ・スキルズ (1) 5. スタディ・スキルズ (2) 6. スタディ・スキルズ (3) 7. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(1) 8. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(2) 9. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(3) 10. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(4) 11. 文献を読み、レジュメを作成、発表する(5) 12. アカデミック・ライティングの基本(1) 13. アカデミック・ライティングの基本(2) 14. 引用の仕方(1) 15. 引用の仕方(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介		授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「基礎演習 I」の継続です。交流文化やツーリズムに関するトピックをグループや個人で調査・研究して、それらをクラスメートの前で発表し、さらにそれらについて討論をすることを通じて、学問への取り組み方を身につけていきます。 講義概要 各自が、交流文化やツーリズムに関するテーマを選び、プレゼンテーションをしてもらいます。発表者以外は、毎週のプレゼンに対するリアクション・ペーパーを提出してもらいます。そして、学期末に、各自が、プレゼンテーションを発展させたレポートを作成し、提出します。		1. プレゼンのオリエンテーション 2. プレゼンテーション・スキルズ(1) 3. プレゼンテーション・スキルズ(2) 4-14. 個人プレゼンテーション(毎週 2 名程度)とリアクション・ペーパーの提出 15. まとめとレポートについて	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介		授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の基礎演習では、大学における最低限のスタディスキルを身につけることを最大の目標とし、原則として教科書に準拠しながら、文献の読み方、要約の仕方、図書館の活用法、レポートの書き方、引用ルールなどについて学習します。基本的に講義形式となります。		1. クラスガイダンス 2. 全体ガイダンス 3. 自己紹介、MLづくり 4. 大学と高校の違い、スタディスキルズとは 5. ノート・テイキング 6. リーディングの基本スキル 7. より深いリーディングのために 8. 文を読んで要約する 9. 図書館ガイダンス ※日程は前後する可能性あり 10. 作文とレポートの違いとは 11. アカデミック・ライティングの基本スキル① 12. アカデミック・ライティングの基本スキル② 13. 引用ルール① 14. 引用ルール② 15. 全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO 等で各自で購入して下さい。		授業内活動参加（60%）、提出物（40%）、受講態度（±α） 欠席・遅刻が4回以上の者は評価対象とならない。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の基礎演習では、グループ・ワークによるレジメ作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより学習を進めていきます。とりあげる題材は、社会・文化のトランスナショナル化に関するものとし、1年間の学習の総括とします。		1. 授業の進め方について 2. 専門文献を読んでレジメにまとめる① 3. 専門文献を読んでレジメにまとめる② 4. 専門文献を読んでレジメにまとめる③ 5. 専門文献を読んでレジメにまとめる④ 6. 専門文献を読んでレジメにまとめる⑤ 7. 質問を考える、問いをたてるということ 8. プレゼン資料を作成し口頭で発表する① 9. プレゼン資料を作成し口頭で発表する② 10. プレゼン資料を作成し口頭で発表する③ 11. プレゼン資料を作成し口頭で発表する④ 12. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑤ 13. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑥ 14. 留学について、キャリア形成について 15. 全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO 等で各自で購入して下さい。		授業内活動参加（60%）、提出物（40%）、受講態度（±α） 欠席・遅刻が4回以上の者は評価対象とならない。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 春学期の基礎演習では、講義と演習を織り交ぜながら図書館を利用した文献検索の方法や、レポートやレジュメなどを用いた研究発表などの基本的な作法について学ぶ。授業順は使用施設の都合などにより入れ替わることがある。		1、ガイダンス 2、学びのマナー 3、講義の受け方 4、大学での学びとキャリア 5、図書館ガイダンス 6、レポートの書き方① 7、レポートの書き方② 8、レジュメを使った発表① 9、レジュメを使った発表② 10、レジュメを使った発表③ 11、レジュメを使った発表④ 12、ディスカッションの基礎① 13、ディスカッションの基礎① 14、期末課題準備 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業内小課題 60% 期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 秋学期の基礎演習では、春学期の作業を踏まえながらグループ、個人で大テーマのもと課題を各自設定し、研究プロジェクトに取り組む。文献・資料の収集からプレゼンテーションの準備までを行い、授業後半ではクラス内で発表を行う。		1、ガイダンス 2、研究プロジェクトの進め方 3、文献・資料収集① 4、文献・資料収集② 5、課題発表① 6、課題発表② 7、課題発表③ 8、文献・資料収集③ 9、文献・資料収集④ 10、文献・資料収集⑤ 11、課題発表④ 12、課題発表⑤ 13、課題発表⑥ 14、課題発表⑦ 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業内小課題 60% 期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成技法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題に関する小研究を行なってもらおう。 小研究で扱うトピックは多岐にわたるが、現在のところ「世界の食文化」「世界の観光事情」「身近なものから考えるグローバリゼーション」などを予定している。小研究のトピックは、受講生の関心・能力等によって変更する可能性がある。詳細については、初回授業で説明する。 また週末や夏季休業等を利用した課外授業を実施することもある（実費負担）。		1. 全体ガイダンス 2. 個別趣旨説明・自己紹介・グループ分け 3. 講義 2：研究とは何か 4. 講義 3：文献資料収集の作法 5. 講義 4：文献資料の読解・引用の流儀 6. 講義 5：フィールドワークの技法 7. 講義 6：プレゼンテーション・レポート作成技法 8～10 回：グループワークによる小研究 11～15 回：小研究の成果発表 （授業計画はあくまで目安ですので、変更になる可能性があります）	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤望ほか（編）2006『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会		小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。		1. ガイダンス 2～14 回 プレゼンテーション 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に定めない。		小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。 講義概要 それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。 公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。		第 1 回：導入——文学とは？文化とは？ 第 2 回：死生観——生きるための視点から 第 3 回：人種 1——ケルト人 第 4 回：人種 2——ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare 1 第 9 回：Shakespeare 2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第 11 回：小説の誕生——社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：James Joyce ——20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ——文学と人間	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。	

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。 講義概要 それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。 公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。		第 1 回：導入——文学とは？文化とは？ 第 2 回：死生観——生きるための視点から 第 3 回：人種 1——ケルト人 第 4 回：人種 2——ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare 1 第 9 回：Shakespeare 2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第 11 回：小説の誕生——社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 1 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：James Joyce ——20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ——文学と人間	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。	

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論（春 木 4）	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。 1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。 2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。 3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。 4. あらゆる現実・フィクションには、いくつかの側面があることに敏感になろう。 なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。		第 1 回：言葉のちから。英語圏とは。英語とは何か。 第 2 回：社会・文学・テクノロジー 第 3 回：語る・聞く文学から読む文学へ 第 4 回：帝国と小説 第 5 回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i> （1） 第 6 回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i> （2） 第 7 回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i> （1） 第 8 回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i> （2） 第 9 回：文化「産業」としての文学 第 10 回：ポストコロニアル文学の登場 第 11 回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i> （1） 第 12 回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i> （2） 第 13 回：ディアスポラと言葉という故郷 第 14 回：英語作家とは？ 第 15 回：グローバル文学の視点	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		授業内活動参加度（コメントペーパーなど）40% 試験 60%	

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論（春 木 4）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
文学コースの入門編の授業です。「文学」というとカタい感じかもしれませんが、物語、小説、歌詞、漫画、映画など、言葉を（一部であれ）使った芸術に、私たちは多かれ少なかれ影響を受けながら生きています。この講義では、そんな「文学」を改めて見直してみましよう。日頃エンターテインメントとして楽しんで消費しておしまい、ということが多いかかもしれませんが、「文学」は時代や社会や権力との応答の中で書かれ、けっこう必死になって自己表現に努めてきた、ということを実感してほしいです。 「英語圏」といっても多様ですが、この講義で扱うのは、16世紀から20世紀にかけて、「イギリス」において英語で書かれた文学作品です。担当者（片山）はストーリーの構成をなるべく原文の肌触りもふくめて伝えます。抜粋を原文で読んだり、映像を見てもらうこともします。受講者のみなさんには、授業中に作品を朗読したり、感想を発言してもらいます。		1. はじめに 2～3. シェイクスピアの世界 William Shakespeare, <i>Macbeth</i> 4～5. 教養？ 恋愛？ Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> 6～8. ヴィクトリア時代への反逆 Charlotte Brontë, <i>Jane Eyre</i> 9～10. ルイス・キャロルとノンセンス文学 Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland</i> 11～12. ピーター・パンと男性問題 J.M. Barrie, <i>Peter and Wendy</i> 13. 格差社会への醒めた視線 Alan Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner" 14～15 まとめ (扱う作品は一部変更することがあります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントを配布 参考文献は適宜授業中に提示		授業内の課題約 3 割、学期末試験約 7 割。ただし授業回数 の 2/3 を越えて欠席した場合、評価対象としない。	

09 年度以降	英語の世界 I	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 英語学(English linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識(単語の意味・イントネーション・語法・構文)のうちで間違っ習った点を正しながら、さらに一步掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説します。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わりますが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになります。 [概要] 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそう言ってもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、認知文法の成果を踏まえ、その観点から説明することを試みます。 ※必修科目ですが、予習・復習ができないひとにはきつい授業になることを覚悟しておいてください。		1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 日常言語の中の比喻 4. 多義語の意味も比喻によってつながる 5. 続き 6. 英語の基本構造(自動詞/他動詞構文・受動態の意味) 7. 続き (have と be のイメージ・二重目的語構文) 8. 英語の情報構造 9. a と the の使い方 10. 名詞の2つの用法—可算・不可算の区別はあるの？ 11. 時制の表現法—未来時制はあるの？ 12. 単純・進行・完了相の概念 13. 過去形と丁寧表現 14. 否定の意味 15. 前置詞の意味 ※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第1回目の授業で提示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： ①今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社 ②ポータルサイト PorTa で配布するプリント		最終成績は平常テストと課題と定期試験によって決まります。	

09 年度以降	英語の世界 I (再)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
「そうか、それなら分かる！」「そんなにやさしかったのか！」「じゃ、使ってみよう！」と思ってもらうのが、この授業のねらいである。英語を発想の次元から捉え直すことによって、英語への苦手意識や嫌悪感を払拭し、英語にふれる楽しさを少しでも実感してもらえたらと願っている。 具体的には、テキストである『イメージで捉える感覚英文法』の内容に沿って、そこに出てくる例文を発想の次元から分かり易く解説していく。必要に応じて、他の参考文献や資料を使って、適宜、イメージしやすい例を追加していきたい。 この授業の最大の特徴は、意味的動機づけ (semantic motivation) とイメージを大切にすること。つまり、「なぜそう言うのか？」を徹底的に問うて、可能な限り納得できる理解を得ること、そして、身体感覚的に納得できるように英文法を身につけることである。 講義中心を想定しているが、参加者にも、発表してもらう機会が作れないものかと、思案しているところである。		1. 導入：基本語のイメージから文法を捉える 2. 和訳は英語をわからなくする？ 3. コミュニケーションに必要な文法とは？ 4. 訳すことで生ずる誤解 5. 日常言語の中の比喻 6. 多義語の意味も、比喻によってつながっている 7. 形と意味 I (英語の基本構造) 8. a と the の使い方 9. 名詞の二つの用法 (加算と不加算) 10. 時制の表現法 11. 相の概念 (単純・進行・完了) 12. 過去形と丁寧表現 13. 動詞の二つの用法 (動作と状態) 14. 形と意味 II (並置) 15. 形と意味 III (倒置) ※上の内容は、クラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』(開拓社)。 参考文献：田中茂範『表現英文法 Grammar For Communication』(コスモピア)、その他、必要に応じて授業で適宜紹介する。		授業時の真剣な参加態度等＝80%、オンライン教材＝20%で、評価する。再履修故、出席は通常より厳しく見る。	

09 年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、大学では、海外の有力大学に授業や夏休みの時期を合わせ、学生の海外への短期留学を増加させるために、或いは、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、4 学期制を実施・検討している大学もあるようです。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、教育界・実業界等で、世界に通ずる英語の習得が重要課題となっていることは明らかです。 そこで、本講義では、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「Business Writing」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養成します。 Writing では、ビジネス英文メールの中でよく使用される独特な英語表現を勉強し、世界に通ずる実践的な学習となるよう指導していきます。 Reading では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や経済英語独特の表現を学び、英字新聞ビジネス記事の基本的な読み方を学習いたします。		各担当教員が第 1 回目の授業で提示する。	
テキスト		評価方法	
(1) Writing: 海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』(DTP 出版、2014 年) (2) Reading: プリント使用		各担当者が第 1 回目の授業で説明する。	

09 年度以降	English for Business II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「English for Business II」では、「English for Business I」の「講義目的・講義概要」で書かれた、Writing と Reading の続きを行い、Writing と Reading の更なる能力向上に努めます。最終的には、ビジネス英文メールの書き方の習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してから業務遂行に役立つことができるよう指導し、国際社会に対応できるように、Writing と Reading を関連させて総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます。		各担当教員が第 1 回目の授業で提示する。	
テキスト		評価方法	
(1) Writing: 海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』(DTP 出版、2014 年) (2) Reading: プリント使用		各担当者が第 1 回目の授業で説明する。	

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Talking about work Week 3 Some national stereotypes Week 4 London Week 5 Living in the country Week 6 Wales Week 7 General Knowledge Quiz Week 8 Roleplay Week 9 TV sitcom Week 10 A famous author Week 11 BBC World Service Week 12 In the year I was born Week 13 Emigrants Week 14 Review Week 15 Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on in-class performance (30%), classroom and online exercises (20%), classroom test results (20%) and students' study log results (30%).	

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course is to study online with the Dokkyo LINGUAPORTA. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.		Week 1 Consolidation Week 2 Travel and national preconceptions Week 3 Language learning Week 4 The media Week 5 Health Week 6 Health and alternative remedies Week 7 Phrasal verbs Week 8 General knowledge quiz Week 9 TV sitcom Week 10 A famous person Week 11 Social English Week 12 Festivals Week 13 Music Week 14 Review Week 15 Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on in-class performance (30%), classroom and online exercises (20%), classroom test results (20%) and students' study log results (30%).	

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	R. ドラム
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a one-semester course required for 1st-year students and aims to help students build their English language skills by exposing them to a variety of English language resources and materials, and by encouraging them to communicate and present their own thoughts. Overall Objectives The following are the macro-level objectives for this course: 1. To expose students to a variety of English-language resources (text, visual and audio), and so to develop their overall comprehension skills. 2. To develop the students' ability to think and respond in English on the topics covered by giving them the opportunity to share and present their thoughts in forms such as speeches, presentations, or group discussion. 3. To build students' vocabulary. In order to fulfill the objectives above, students are required to study online with the Dokkyo LINGUAPORTA, the latest e-learning system, which will score students' performance.		Note This is a <i>TENTATIVE</i> schedule. Some topics may be modified as needed, to match student needs, student levels, recent News stories, etc. Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 3: What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos.] Week 4: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. "What are Your plans for Golden Week?" [Proper use of the Future tense.] Perhaps assignment of a speech/presentation topic. Week 5: "How was your Golden Week?" (with EXPLANATION thereof.) Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 6: Use of English News videos/audio, for Listening practice. Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 7: English News, Part 2. Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 8: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 9: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 10: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Perhaps practice of a speech/presentation topic. Week 11: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 12: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Perhaps giving a speech/making a presentation. Week 13: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 14: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 15: Practice of Future tense: "What are your plans for the Summer Break?" (with explanation and elaboration thereof.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., the Dokkyo Lingua Porta Online study system, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen after assessing student levels & student needs.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class (approximately 25%); classroom exercises & test results (approximately 40-45%)(including how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); & how well you use the information taught to you); and use of the Online 'LinguaPorta' study resource (approximately 30-35%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.	

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	R. ドラム
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a one-semester (Fall) course required for 1st-year students and aims to help students build their English language skills by exposing them to a variety of English language resources and materials, and by encouraging them to communicate and present their own thoughts. Overall Objectives The following are the macro-level objectives for this course: 1. To expose students to a variety of English-language resources (audio; text, and visual), and so to develop their overall comprehension skills. 2. To develop the students' ability to think and respond in English on the topics covered by giving them the opportunity to share and present their thoughts in forms such as speeches, presentations, or group discussion. 3. To build students' vocabulary. In order to fulfill the objectives above, students are required to study online with the Dokkyo LINGUAPORTA, the latest e-learning system, which will score students' performance.		Note This is a <i>TENTATIVE</i> schedule. Some topics may be modified as needed, to match student needs, student levels, recent News stories, etc. Week 1: "How was your Summer Break?", with explanation and pair-practice thereof. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 3: Use of 'would' with past verb; and use of 'will' with present verb: expressing intentions, especially with regards to Hallowe'en party/Hallowe'en costume. Discussion of News/Current topics/songs/videos. Week 4: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Perhaps assignment of a speech/presentation topic. Week 5: Use of English News videos/audio, for Listening practice. Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 6: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 7: English News, Part 2. Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Week 8: Listening practice: English song-listening practice, and/or English audiobook practice. Week 9: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 10: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Perhaps practice of a speech/presentation topic. Week 11: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 12: Listening practice/TOEIC practice/TOEFL practice/ Dokkyo LinguaPorta system. Perhaps giving a speech/making a presentation. Using the Future tense correctly: "What are your plans for the Christmas-OShoGatsu break?" Week 13: Listening practice, with discussion thereof: Audio/Video NEWS: and/or Audiobook: and/or English song-listening activity. Week 14: "How was your Christmas-OShoGatsu break?": discussion and pair-practice. Listening practice: New Year's listening exercise. Week 15: Practice of Future tense: "What are your plans for the February-March Break?" (with explanation and elaboration thereof.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., the Dokkyo Lingua Porta Online study system, and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen after assessing student levels & student needs.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class (approximately 25%); classroom exercises & test results (approximately 40-45%)(including how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); & how well you use the information taught to you); and use of the Online 'LinguaPorta' study resource (approximately 30-35%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.	

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、英語の発音の特徴を学び、それぞれを確実に聞き取れるようにすることを目的とするとともに、英語の調音の仕組みを理解することでnative speakerに近い自然な音声を自ら発することができるようになることも目指していきます。 英語の音声を、カタカナ音を複雑にアレンジしたものにとらえるのではなく、それ自体が単純な原理に基づいて発音されていることを理解し、音声言語としての英語に対する違和感を解消していきましょう。 また、日本語を介さずに英語の意味を直接理解し、頭の中に浮かんだ内容を直接、英語にして表現することの面白さを体感することを目指します。 教室では、聴解練習、dictation、discussionなどを繰り返すとともに、ペアになって対話を演じる実技を行い、聴解と発話の両面から音声言語としての英語を使いこなせるよう練習を重ねていきます。 Web学習の進め方については、初回授業で説明します。		1. 自己紹介、英語の発音についての基本的な知識 2. ～ 15. 毎回、指定教材を 4 頁ほどずつ消化し、 ○ディクテーション ○音読練習 ○ペアに分かれ、役を決めて会話を実演 ○ディスカッション などのメニューをこなしていきます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
森田勝之『映画英語のリスニング』DHC		小テスト(20%)、授業への参加姿勢(10%)、Web 学習(30%)、定期試験(40%)の比率で算出する。	

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
英語力の指標として広く利用されている TOEFL と TOEIC 両テストのリスニング問題における得点力アップを目指します。 いずれのテストも、正確に解答するためには、英語を日本語に置き換えて理解するのではなく、英語の意味を現実世界と直結させられるようにすることが必要であり、英語を聞きながら瞬時にその英語が表す内容をイメージできる力を養成していきたいと思います。 『TOEIC テスト・リスニング BOX』を主たる教材とし、これを毎回解きながら、米、加、英、豪の 4 種類の英語の発音の特徴に慣れていきます。 加えて、Web 教材などを用いて TOEFL 向きのテーマの音声もたくさん聞くことで、TOEFL のリスニングに対応できる聴解力も養成します。 また、リスニング力アップに直結する単語の知識を増強するため、Web を利用した簡易辞書の作成も試みるほか、listening 能力と連動する speaking 能力を向上させるため、毎週、テーマを決めて discussion を行います。		1. TOEIC テスト・リスニングボックス Disk 1 2. Disk 1 3. Disk 1 4. Disk 1 5. Disk 1 6. Disk 2 7. Disk 2 8. Disk 2 9. Disk 2 10. Disk 2 11. Disk 3 12. Disk 3 13. Disk 3 14. Disk 3 15. Disk 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村紳一郎ほか『TOEIC テスト・リスニング BOX』the Japan Times 社		小テスト(10%)、授業への参加姿勢(10%)、レポート(10%)、Web 学習(30%)、定期試験(40%)の比率で算出する。	

09 年度以降	Listening & Speaking (火 1)	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
英語の特質を理解し身につけるため様々な媒体を利用し Listening 力を向上させる一方、総合的英語力を養成するため、毎回トピックを与え英語でできるだけ大量に作文をし、その内容に基づいて多くのクラスメンバーと意見の交換を行う。こうして Speaking の力を養う一方、生の英語を収録して Listening 練習用に準備し、聞き取り集中練習も行う。		1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 適宜紹介する		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 20% E-learning 30%	

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC® (火 1)	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。		1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 20% E-learning 30%	

09 年度以降	Listening & Speaking (火 3)	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
英語の特質を理解し身につけるため様々な媒体を利用し Listening 力を向上させる一方、総合的英語力を養成するため、毎回トピックを与え英語でできるだけ大量に作文をし、その内容に基づいて多くのクラスメンバーと意見の交換を行う。こうして Speaking の力を養う一方、生の英語を収録して Listening 練習用に準備し、聞き取り集中練習も行う。		1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 適宜紹介する		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 20% E-learning 30%	

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC® (火 3)	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。		1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 20% E-learning 30%	

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現方法となつて表れているか、と探っていく習慣を身につけていく学習方法が、結局は効率の良い英語の学習方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。 なお、この授業は「英語の世界Ⅰ」と密接な関係にあるので、そちらも欠かさず出席し、この授業同様、予習・復習を怠ることのないようにしてほしい。		1. 現在と過去のコト 2. 未来のコト 3. 動詞で語るコト 4. 続き 5. 話し手の態度の表現（助動詞） 6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞） 7. 続き（助動詞の関連表現） 8. 表に出ない行為者（能動文と受動文） 9. 続き 10. HAVE, BE, ING のちから 11. 続き 12. 動詞の共演者と構文タイプ 13. 続き 14. 続き 15. 続き	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会		定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）	

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
ことばを使う表現主体（話し手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現する主体者を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的な動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか」という説明ができるようになるということである。そうすると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなく、「なるほど？」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、a と the の使い分け、あるいは 'I'm standing on/in the street.' の前置詞の使い分けもできるようになってくる。		1. 形容詞を中心とした構文 2. 動詞の文法の総括 3. モノ（名詞）の文法 4. 続き 5. 修飾語とその配列順 6. あとから言い足していく語り方（後置修飾） 7. 続き 8. 代名詞と指示詞、そして名詞節 9. 続き 10. 副詞で状況を語る 11. 続き 12. さまざまな副詞表現 13. 仮定の状況を設定する 14. 情報の接続と論理 15. 続き	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会		定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）	

09 年度以降	Reading Strategies I (月 2)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabularies. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. Students will be using a textbook for this class. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.		1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Reading Strategies II (月 2)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. Students will be using a textbook for this class. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.		1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Reading Strategies I (木 3)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabularies. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. Students will be given new reading material each week, mostly focusing on international affairs and current affairs. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.		1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will select reading materials and distribute handouts each week.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Reading Strategies II (木 3)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. Students will be given new reading material each week, mostly focusing on international affairs and current affairs. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.		1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will select reading materials and distribute handouts each week.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
英文の戦略的な読み方を多様な視点から学び実践する。 英文のテキストを、情報ユニットとして眺めた場合、語彙項目、チャンク（句・節・慣用表現）、センテンス、パラグラフ、パッセージ等のレベルで捉えることができる。そのうち、語彙については、未知の語句に遭遇した場合にどう対処すべきか。チャンクはどのように意味処理すればよりスムーズな読みが可能となるのか。センテンス同士のあいだに作用する「結束性 (cohesion)」はどう確認するのか。そして、パッセージ全体にはいかなる「一貫性 (coherence)」が流れているのか。その一貫性を担保すべく、各パラグラフはどう構成されているのか。その構成の仕方は、当該のテキストタイプやジャンルの影響を受けているのか。これらの諸問題について新たな「気づき (awareness-raising)」を得て、戦略的な読み手へと変貌を遂げて頂きたい。 最後に、授業で学んだことを活かして、参加者全員（グループ or 個人）にプレゼンテーションをしてもらう予定である。		1. なんのために英文を読むのか（意図・目的） 2. テキストとコンテキスト 3. パラテキスト情報の活用 4. 語彙レベル I（語根、接頭辞、接尾辞） 5. 語彙レベル II（基本語のコア） 6. 語彙レベル III（拡張語彙のネットワーク） 7. チャンクとチャンキング I（直読直解） 8. チャンクとチャンキング II（comprehension check） 9. チャンクとチャンキング III（reconstruction） 10. コアから文法へ（from lexical core to grammar） 11. 結束性と情報構造（referential tracking） 12. 一貫性とテキストタイプ・ジャンル 13. プレゼンテーション I 14. プレゼンテーション II 15. プレゼンテーション III ※上記の内容はクラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的に授業時に資料として配布する。Web（Portal 等）を使って教材をシェアする場合もある（具体的方法は授業時に指示する）。		授業時の積極性＝50%；アサインメント＝10%；プレゼンテーション＝20%；自己評価＝20%。4 回以上欠席の場合は単位を与えない。	

09 年度以降	Reading Strategies II	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期（Reading Strategies I）のねらいを深化させて、英文の戦略的な読み方を多様な視点から学び実践する。 英文のテキストを、情報ユニットとしてみると、語彙、チャンク、センテンス、パラグラフ、パッセージ等のレベルがある。ここでは、チャンクに焦点をあてて記述してみたい。チャンクとチャンクがつながり意味の流れが生じるのがチャンキングという現象である。このチャンキングをどのようにしたらスムーズに情報処理できるようになるのか。また、チャンクとチャンキングの意味処理はボトムアップ（↑）の方向だが、これをどのようにしたらトップダウン（↓）の情報処理と融合させて、速読、（前向き）推論、（後向き）統合、要約、換言等の行為へと接続できるのか。トップダウンの視点で欠かせないのが、一貫性 (coherence)、テキストタイプ、ジャンル、スキーマ等に関する理解である。その他、読解の質を高める要素として、動機づけ・興味関心・信念等の心理的側面も看過し難い。さらに、メタファーの解釈が読解の質を決定づけるケースもある。 春学期同様、最後に、授業で学んだことを活かして、参加者全員（グループ or 個人）にプレゼンテーションをってもらう予定である。		1. 英文読解の新たな指導法 I（教える側の視点に立って） 2. 英文読解の新たな指導法 II（教える側の視点に立って） 3. チャンクとテキストタイプ（応用編） 4. チャンクとチャンキング（reciprocal teaching） 5. チャンクとチャンキング（reacting & paraphrasing） 6. トピックと拡張語彙ネットワーク I 7. トピックと拡張語彙ネットワーク II 8. テキストタイプ I Contrast & Comparison 9. テキストタイプ II Chronological Development 10. テキストタイプ III Problem & Solution 11. 心理的側面：動機づけ・興味関心・信念 12. コアの効用：多義・連語・文法・比喩 13. プレゼンテーション I 14. プレゼンテーション II 15. プレゼンテーション III ※上記の内容はクラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的に授業時に資料として配布する。Web（Portal 等）を使って教材をシェアする場合もある（具体的方法は授業時に指示する）。		授業時の積極性＝50%；アサインメント＝10%；プレゼンテーション＝20%；自己評価＝20%。4 回以上欠席の場合は単位を与えない。	

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
目標： 英語の語彙を増やししながら、最終的には日本語を介さず英語でテキストを理解する能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 授業概要： 短編小説を中心に、毎週、指示された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに日本語や英語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 時間の許す限り、RL R 練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を意味のまとまりごとに声を出して読み、テキストから目を離して、その箇所をリピートし、徐々にリピートできる範囲を長くする練習)を用いて、英語の総合力アップを図りたいと思います。		1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR 練習の実習など 2. 約 2 ページから 4 ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web 上の課外読み物についても学習する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介		授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、試験などの結果を総合的に評価する。	

09 年度以降	Reading Strategies II	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
目標： “Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要： 春学期の該当箇所を参照してください。		1. 約 2 ページから 5 ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web 上の課外読み物を扱う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介		授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、試験などの結果を総合的に評価する。	

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、英文を精確に読むための技術を身につけることである。具体的には、句構造、接続や修飾・被修飾の関係、指示内容などを明確に意識しながら読んでいく。また、英文の書かれた背景や用語を理解しながら読んでいく。 授業では、上記の目的を達成するために、文法構造を確認しながら、英文を文頭から読んで訳出する練習を行う。また、背景や用語についての確認も、学生自身が調べてきたことに基づいてその知識を共有する。したがって、学生の予習が必須となる。 この授業は、日本語の文章を理解するのと同程度度の理解で英文を読むことを目指している。英文読解の意識改革が求められる授業である。		1. Course Orientation 2. Chapter 1: VP 構造について 3. Chapter 1: np 構造について 4. Chapter 1: mp 構造について 5. Chapter 2: N 構造の分析 6. Chapter 2: M 構造の分析 7. Chapter 2: 句構造のまとめ 8. 中間試験 9. Chapter 3 10. Chapter 3 11. Chapter 3 12. Chapter 4 13. Chapter 4 14. Chapter 4 15. 春学期のまとめ ※ 理解度により、授業進度が変わることもある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.		中間・期末試験、授業レポート、授業への貢献度、その他の平常点によって評価する。	

09 年度以降	Reading Strategies II	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、長いまとまりのある英文を速く読むための技術を身につけることである。具体的には、topic sentenceやconcluding sentence、パラグラフ構造に特徴的な語句を明確に意識しながら読んでいく。また、春学期同様、英文の書かれた背景や用語を理解しながら読んでいく。 授業では、上記の目的を達成するために、パラグラフの構造を確認しながら、パラグラフ毎に要約する練習を行う。また、背景や用語についての確認も、学生自身が調べてきたことに基づいてその知識を共有する。したがって、学生の予習が必須となる。 この授業は、「読み」に緩急をつけながら、日本語の文章を理解するのと同程度度の理解で英文を読むことを目指している。この技術を基礎として、スキミングやスキミングなどの能力に繋がっていくことを理解したい。		1. Course Orientation 2. Chapter 5 3. Chapter 5 4. Chapter 6 5. Chapter 6 6. Chapter 7 7. Chapter 7 8. 中間試験 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Chapter 13 15. Chapter 14 ※ 理解度により、授業進度が変わることもある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.		中間・期末試験、授業レポート、授業への貢献度、その他の平常点によって評価する。	

09 年度以降	Reading Strategies III	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、Reading Strategies I, II で学んだことを踏まえて、戦略的な読みの方法を洗練させることをねらいとする。以下の4種の活動を授業の支柱として位置づける。 1) Intensive Reading: 時事的題材、文学的題材、学術論文等のジャンルから、比較的短く内容の濃いパッセージを選び、語彙・文法的視点、話題スキーマ、パラグラフ内・間構造、テキストタイプ等の観点から緻密な解釈を行う。必要に応じて、和訳や要約のタスクを課すこともある。 2) Faster Reading: scanningやskimmingのスキルを含め、短時間で多量の情報処理を行うための読み方を鍛える。 3) Effective Reading: 読む題材や目的に応じて、読みの速度や密度を自在に調整しながら読む訓練を行う。題材として、Webの英文等も有効に活用したい。 4) Vocabulary Building: 語形成（接頭辞・語根・接尾辞）の知識を活かして未知語の推測力も鍛える；話題別語彙ネットワークにより語彙力増強を計る。 最後に、授業で獲得した知識や方法論を活かして、参加者全員（グループ or 個人）にプレゼンテーションを行って頂く予定である。		1. Introduction 2. Chunking Method 3. Lexical Core Approach 4. Text Types 5. Word Formation 6. Cohesion, Repetition, Keywords 7. Translation Studies 8. Summarizing & Paraphrasing 9. Skimming & Paragraph Reading 10. Web Learning Activities 11. Self Assessment 12. Presentation Design Workshop 13. Presentation I 14. Presentation II 15. Presentation III ※上記内容はクラス状況に応じて柔軟に調整を行うものとする。 関連情報リンク： http://www.eslgold.com/reading/skills.html http://www.myenglishpages.com/site_php_files/reading.php#UwBmCV46wkl http://www.rong-chang.com/reading.htm http://www.sussex.ac.uk/s3/?id=79	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画（右上）にリンクを記したウェブサイトを参照する（必要に応じて資料を配布する）。Portal で教材をシェアする場合もある（具体的には授業時に指示する）。		授業時の姿勢＝40%；アサインメント＝10%；プレゼンテーション＝10%；自己評価＝10%；オンライン学習プログラム＝30%。4回以上欠席の場合は単位を与えない。	

09 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、Reading Strategies I, II, さらに、III（春学期）で学んだことを踏まえて、戦略的な読みの方法を洗練させることをねらいとする。以下の4種の活動を授業の支柱として位置づけるが、題材の難度はより高く設定し、より多量の情報を含むテキストを扱う。 1) Intensive Reading: 時事的題材、文学的題材、学術論文等のジャンルから、比較的短く抽象度の高いパッセージを選び、語彙・文法的視点、話題スキーマ、パラグラフ内・間構造、テキストタイプ等の観点から緻密な解釈を行う。必要に応じて、和訳・要約・分析・コメント等のタスクを課すこともある。 2) Faster Reading: scanningやskimmingのスキルを含め、短時間で多量の情報処理を行うための読み方を鍛える。 3) Effective Reading: 読む題材や目的に応じて、読みの速度や密度を自在に調整しながら読む訓練を行う。題材はWebの英文等も有効に活用したい。 4) Vocabulary Building: 語形成（接頭辞・語根・接尾辞）の知識を活かして未知語の推測力も鍛える；話題別語彙ネットワークにより語彙力増強を計る。自分専門のトピックを設定し、拡張語彙ネットワークを作成する。 最後に、授業で獲得した知識や方法論をフルに活かして、参加者全員（グループ or 個人）にプレゼンテーションを課す予定。発表内容から理解の深さを知るため。		1. Introduction 2. Chunking Method 3. Lexical Core Approach 4. Text Type 5. Word Formation 6. Cohesion, Repetition, Keywords 7. Translation Studies 8. Summarizing & Paraphrasing 9. Commenting & Reacting 10. Web Learning Activities 11. Motivation, Identity & Axiology 12. Presentation Design Workshop 13. Presentation I 14. Presentation II 15. Presentation III ※上記内容はクラス状況に応じて柔軟に調整を行うものとする。 関連情報リンク： http://www.eslgold.com/reading/skills.html http://www.myenglishpages.com/site_php_files/reading.php#UwBmCV46wkl http://www.rong-chang.com/reading.htm http://www.sussex.ac.uk/s3/?id=79	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画（右上）にリンクを記したウェブサイトを参照する（必要に応じて資料を配布する）。Portal で教材をシェアする場合もある（具体的には授業時に指示する）。		授業時の姿勢＝40%；アサインメント＝10%；プレゼンテーション＝10%；自己評価＝10%；オンライン学習プログラム＝30%。4回以上欠席の場合は単位を与えない。	

09 年度以降	Reading Strategies III	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム： 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。		第 1 回 導入 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		平常点、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading : Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム： 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。		第 1 回 導入 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		平常点、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	Reading Strategies III (水 1)	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この講義では、語彙を増やし、速読、精読の両面から英文を正しく読み取る力を養うことを目的とします。 講義概要 わかったつもりから確かな理解へと英文の読解力を磨いていきます。発表、小テスト、課題やディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。オリエンテーションには必ず出席してください。 辞書は毎回必ず持参すること。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 テキスト講読 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加度および提出物（小テスト等）60%、オンライン学習プログラム 30%、授業態度 10% 欠席が 4 回を越える場合は評価対象としない。	

09 年度以降	Reading Strategies IV (水 1)	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた基礎的な読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 受講生の進捗状況を踏まえ、教材を決定します。具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 毎回必ず辞書を持参すること。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。オリエンテーションには必ず出席してください。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 テキスト講読 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加度および提出物（小テスト等）60%、オンライン学習プログラム 30%、授業態度 10% 欠席が 4 回を越える場合は評価対象としない。	

09 年度以降	Reading Strategies III (水 2)	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この講義では、語彙を増やし、速読、精読の両面から英文を正しく読み取る力を養うことを目的とします。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 テキスト講読 第 15 回 まとめ	
講義概要 わかったつもりから確かな理解へと英文の読解力を磨いていきます。質問、発表、小テスト、課題やディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 辞書は毎回必ず持参すること。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加度および提出物（小テスト等）60%、オンライン学習プログラム 30%、授業態度 10% 4 回を越える欠席は評価対象としない。	

09 年度以降	Reading Strategies IV (水 2)	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた基礎的な読解力を定着させ、発展させることを目指します。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 テキスト講読 第 15 回 まとめ	
講義概要 受講生の進捗状況を踏まえ、教材を決定します。具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 毎回必ず辞書を持参すること。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加度および提出物（小テスト等）60%、オンライン学習プログラム 30%、授業態度 10% 4 回を越える欠席は評価対象としない。	

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
語彙を増やしつつ、さまざまな分野の文章や文体に触れ、読む目的に応じて精読と速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようにする。 ○Vocabulary Building ○Intensive Reading ○Faster Reading ○Effective Reading		1 講義の概要 2 多読の練習と語彙：小説 3 多読の練習と語彙：小説 4 多読の練習と語彙：小説 5 多読の練習と語彙：小説 6 大意をつかむ訓練：英語雑誌の記事 7 大意をつかむ訓練：英語雑誌の記事 8 大意をつかむ訓練：英語雑誌の記事 9 文章を味わう：詩と文学 10 文章を味わう：詩と文学 11 文章を味わう：詩と文学 12 文章を味わう：詩と文学 13 文章を味わう：詩と文学 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		授業時の態度 30% 課外リーディング 10% E-Learning 30% 期末試験 30%	

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
引き続き、英文読解の技能を定着させ読解力のさらなる向上につとめる。語彙を増やしながらか、読んだ内容について自分の考えをまとめたり、外国文学や文化を理解する力をつける。 ○Vocabulary Building ○Intensive Reading ○Faster Reading ○Effective Reading		1 講義の概要 2 多読と要約 3 多読と要約 4 多読と要約 5 多読と要約 6 アカデミックリーディング：論文を読む 7 アカデミックリーディング：論文を読む 8 大意をつかむ訓練：英語雑誌の記事 9 大意をつかむ訓練：英語雑誌の記事 10 大意をつかむ訓練：冒険小説 11 大意をつかむ訓練：冒険小説 12 ベストセラー文学の作品 13 ベストセラー文学の作品 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		授業時の態度 30% 課外リーディング 10% E-Learning 30% 期末試験 30%	

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	D. マツキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, I shall aim to help students improve their writing ability, beginning with vocabulary and sentence level activities and progressing to paragraph organization and construction, stressing the function of the paragraph as a building block of more extended texts. Attention will be paid to both accuracy and fluency of expression, and many activities will focus on the interconnection between writing and the other aspects of language learning (listening, speaking and reading). Materials will be selected from various sources, including authentic spoken and written texts, and students will be encouraged to share their writing activities with their classmates both as audience and source of support. Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students' individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.		1. Introductions 2. English alphabet and punctuation 3. Alphabet activities 4. The paragraph. A personal letter 5. letter exchange and response 6. Writing narrative: opening paragraph 7. Writing narrative: closing paragraph 8. Book and movie reviews 9. Students present their own review 10. Free/fast writing 11. Describing pictures and photographs 12. Making paragraphs from comic strips 13. Writing plans for summer vacation 14. Written course review, with suggestions 15. Summer holiday alphabet project	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and class participation throughout the course	

09 年度以降	Writing Strategies II	担当者	D. マツキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		1. Holiday writing activities 2. Paragraph exchange and questions 3. Preparing 300-word paragraph 4. Guided writing of paragraph 5. Advertisements for goods and services 6. Students present their own chosen product 7. Review of grammar 8. Common errors in students' own work 9. Poetry and song lyrics 10. Presentation of student-selected text 11. Gift-giving and receiving letter style 12. Beyond the paragraph 13. Writing about future plans 14. Letter to classmates 15. Survey of course and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and class participation throughout the course	

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of writing with an emphasis on grammatical accuracy. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students.		Week 1: Course Introduction Week 2: Sentence Writing Week 3: Sentence Structure Week 4: Topic Sentences Week 5: Connectors Week 6: Brainstorming Week 7: Combining sentences with adjectives Week 8: Capitalization Week 9: Tenses Week 10: Modals Week 11: Conditionals Week 12: Passive Week 13: Journal writing & peer feedback Week 14: Assignment & Journals due Week 15: Review & Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Writing Paragraphs Dorothy E. Zemach & Carlos Islam Macmillan		Paragraph Writing 40% Journal Writing 20% Peer Feedback 20% Participation 20%	

09 年度以降	Writing Strategies II	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
Points for further consideration: - Students will need an English-English dictionary - Students will be required to make weekly entries for journal writing		Week 1: Review & Freewriting Week 2: Facts & Opinions Week 3: Proofreading & Editing Week 4: Assignment & journal writing Week 5: Error Analysis & revise writing Week 6: Noun clauses Week 7: Combining sentences with so & because Week 8: Using Time Expressions Week 9: Assignment Week 10: Error Analysis & peer feedback Week 11: Relative Clauses Week 12: Concluding sentences Week 13: Writing a movie review Week 14: Assignment & Journals due Week 15: Review & Feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Writing Paragraphs Dorothy E. Zemach & Carlos Islam Macmillan		Paragraph Writing 40% Journal Writing 20% Peer Feedback 20% Participation 20%	

09 年度以降	Writing Strategies I (火 2)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.		Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week 10: Strange Stories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		30% Class work, 40% Homework 30% Final Evaluation	

09 年度以降	Writing Strategies II (火 2)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.		Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week 10: Introductions & Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary		30% Class work, 40% Homework 30% Final Evaluation	

09 年度以降	Writing Strategies I (火 3)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.		Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week 10: Strange Stories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		30% Class work, 40% Homework 30% Final Evaluation	

09 年度以降	Writing Strategies II (火 3)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.		Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week 10: Introductions & Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary		30% Class work, 40% Homework 30% Final Evaluation	

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.		1. Introduction 2. Understanding Sentence Basics 3. Understanding Paragraph Basics 4. Writing About the Present (1) 5. Writing About the Present (2) 6. Writing About the Past (1) 7. Writing About the Past (2) 8. Midterm Examination 9. Describing Actions (1) 10. Describing Actions (2) 11. Writing About the Future (1) 12. Writing About the Future (2) 13. Writing Complex Sentences with Adjective Clauses (1) 14. Writing Complex Sentences with Adjective Clauses (2) 15. Pulling It All Together and Preparing for More	
テキスト、参考文献		評価方法	
Folse, Keith S., Muchmore-Vokoun, April, Solomon, Elena Vestri. <i>Great Writing 1: Great Sentences for Great Paragraphs 4th ed.</i> Boston: National Geographic Learning/ Cengage Learning, 2014.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Writing Strategies II	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. Students enrolled in this course are expected to engage in various in-class exercises prepared by the instructor. This course is taught in English.		1. Introduction 2. Preparing to Write 3. Constructing a Paragraph 4. Developing a Paragraph 5. Various Types of Paragraph (1) 6. Various Types of Paragraph (2) 7. Various Types of Paragraph (3) 8. Various Types of Paragraph (4) 9. Midterm Examination 10. Constructing an Essay 11. Essay Outlines 12. Various Aspects of Essay Writing 13. Writing Effective Essays (1) 14. Writing Effective Essays (2) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will distribute handouts each week.		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
To give students opportunities to communicate through listening, reading and writing・ To build student confidence in interpersonal communication, To develop the basic study skills needed to succeed in Dokkyo university English classes. The contents of the course are subject to change.		Week 1 – Teacher and Student Interviews and Introductions Week 2—UNIT 1 MONEY- Part One Week 3—UNIT 1 MONEY-Part Two Week 4—UNIT 2 STRESS & SOLUTIONS- Part One Week 5—UNIT 2 STRESS & SOLUTIONS- Part Two Week 6—UNIT 3 FRIENDSHIP- Part One Week 7—UNIT 3 FRIENDSHIP- Part One Week 8—Midterm Evaluations Week 9 –UNIT 4 CHALLENGES- Part One Week 10—UNIT 4 CHALLENGES- Part One Week 11—UNIT 5 GLOBETROTTERS- Part One Week 12—UNIT 5 GLOBETROTTERS- Part Two Week 13—Final Presentation Preparations Week 14—Final Presentations Week 15—Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Springboard Book Two (Subject to Change)		Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
To give students opportunities to communicate through listening, reading and writing・ To build student confidence in interpersonal communication, To develop the basic study skills needed to succeed in Dokkyo university English classes. The contents of the course are subject to change.		Week 1 – Teacher and student reviews of first term activities Week 2—UNIT 6—ANIMALS- Part One Week 3—UNIT 6—ANIMALS--Part Two Week 4—UNIT 7—PARTNERS- Part One Week 5—UNIT 7—PARTNERS-Part Two Week 6—UNIT 8—COLOR AND DESIGN- Part One Week 7—UNIT 8—COLOR AND DESIGN-Part Two Week 8—Midterm Evaluations Week 9 –UNIT 9—THEME PARKS - Part One Week 10—UNIT 9—THEME PARKS -Part Two Week 11—UNIT 10—VALUES- Part One Week 12—UNIT 10— VALUES-Part Two Week 13—Final Presentation Preparations Week 14—Final Presentations Week 15—Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Springboard Book Two (Subject to change)		Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to communicate to build students' confidence in interpersonal communication to develop basic study skills needed for English-language courses at university level		1 First Impressions 2 Psychology & Language-learning 3 Communicative & Cultural Awareness 4 Real-world Communication Skills 5 Study Skills 6 Grammatical Awareness 7 WH/open & YN/closed questions 8 Extensive Reading & Listening I 9 Extensive Reading & Listening II 10 Discussion Skills 11 Topic: Food & Drink 12 Topic: Music 13 Presentation Skills 14 Presentation Practice 15 Course Review & Evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Count of Monte Cristo (Penguin Readers)		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills to build students' organizational skills in writing for public-speaking to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups		1 Overview of the Creative Process 2 Choosing your topic & Researching 3 Outlining & Drafting 4 Editing 5 Presentation practice 6 Presentation Week 7 V for Vendetta 8 5-paragraph essays 9 1984 PART 1 10 1984 PART 2 11 1984 PART 3 12 Orwell & the English Language 13 Presentation practice 14 Presentation Week 15 Course Review & Evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
1984 (Penguin Readers)		Evaluation based upon quality of three written assignments and two presentations	

09 年度以降	Comprehensive English I (月 3)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.		1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).	

09 年度以降	Comprehensive English II (月 3)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.		1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).	

09 年度以降	Comprehensive English I (金 2)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.		1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).	

09 年度以降	Comprehensive English II (金 2)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.		1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).	

09 年度以降	Comprehensive English I (金 2)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this class is to provide the students of the Tourism Department with an interesting and educational course in modern American English that will be of use to them in future when they must utilize their language skills in the work force.		In this class, we shall use a Disney movie, (subtitled in English) to study modern American English. Each week, the students will watch one subtitled scene of approximately 10 minutes. We will then study, the vocabulary, idioms and grammar used in that scene. In this class, the students will be exposed to a great deal of modern, idiomatic English, and will have ample opportunities to speak with both each other and the instructor. I hope this will be an enjoyable and educational class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		The students will be evaluated on class participation, a speaking test and a written report.	

09 年度以降	Comprehensive English II (金 2)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as the above.		This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as above.		Same as above.	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to develop students' fluency and increase their confidence as English speakers Students will have ample opportunities to speak in class doing pair work and having small group discussions		Week 1: course introduction Week 2: unit 1 Week 3: unit 1 Week 4: unit 1 Week 5: unit 2 Week 6: unit 2 Week 7: unit 2 Week 8: introduction to public speaking Week 9: small group practice Week 10: presentations Week 11: introduce project & form groups Week 12: project preparation Week 13: project preparation Week 14: presentations Week 15: review & feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge		Presentations 40% Quizzes 20% Homework assignments 20% Participation 20%.	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
Points for further consideration - Students will need an English - English dictionary - Students will be required to have a notebook		Week 1: unit 5 Week 2: unit 5 continued Week 3: unit 5 continued Week 4: unit 7 Week 5: unit 7 continued Week 6: unit 7 continued Week 7: public speaking - gestures Week 8: public speaking – voice inflection Week 9: presentations Week 10: introduce project & form groups Week 11: project research Week 12: preparing visual aids Week 13: presentations Week 14: presentations Week 15: review & feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge		Presentations 40% Quizzes 20% Homework assignments 20% Participation 20%.	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.		Week 1: Course introduction Week 2: Old Friends: Discussion Week 3: Old Friends: Discussion Week 4: Technology: Debate Week 5: Technology: Debate Week 6: Time Management: Issues Week 7: Time Management: Issues Week 8: Life in the City: Views Week 9: Life in the City: Views Week 10: Knowledge: Knowing vs Not Know Week 11: Knowledge: Knowing vs Not Know Week 12: Histories' Most Famous People Week 13: Histories' Most Famous People Week 14: Final Class Week 15: Final Class	
テキスト、参考文献		評価方法	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.		Week 1: Course introduction Week 2: If only: The Way Things Should Be Week 3: If only: The Way Things Should Be Week 4: Travel: Making my Way in the World Week 5: Travel: Making my Way in the World Week 6: Life's Choices: Discussion Week 7: Life's Choices: Discussion Week 8: A Look into the Future: Views Week 9: A Look into the Future: Views Week 10: Preparation for Presentations Week 11: Graded Presentations Week 12: Graded Presentations Week 13: Graded Presentations Week 14: Final Class Week 15: Final Class	
テキスト、参考文献		評価方法	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This required course emphasizes oral communication in class in a variety of ways. The main goal for the students is to develop confidence in stating personal opinions not only verbally, but also in written form. The course will begin with personal topics and move toward more academic issues. Students will be expected to research information prior to classes as the course transitions from personal to academic topics. In addition, students are expected to set personal language goals to accomplish in the course.		1	Introduction
		2	Movies
		3	Shopping
		4	Music
		5	Dating
		6	Speaking tests
		7	Speaking tests
		8	Language and identity
		9	Group behavior
		10	School types
		11	MASK
		12	Tourism
		13	Eco-tourism
		14	Speaking tests
		15	Speaking tests
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Class Participation	35
		Speaking test #1	15
		Speaking test #2	30
		Written summaries	20

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This required course emphasizes the organizational skills of speech communication. Students will make speech presentations on academic issues. Students will concentrate on speech delivery skills such as posture, eye contact, and pacing that will make them more effective public speakers. In addition, the content material will focus on World Heritage Sites. Students will research information about the issues relating to World Heritage Sites outside of class and prepare that information to be presented in class. Students will be expected to use visual aids such as Power point in the final presentations.		1	Introduction
		2	World Heritage Site: Great Wall
		3	World Heritage Site: Grand Canyon
		4	World Heritage Site: Taj Mahal
		5	World Heritage Site: Machu Picchu
		6	World Heritage Site: Seine River
		7	Speaking tests
		8	Speaking tests
		9	Survey
		10	Presentation preparation
		11	Presentation preparation
		12	Presentation preparation
		13	Final Presentation
		14	Final Presentation
		15	Final Presentation
テキスト、参考文献		評価方法	
None, but Speaking of Speech is an excellent book to help you understand the basic components of a speech.		Participation	35
		Speaking test	15
		Final Presentation	30
		Written summaries	20

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.		Lesson 1. Class description, Unit 1: Introductions, Tune in, Video 1, Check the script Lesson 2. Act 1: Putting it into practice, Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 3. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Language Focus 2 Lesson 4. Video 4, Sort it out, quiz Lesson 5. Unit 2: Starting conversations, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz Lesson 9. Unit 3: Developing conversations, Tune in, Video 1, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 10. Language focus 1, Video 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 12. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz Lesson 13. Unit 4: Invitations and Suggestions, Tune in, Video 1: An Invitation to go out, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 14. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English Course, Students Book 1 (The English Company)		Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.		Lesson 1. Unit 5: Likes/dislikes, feelings, Tune in, Video 1: What kind of cuisine do you prefer, Check the script, Language focus 1 Lesson 2. Sort it out, Video 2: What's your favorite group, Act 2 Lesson 3. Intermission, Tune in, Video 3: What makes you angry, Check the script, Act 3, Screen test Lesson 4. Language focus 2, Sort it out, Act 4, quiz, Finale, quiz Lesson 5. Unit 6: Requests, Video 1, Tune in, Check the script Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you? Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out quiz Lesson 9. Unit 7: Opinions, Tune in, Video 1: Agreeing and disagreeing, Check the script, Act 1, Language focus 1 Lesson 10. Video 2: Do you believe in ghosts?, Act 2, Intermission Lesson 11. Tune in, Video 3: Do you like my new bag?, Check the script, Act 3, Language focus 2, Sort it out, Video 4, quiz Lesson 12. Unit 8: Advice, Tune in, Video 1: You look worried, Check the script, Act 1: Putting it into practice Lesson 13. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3 Lesson 14. Test Lesson 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English Course, Students Book 1 (The English Company)		Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays	

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will aim to develop student's comprehensive English skills, with an emphasis on speaking and communication. Students will have the chance to express their ideas and opinions through group and pair work activities. The focus will be on casual speaking styles and students will talk about topics that they may often discuss in their first language with friends. Listening and pronunciation will also be practiced in class, and students will be given short writing tasks as homework.		1. Introduction lesson (unit 1) 2. Watching movies (unit 2) 3. Opinions about art (unit 3) 4. Talking about your family (unit 4) 5. Fears (unit 5) 6. Commuting (unit 6) 7. Telling a personal story (unit 7) 8. Review lesson and speaking test 1 9. Discussing health (unit 8) 10. Shopping (unit 10) 11. Living abroad (unit 11) 12. Party behavior (unit 12) 13. Talents (unit 14) 14. Future dreams (unit 16) 15. Review lesson and speaking test 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: Impact: Conversation book 1 Authors: Kristen Sullivan and Todd Beuckens Pearson/Longman ISBN: 9620199332		Homework tasks x10: 20% Listening tests x2: 20% Speaking tests x2: 30% Participation: 30%	

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
In the autumn term, the course will follow the same pattern as in the spring, using the next textbook in the series. Students will learn to explain themselves in more detail and grow confident discussing a wider variety of topics. In addition, students will need to prepare 'short talks' or speeches that they will perform in front of their classmates.		1. Talking about yourself (unit 1) 2. Describing your home (unit 2) 3. Favorite foods (unit 3) 4. How important is fashion to you? (unit 4) 5. What jobs are you suited for? (unit 5) 6. Travel recommendations (unit 6) 7. Expressing concerns (unit 7) 8. Review lesson and 'short talks' 9. Dealing with stress (unit 8) 10. Complaining (unit 9) 11. Relationship Problems (unit 12) 12. Life events (unit 14) 13. Invitations (unit 15) 14. Role Models (unit 16) 15. Review lesson and 'short talks'	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: Impact: Conversation book 2 Authors: Kristen Sullivan and Todd Beuckens Pearson/Longman ISBN: 9620199340		Homework tasks x10: 20% Listening tests x2: 20% Short talks: 30% Participation: 30%	

09 年度以降	Comprehensive English III	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester. Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.		The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions. 1. Introductions 2. Collecting introduction cards 3. Travel topic alphabets 4. Student profiles and expectations Listening 5. Varieties of English 6. Group discussion 7. World music and song 8. Students select song texts 9. Presentation of song texts 10. Discussion of song and music 11. Students select summer holiday topic 12. Preparation of holiday topic Materials 13. Discussion on language strategies 14. Written feedback/personal interviews 15. Letter to classmates	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed. Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.		The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions. 1. Review of holiday topics 2. Presentations of chosen topics 3. Imagination and Fantasy : animation,comics and cartoons 4. Exchange reading and discussion 5. Films, books and magazines 6. Students discuss their favourites 7. Language learning strategies 8. Individual learning/studying styles 9. Use of multimedia-discussion 10. Students select presentation topic 11. Presentation preparation 12. Presentations 13. Presentations 14. Review of presentations 15. Feedback writing-farewells	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09 年度以降	Comprehensive English III	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.		Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements. Week 2: Chapter #1, reading & discussion Week 3: Chapter #2, reading & discussion Week 4: Chapter #3, reading & discussion Week 5: Chapter #4, reading & discussion Week 6: Chapter #5, reading & discussion Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Chapter #6, reading & discussion Week 9: Chapter #7, reading & discussion Week 10: Chapter #8, reading & discussion Week 11: Chapter #9, reading & discussion Week 12: Lead, prepare presentation Week 13: Lead, prepare presentation Week 14: Lead, prepare presentation Week 15: Quiz 2 - 15%	
テキスト、参考文献		評価方法	
Berlin & Kobayashi. 'World Adventures'. Kinseido Publisher.		1. Country Group Presentations 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%	

09 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.		Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements. Week 2: Chapter #10, reading & discussion Week 3: Chapter #11, reading & discussion Week 4: Chapter #12, reading & discussion Week 5: Chapter #13, reading & discussion Week 6: Chapter #14, reading & discussion Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Chapter #15, reading & discussion Week 9: Newspaper#1, reading & discussion Week 10: Newspaper#2, reading & discussion Week 11: Lead, prepare presentation Week 12: Lead, prepare presentation Week 13: Lead, prepare presentation Week 14: Lead, prepare presentation Week 15: Quiz 2 - 15%	
テキスト、参考文献		評価方法	
Berlin & Kobayashi. 'World Adventures'. Kinseido Publisher.		1. Country Group Presentations 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%	

09 年度以降	Comprehensive English III	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This course sets out to help students (1) advance their overall English language abilities and (2) further develop critical thinking skills. Focus will be placed on the four skill areas: Reading; Writing; Speaking; and Listening. Class time will center around discussions based on materials read outside of class, debates based on online material, projects based on group work, and presentations based on group research conducted outside of class. Each class, students will be called on to participate to their fullest in cooperation with other students as the specific aims for the course are communicative based. Students will be required to maintain Reflection / Progress Journals which will be evaluated at the end of the semester. In short, this course calls on students to come up with new thoughts and ideas, and then to be able to present them in English with the support of their peers, and to be able to react to the ideas others present in class.		Week 1: Course introduction Week 2: Reading and Discussion Week 3: Reading and Discussion Week 4: Reading and Debate Week 5: Reading and Debate Week 6: Student Based Project I Week 7: Student Based Project I Week 8: Presentation of STP I Week 9: Presentation of STP I Week 10: Student Based Presentation I Week 11: Student Based Presentation I Week 12: Writing Project One Week 13: Writing Project One Week 14: Review and Preparation Week 15: Final Class Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.	

09 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This course sets out to help students (1) advance their overall English language abilities and (2) further develop critical thinking skills. Focus will be placed on the four skill areas: Reading; Writing; Speaking; and Listening. Class time will center around discussions based on materials read outside of class, debates based on online material, projects based on group work, and presentations based on group research conducted outside of class. Each class, students will be called on to participate to their fullest in cooperation with other students as the specific aims for the course are communicative based. Students will be required to maintain Reflection / Progress journals which will be evaluated at the end of the semester. In short, this course calls on students to come up with new thoughts and ideas, and then to be able to present them in English with the support of their peers, and to be able to react to the ideas others present in class.		Week 1: Course introduction Week 2: Reading and Discussion v.2 Week 3: Reading and Discussion v.2 Week 4: Reading and Debate v.2 Week 5: Reading and Debate v.2 Week 6: Reading Project Week 7: Reading Project Week 8: Presentation of RP I Week 9: Presentation of RP I Week 10: Student Based Presentation I v.2 Week 11: Student Based Presentation I v.2 Week 12: Extended Writing Project Two Week 13: Extended Writing Project Two Week 14: Review and Preparation Week 15: Final Class Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Comprehensive English III	担当者	R. ドラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss hobbies, preferences, plans, and World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting discussions about those topics</i>, in English; and d) prepare and 'give' (present) a DYNAMIC English <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn & study</i>. Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof. Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners (EQ). Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of ... do you like?': explaining preferences, in Modern English. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ...?': Giving your opinions about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: elaborating. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining future plans for the Summer.	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you summarize & present your topic; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively</i> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)	

09 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	R. ドラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to MORE EFFECTIVELY: a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) research, learn about, and actively discuss World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics</i>, in English; and d) research and 'give' (present) a DYNAMIC & EFFECTIVE English <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments. Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments. Week 5: Practice with telephone invitations. Halloween discussion, and/or video. Week 6: Restaurant ordering, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, street directions and/or train directions, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing New Year's Resolutions. Last opportunity for class presentations. Week 15: Finalizing specific New Year's Resolutions. <i>If</i> time remains: discussion of future plans (for the February & March Break).	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. IF a textbook is necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)	

09 年度以降	Comprehensive English III	担当者	バーナード クリストファ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course helps students develop a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate in English 2. To further build student confidence in interpersonal communication in a professional setting 3. To be able to write a well-organized report on a subject connected with travel or tourism		Lesson 1. Introduction to the course: aims and objectives Lesson 2. Review and self-reflection on Comprehensive English courses: What has so far been learnt and how does it help you in your career goals? Lesson 3. Talking in front of people: posture, voice, and self-confidence Lesson 4. Informal, extended talk about yourself or your interests: useful vocabulary for autobiography and biography Lesson 5. Organizing a speech: making outlines and talking from outlines Lesson 6. Speaking to convey information: collecting and organizing data; presentation of visual materials Lesson 7. Preparation for oral presentations on a topic connected to tourism: popular places, famous historical figures, traces of the past on the modern Japanese landscape, etc. Lesson 8. Oral presentations: in groups or to the class depending on class size Lesson 9. Interpersonal communication: one-to-one professional interactions, interviewing, etc. Lesson 10. Giving an impromptu talk: organizing thoughts Lesson 11. Start of semester project related to career goals: orientation Lesson 12. Choosing a topic and collecting materials: types of data, and where to find them Lesson 13. In-class work on semester project under teacher guidance Lesson 14. Presentation of projects Lesson 15. Presentation of projects Review of the course: What has been learnt, and what targets have been achieved?	
テキスト、参考文献		評価方法	
Speech Communication Made Simple, Book 2 (Paulette Dale: Pearson): The emphasis will be on the first part of the book.		Students will be graded on classroom participation and performance, as well as on an end-of-semester project.	

09 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	バーナード クリストファ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course helps students further develop a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies. <u>Overall Objectives</u> 1. To give students maximum opportunities to communicate in English 2. To further build confidence in interpersonal communication, in particular face-to-face communication, in a professional setting 3. To be able to write a well organized, research-based report on a subject connected with travel or tourism 4. To be able to give an extended talk, supported by visual materials, on a subject connected with travel or tourism 5. To listen to a talk connected to one's area of interest or career goals, make notes of the talk and summarize it orally		Lesson 1. Introduction to the course: aims and objectives Lesson 2. Review and self-reflection on Comprehensive English courses: What has so far been learnt and how does it help you in your career goals? Lesson 3. Student talks on points connected with travel and tourism they have studied or become interested in: places visited, interaction with people in a professional setting, foreign tourists visiting Japan, etc. Lesson 4. Continuation of student talks on points connected with travel and tourism they have studied or become interested in: places visited, interaction with people in a professional setting, foreign tourists visiting Japan, etc. Lesson 5. Listening to oral presentations (part 1): taking notes on oral presentations and summarizing the presentation orally Lesson 6. Listening to oral presentations (part 2): taking notes on oral presentations and summarizing the presentation orally Lesson 7. Group discussion involving research (part 1): how to go about a research project; deciding on the topic and finding the data (facts, figures, reports, etc.) Lesson 8. Group discussion involving research (part 2): how to go about a research project; deciding on the topic and finding the data (facts, figures, reports, etc.) Lesson 9. Persuasive talking: the vocabulary of persuasion Lesson 10. Start of semester project related to career goals: orientation Lesson 11. Choosing a topic and collecting materials Lesson 12. In-class work on semester project under teacher guidance Lesson 13. Presentation of projects Lesson 14. Presentation of projects Lesson 15. Review of the course: What has been learnt, and what targets have been achieved?	
テキスト、参考文献		評価方法	
Speech Communication Made Simple, Book 2 (Paulette Dale: Pearson): The emphasis will be on the second part of the book.		Students will be graded on classroom participation and performance, as well as on an end-of-semester project.	

09 年度以降	E-learning I	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 Reading Strategies, Writing Strategies などの対面授業で教員から習ったスキルを[自律学習]によって定着, 向上させることを目的とする。具体的にはvocabulary buildingとessay writingの反復学習を行う。 【概要】 ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に[再履修者も含め]全員集合のこと。 ・2週目以降は語彙力に関するテストを行う。 ・隔週、オンラインライティングサービス (Criterion) を利用してライティング課題に取り組む。 ・エッセイライティングの基礎・基本についてテーマを絞りながら講義を行う。 ・学習内容は、語彙 (ALC) とライティング (Criterion)。		1. 全体説明会 2. How to write an effective essay in English. 3. テスト(1): ALC 4. テスト(2): ALC Essay Topic (1) 5. テスト(3): ALC 6. テスト(4): ALC Essay Topic (2) 7. テスト(5): ALC 8. テスト(6): ALC Essay Topic (3) 9. テスト(7): ALC 10. テスト(8): ALC Essay Topic (4) 11. テスト(9): ALC 12. テスト(10): ALC Essay Topic (5) 13. テスト(11): ALC 14. テスト(12): ALC 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材: ALC NetAcademy, Criterion		12回の授業内テスト(50%)、5つのEssay Topic (50%)に基づいて総合的に評価する	

09 年度以降	E-learning II	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 E-learning I と同じ。語彙力向上とライティングにより重点を置く。 【概要】 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に[再履修者も含め]全員集合のこと。 ・2週目以降は語彙力に関するテストを行う。 ・隔週、オンラインライティングサービス (Criterion) を利用してライティング課題に取り組む。また、クラスメイトのエッセイを直す活動 (Peer-Review) を通してエッセイを書く力を養う。 ・エッセイライティングの基礎・基本についてテーマを絞りながら講義を行う。 ・学習内容は、語彙 (ALC) とライティング (Criterion)。		1. 全体説明会 2. How to write an effective essay in English. 3. テスト(1): ALC 4. テスト(2): ALC Essay Topic (1) 5. テスト(3): ALC Peer-Review (1) 6. テスト(4): ALC Essay Topic (2) 7. テスト(5): ALC Peer-Review (2) 8. テスト(6): ALC Essay Topic (3) 9. テスト(7): ALC Peer-Review (3) 10. テスト(8): ALC Essay Topic (4) 11. テスト(9): ALC Peer-Review (4) 12. テスト(10): ALC Essay Topic (5) 13. テスト(11): ALC Peer-Review (5) 14. テスト(12): ALC 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材: ALC NetAcademy, Criterion		12回の授業内テスト(50%)、5つのEssay Topic (50%)に基づいて総合的に評価する	

09 年度以降	英語専門講読 I (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth nor to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions. Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis. The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.		Week 1: Course Introduction Week 2: Ambiguity and the Japanese (Aimai) Week 3: The concept of Japanese dependence (Amae) Week 4: Descent from heaven (Amakudari) Week 5: The Japanese sense of beauty (Bigaku) Week 6: The way of the warrior (Bushido) Week 7: Silence in Japanese communication (Chinmok) Week 8: Male/Female Relationships (Danjyo Kankei) Week 9: The Dou spirit of Japan Week 10: Japanese Patience & Determination (Gambari) Week 11: Japanese Social Obligations (Giri) Week 12: Implicit Communication (Haragei) Week 13: Japanese personal space (Najimu) Week 14: Review and discussion Week 15: Final presentations.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by Roger Davies & Osamu Ikeno Tutle ISBN 978-4-8053-1021-2 Yen 1,700		Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%	

09 年度以降	英語専門講読 II (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth nor to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions. Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis. The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.		Week 1: Course Introduction Week 2: Private vs Personal Stance (Honne/Tatemaie) Week 3: The Japanese Ie system Week 4: Adopting elements of foreign culture (Iitoko) Week 5: Childrearing practices in Japan (Ikuji) Week 6: Japanese virtue of modesty (Kenkyo) Week 7: Japanese sense of seasons (Kisetsu) Week 8: Laying the groundwork (Nemawashi) Week 9: Arranged Marriage in Japan (Omiai) Week 10: Folktales of Japan (Otogibanashi) Week 11: Good and Wise Mothers (Ryosaikenbo) Week 12: Seniority (Sempai/Kouhai) Week 13: Group Consciousness (Shudan Ishiki) Week 14: Review and discussion Week 15: Final presentations.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by Roger Davies & Osamu Ikeno Tutle ISBN 978-4-8053-1021-2 Yen 1,700		Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%	

09 年度以降	英語専門講読 I (Social Inequality & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will examine the relationships between education and society by looking at how educational institutions foster and maintain equalities and inequalities in society. There is a comparative component; the main course content will look at American schooling and society, but ask students to apply the knowledge they have gained to the Japanese context to better understand the growing economic disparities that are occurring, and the history of discrimination at the economic, social and cultural levels that has plagued Japan with regard to integrating ethnic minorities into the mainstream social structure. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, class, and gender on the type and quality of education individuals receive.		Week 1 – Introduction to Course, What is Social Inequality? Week 2 – How Does Social Inequality Affect the Lives of Individuals? Week 3 – The Structure of Schooling Week 4 – The Structure of Schooling (cont'd) Week 5– Social Class & Schooling Week 6 – Social Class (cont'd) Week 7 – Mid-Term Small Group Reports Week 8 – The Affect of Race & Ethnicity on Schooling Week 9 – Race & Schooling (cont'd) Week 10 – A Look at Social Class, Race & Schooling in Japan Week 11 – Social Class, Race & Schooling In Japan (Cont'd) Week 12 – Social Class, Race & Schooling In Japan (Cont'd) Week 13-15 – Educational Journeys: Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings provided in-class		In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Small Grp Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)	

09 年度以降	英語専門講読 II (Social Inequality & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
The Fall course continues exploring the inequalities, which exist in our society by applying various theoretical frameworks that attempt to analyze the structural aspects of schooling related to the production and maintenance of social equalities and inequalities. We will consider how some of the larger social inequalities influence formal schooling. We will discuss questions related to what kinds of inequality are created by educational policies and institutions themselves, along with the related question of what practices are developed to address these inequalities and promote more equitable and socially just schooling practices.		Week 1 – Introduction to Course, Equality of Opportunity Week 2 – Social Stratification & Minorities Week 3 – Immigration & Schooling Week 4 – Immigration (cont'd) Week 5 – Indigenous Peoples & Education Week 6 – Indigenous Peoples (cont'd) Week 7 – Case study reports Week 8 – Gender & Schooling Week 9 – Gender (cont'd) Week 10 – Tracking & Educational & Social Stratification Week 11 – Policies that Create Social & Educational Inequality Week 12 – Teacher-Student Relationships & Achievement Week 13 – 15 Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings provided in-class		In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Case Study Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)	

09 年度以降	英語専門講読 I (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の 1 つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。		1 Introduction 2 Overview 3 Overview 4 Overview 5 Phrase Structure 6 Phrase Structure 7 Phrase Structure 8 Binding 9 Binding 10 Binding 11 Binding 12 Empty Pronoun PRO 13 Empty Pronoun PRO 14 Review 15 Review ※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社		平常点&授業参加率（30%）、レポート&試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	英語専門講読 II (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の 1 つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。		1 Anaphors 2 Anaphors 3 Anaphors 4 Government 5 Government 6 Types of Subject 7 Types of Subject 8 Types of Subject 9 Pronouns 10 Pronouns 11 Pronouns 12 Referential Expressions 13 Referential Expressions 14 Review 15 Review ※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社		平常点&授業参加率（30%）、レポート&試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	英語専門講読 I (生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 英語の文で動詞が不定詞節を伴う構造は興味のある問題を提起する。この授業では、英語の不定詞補文構造の意味上の主語の特徴を繰り上げ構文と制御構文に関する説明を著名な言語学者 Andrew Carnie (アリゾナ大学・言語学教授)の著書の一部を読みながら考察する。		1. 繰り上げ構造と制御構造 (1) 2. 繰り上げ構造と制御構造 (2) 3. 繰り上げ構造と制御構造 (3) 4. 二種類の繰り上げ構造 (1) 5. 二種類の繰り上げ構造 (2) 6. 二種類の繰り上げ構造 (3) 7. 二種類の制御構造 (1) 〈中間試験〉 8. 二種類の制御構造 (2) 9. 二種類の制御構造 (3) 10. 意味上の主語の決定と制御構造 (1) 11. 意味上の主語の決定と制御構造 (2) 12. 意味上の主語の決定と制御構造 (3) 13. もう一つの空主語 pro (1) 14. もう一つの空主語 pro (2) 15. 不定詞の意味上の主語に関するまとめ 〈期末試験〉	
講義概要: A. Carnie (2013) <i>Syntax: A Generative Introduction</i> . (第3版)の第15章 “Raising, Control, and Empty Categories”をテキストとして用いる。この章では繰り上げ構文と制御構文を扱っている。繰り上げ構文とは、補文の主語が主節に繰り上げられ、補文が不定詞節になって、その結果、不定詞の意味上の主語が欠落する構造を持つ構文である。制御構文とは最初から意味上の主語が欠落している不定詞節である。 この授業では、Andrew Carnieの著書を丁寧に読み、英語力の向上を目指しながら、生成統語論の重要なテーマである不定詞構文とその意味上の主語に関する問題を考察する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: Andrew Carnie (2013) <i>Syntax: A Generative Introduction</i> . Third Edition. Wiley-Blackwell. (プリント使用)		予習の状況, 受講状況, 中間試験, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	英語専門講読 I (米国のアフリカ系アメリカ人の文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を理解しながら、彼らのコミュニティにおける文化的表象に注目し、社会的背景との関連をみながら、深く理解していく。 主に、音楽（ジャズ、ソウル音楽、ヒップホップなど）を扱うが、関連したアート、映画の鑑賞も行う。		1 講義の概要 2 黒人のスタイル 3 口承文化の伝統 4 ナラティブ 5 ジャズ 6 ジャズ 7 ソウル音楽 8 ファンク 9 ヒップホップ 10 ヒップホップ 11 スポーツ 12 アート 13 アート 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業中の態度 30% グループワーク 20% 期末試験 50%	

09 年度以降	英語専門講読 II (米国のラティーノ文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
米国の最大マイノリティ、ラティーノの理解することは、米国社会の理解に欠かせない。ラティーノ集団のなかから、メキシコ系、プエルトリコ系、キューバ系、サルバドル系、ドミニカ系についての概要についての文献を読んだ後、それぞれの社会で生成されている文化現象をみていく。 各集団の音楽鑑賞、および文学と詩を読みながら、社会的歴史的背景も理解しながら、理解していく。		1 講義の概要 2 ラティーノとは？ 3 メキシコ系集団 4 メキシコ系集団 5 プエルトリコ系集団 6 プエルトリコ系集団 7 サルバドル系集団 8 キューバ系集団 9 ドミニカ系集団 10 サルサ 11 サルサ 12 ヒップホップ 13 レゲトン 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		授業中の態度 30% グループワーク 20% 期末試験 50%	

09 年度以降	英語専門講読 I (ディズニー文化を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
Disney 映画、そしてそれを核として広がる壮大なDisney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。 この授業では、まず、テーマパーク「ディズニーランド」と幾つかのアトラクションについて書かれた論文数篇を読んだ後、Walt Disney 研究の第一人者Bob Thomas の著作を通じて、『白雪姫』から『シンデレラ』まで、戦前戦中までの長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどっていきます。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。		1. 春学期コース・オリエンテーション 2. テーマパーク論を読む① 3. テーマパーク論を読む② 4. テーマパーク論を読む③ 5. Launching the Animated Feature 6. Seven Dwarfs for Snow White 7. New Tools 8. Disney's Folly 9. Pinocchio 10. Fantasia 11. Bambi 12. Economizing: Dumbo 13. The New Studio, the Strike, and the War 14. Cinderella Restores the Glory 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i> , Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。		平常授業における授業貢献度、課題や提出物等の内容、および期末試験（論述中心の筆記試験）の成績から、総合的に評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 II (ディズニー文化を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。秋学期は、戦後から、Walt 亡き後のスタジオの作品（『美女と野獣』まで）を扱います。 受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。		1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens / Walt Disney's Last Films 6. Carrying on the Tradition 7. The Black Cauldron / A New Regime and a Rebirth 8. Who Framed Roger Rabbit 9. Triumph: The Little Mermaid / The Rescuers Down Under 10. Beauty and the Beast ① 11. Beauty and the Beast ② 12. Beauty and the Beast ③ 13. Beauty and the Beast ④ 14. Beauty and the Beast ⑤ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i> , Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。		平常授業における授業貢献度、課題や提出物等の内容、および期末試験（論述中心の筆記試験）の成績から、総合的に評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948 年作品) を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は 3 つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この 20 世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。		初回の授業はイントロダクション、その後は 15 回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末課題を課す。 第 1 回 イントロダクション 第 2 回～15 回 上記の授業内容を毎回行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業への貢献度 60%、期末課題 40% 授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09 年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業への貢献度 60%、期末課題 40% 授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09 年度以降	英語専門講読 I (Language, Thought, and Culture)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
There is a centuries-long debate concerning the influence of language on both a person's thought processes and behavior, and on the construction of a culture's world view. Some scholars have stated that the effect of language is minimal at best, while others claim that the effects of language pervade all aspects of thought and reality-construction. This course will survey the history of this debate and examine recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture. A word of advice: This course will require careful reading of an English textbook that many students will find very challenging. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.		1 Introduction 2-3 Naming the rainbow 4-5 A long-wave herring 6-7 The rude populations 8-11 Those who said our things before us 12-14 Plato and the Macedonian swineherd 15 Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Through The Language Glass</i> . Guy Deutscher. 2010. Picador Press: NY.		Essays 40% Test 30% Notebook 30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (Language, Thought, and Culture)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
There is a centuries-long debate concerning the influence of language on both a person's thought processes and behavior, and on the construction of a culture's world view. Some scholars have stated that the effect of language is minimal at best, while others claim that the effects of language pervade all aspects of thought and reality-construction. This course will survey the history of this debate and examine recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture. A word of advice: This course will require careful reading of an English textbook that many students will find very challenging. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.		1 Review and a look ahead 2-4 Crying Whorf 5-7 Where the sun doesn't rise in the east 8-10 Sex and Syntax 11-12 Russian Blues 13-14 Forgive us our ignorances 15 Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Through The Language Glass</i> . Guy Deutscher. 2010. Picador Press: NY.		Essays 40% Test 30% Notebook 30%	

09 年度以降	英語専門講読 I (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は注意して欲しい。この授業と併せて、国際政治史に関する授業を履修することを進める。 *なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。		1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第1週） 2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第2～第15週）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09 年度以降	英語専門講読 II (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、永野が担当する「国際関係特殊講義」の授業の履修を進める。 *なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。		1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第1週） 2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第2～第15週）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09 年度以降	英語専門講読 I (ビデオゲーム研究)	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
デジタルメディアの発達、人間と表象との関係をどのように変容させたのか。私が担当する授業では、おもな題材としてビデオゲームを取りあげながら、現代の技術的環境における人間とメディアとの関係性について、テキスト講読をつうじて考察していく。 春学期に開講される「英語専門講読 I」では、主要な講読の対象としてジェスパー・ジュールの <i>Half-Real: Video Games between Real Rules and Fictional Worlds</i> を選定する。これは昨今におけるビデオゲーム研究の重要な成果のひとつであり、ビデオゲームがわれわれにもたらしつつあるものを見極めるうえで有用な一冊であるといえる。		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 ビデオゲームについて【講義】 3 ビデオゲームについて【講義】 4 ビデオゲームについて【講義】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 テキストを読む【講読】 11 テキストを読む【講読】 12 テキストを読む【講読】 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jesper Juul. <i>Half-Real: Video Games between Real Rules and Fictional Worlds</i> . The MIT Press.		平常点 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (ロラン・バルトの記号論)	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
20 世紀後半における記号論の展開を考える上で、言語学者フェルディナン・ド・ソシュールが規定した「言語記号」概念を非言語的な領域にまで拡張したロラン・バルトの功績は重要といえる。 秋学期に開講される「英語専門講読 II」では、主要な講読の対象としてロラン・バルトの <i>Elements of Semiology</i> を選定する。本書の輪読を通して、記号論的なプログラムのもつ可能性と限界を理解していくことが本講義の目的となる。		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 記号論について【講義】 3 記号論について【講義】 4 記号論について【講義】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 テキストを読む【講読】 11 テキストを読む【講読】 12 テキストを読む【講読】 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
テキスト、参考文献		評価方法	
Roland Barthes. <i>Elements of Semiology</i> . Hill and Wang.		平常点 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	

09 年度以降	英語専門講読 I (異文化コミュニケーションの理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts, and develop creativity and (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. *内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであること、かつTOEIC800点以上の英語能力を有していることが望ましい。		1. Introduction to the course 2. Overview (Ch.1, pp. 1-4) 3. Approaching IC (Ch. 2, pp. 5-17) 4. The genealogy of IC (Ch. 3, pp. 18-24) 5. The genealogy of IC (Ch. 3, pp. 24-35) 6. Language and culture (Ch. 4, pp. 36-43) 7. Language and culture (Ch. 4, pp. 43-56) 8. Nation and culture (Ch. 5, pp. 57-65) 9. Nation and culture (Ch. 5, pp. 65-75) 10. IC at work (Ch. 6, pp. 76-83) 11. IC at work (Ch. 6, pp. 84-95) 12. Workshop 1 13. Workshop 2 14. Summary 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Piller, I. (2013). <i>Intercultural communication: A critical introduction</i> . Edinburgh. UK: Edinburgh University Press.		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

09 年度以降	英語専門講読 II (異文化コミュニケーションの理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts, and develop creativity and (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. *内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであること、かつTOEIC800点以上の英語能力を有していることが望ましい。		1. Introduction to the course 2. Review of the spring semester 3. IC for sale (Ch. 7, pp. 96-101) 4. IC for sale (Ch. 7, pp. 101-110) 5. Intercultural romance (Ch. 8, pp. 111-120) 6. Intercultural romance (Ch. 8, pp. 120-127) 7. IC and exclusion (Ch. 9, pp. 128-132) 8. IC and exclusion (Ch. 9, pp. 132-143) 9. IC in a multilingual world (Ch. 10, pp. 144-156) 10. IC in a multilingual world (Ch. 10, pp. 144-156) 11. Workshop 1 12. Workshop 2 13. Workshop 3 14. Summary 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Piller, I. (2013). <i>Intercultural communication: A critical introduction</i> . Edinburgh. UK: Edinburgh University Press.		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

09 年度以降	英語専門講読 I (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、テキストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが今からとても楽しみである。		1. 導入 方法論、評価システムの説明など 2. 時事 現代アメリカ情勢 3. Web 情報 I TED (http://www.ted.com/) 4. 演説 I Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞 5. 学術論文 I Critical Discourse Studies 関連 6. Web 情報 II CCHR (http://www.cchr.org/) 7. 演説 II Martin Luther King Jr. 8. 学術論文 II Political Language 9. Web 情報 III http://www.prisonplanet.com/ 10. 企業広告 “Think Different” (Apple) 11. 洋楽歌詞 Taylor Swift その他 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、Portal 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5 頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4 回以上欠席は単位を与えない。	

09 年度以降	英語専門講読 II (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を採り上げる。時事、演説、論文、物語、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、テキストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが、この授業の有終の美を飾ることは間違いないと思う。		1. 導入 方法論、評価システムの説明など 2. 時事 ワクチン・医療と健康 3. Web 情報 I TED (http://www.ted.com/) 4. 演説 I Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説 5. 学術論文 I Discourse in Society 関連 6. Web 情報 II http://stormcloudsgathering.com/ 7. 演説 II John F. Kennedy ~ Lyndon B. Johnson 8. 学術論文 II Noetic Science 9. Web 情報 III http://www.paulcraigroberts.org/ 10. 物語 Aesop's Fables 等 11. 洋楽歌詞 Cold Play その他 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、Portal 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5 頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4 回以上欠席は単位を与えない。	

09 年度以降	英語専門講読 I (火2) (ツーリズム研究の現代的課題)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、観光研究の対象となる諸事象、とくに近年関心が寄せられている主要な観光形態について、基礎的な理解を得ることを目的とする。 具体的には、<i>key concepts in tourist studies</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムが抱える課題について理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分を担当者がコピーすること。		1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Sustainable Tourism 4、Eco Tourism /SIT 5、Cultural Tourism /Heritage Tourism 6、Sports and Adventure / Festivals and Events Tourism 7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism 8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 9、Rural Tourism /Urban Tourism 10、Health and Wellness Tourism/ Religious and Spiritual Tourism 11、Backpacking/ Mature Tourism 12、Dark Tourism/ Ethical Tourism 13、Gay Tourism/ Sex Tourism 14、総合討論 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage.		授業内発表 40% 授業への参加 30% 期末課題 30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (火2) (ツーリズム研究の方法と理論)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 <i>key concepts in tourist studies</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を全訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、該当部分を担当者がコピーすること。		1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Business Tourism/ Economics of Tourism 4、Experience Economy/ e-Tourism 5、Crisis Management /Destination Management 6、Geography of Tourism /Planning Tourism 7、Regeneration 8、Sociology of Tourism /Anthropology of Tourism 9、Authenticity 10、Tourist Gaze 11、Identity 12、Mobility 13、Post Tourism 14、総合討論 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage.		授業内発表 40% 授業への参加 30% 期末課題 30%	

09 年度以降	英語専門講読 I (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【概要と目的】 言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得 (SLA: second language acquisition) は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法など、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。 この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文 (一つの論文は十数頁) を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問 (Research question(s)) に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらいことも含めます。 これらの活動により、SLA 研究の専門的な知識を得るだけでなく、ロジカルな思考の訓練、高度な英文を読み解くスキル育成を目指します。		1. 【ガイダンス】 実証研究とは何か 2. 実証研究論文の一例 (練習用日本語論文) 3. 論文 (1-1) : 実証研究体験、内容理解の確認 4. 論文 (1-2) : 内容理解の確認 5. 論文 (1-3) : 内容理解の確認 6. 論文 (1-4) : ディスカッション 7. 論文 (2-1) : 実証研究体験、内容理解の確認 8. 論文 (2-2) : 内容理解の確認 9. 論文 (2-3) : 内容理解の確認 10. 論文 (2-4) : ディスカッション 11. 論文 (3-1) : 実証研究体験、内容理解の確認 12. 論文 (3-2) : 内容理解の確認 13. 論文 (3-3) : 内容理解の確認 14. 論文 (3-4) : ディスカッション 15. 【まとめ】 学期末レポートの課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		毎回の授業中での活動 (55%) 学期末レポート (45%)	

09 年度以降	英語専門講読 II (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【概要と目的】 春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。 論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。		1. 【ガイダンス】 - 論文 (1-1) : 実証研究体験 2. 論文 (1-2) : 内容理解の確認 3. 論文 (1-3) : 内容理解の確認 4. 論文 (1-4) : 内容理解の確認 5. 論文 (1-5) : 内容理解の確認 6. 論文 (1-6) : Summary 7. 論文 (1-7) : Discussion 8. 論文 (2-1) : 実証研究体験 9. 論文 (2-2) : 内容理解の確認 10. 論文 (2-3) : 内容理解の確認 11. 論文 (2-4) : 内容理解の確認 12. 論文 (2-5) : 内容理解の確認 13. 論文 (2-6) : Summary 14. 論文 (2-7) : Discussion 15. 【まとめ】 Guidance on the final report	
テキスト、参考文献		評価方法	
海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		毎回の授業中での活動 (55%) 学期末レポート (45%)	

09 年度以降	英語専門講読 I (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, the Internet, endangered languages, and so forth. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.		Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter and topic. Week 3: Selected chapter and topic. Week 4: Selected chapter and topic. Week 5: Selected chapter and topic. Week 6: Selected chapter and topic. Week 7: Quiz I. Journals due. Week 8: Selected chapter and topic. Week 9: Selected chapter and topic. Week 10: Selected chapter and topic. Week 11: Selected chapter and topic. Week 12: Selected chapter and topic. Week 13: Selected chapter and topic. Week 14: Selected chapter and topic. Week 15: Quiz II. Journals due.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>A Little Book of Language</i> . (Yale University Press).		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09 年度以降	英語専門講読 II (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, endangered languages, and so forth. By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.		Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter and topic. Week 3: Selected chapter and topic. Week 4: Selected chapter and topic. Week 5: Selected chapter and topic. Week 6: Selected chapter and topic. Week 7: Quiz I. Journals due Week 8: Selected chapter and topic. Week 9: Selected chapter and topic. Week 10: Selected chapter and topic. Week 11: Selected chapter and topic. Week 12: Selected chapter and topic. Week 13: Selected chapter and topic. Week 14: Selected chapter and topic. Week 15: Quiz II. Journals due.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>A Little Book of Language</i> . (Yale University Press).		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09 年度以降	英語専門講読 I (子どもの言葉獲得)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> ヒトが「ことばを学ぶ」ということについて、(1) 乳幼児が母語(L1)を獲得する、および、(2) 第二言語(L2)や外国語(FL)として習得する、という2つの側面からいくつかのトピックを読み、その基礎を学ぶ。 また、(2)に関しては、英語学習者・指導者として、特に英語らしい音の獲得の問題点に目を向け、知識を得る。 テキストは比較的やさしい入門書である。ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。 <u>講義概要</u> 学生は毎回の予習が前提となり、精読の練習をする。内容について、教員が解説・補足をし、また質疑応答・議論を行う。各章の後に担当者が配布資料とともにまとめを発表する。 <メッセージ> ・コツコツ: 専門的なものを読むことは最初は少し大変かもしれないが、例年見ていると、少しずつ慣れていく。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できるとされる。進度や理解をチェックしながら進めて行くので、一緒に頑張りましょう。		1. Introduction, 1st Language Acquisition (乳幼児の母語獲得) 2. (O'Grady, 2005) Ch 2 WORD HUNT (語をさがせ！) Ch 2-1 Where are the words 3. Ch 2-2 How children find words 4. Ch 2-2 (2) 5. Ch 2-3 Learning Inflection 6. Ch 2-3 (2) 7. Ch 6 TALKING THE TALK (音を聞く、音を出す！) Ch 6-1 An ear for Language, Ch 6-2 Can you hear that? 8. Ch 6-3 Babbling, 6-4 Early vowels and consonants 9. Ch 6-5 Making adjustments 10. Ch 5 WHAT SENTENCES MEAN (文の積み木) 11. Ch 5-1 What a word can do, Ch 5-2 Two is better than one 12. Ch 5-3 Passive Tenses 13. Ch 5-4 Understanding things that aren't there 14. Ch 5-5 Understanding pronouns 15. Ch 5-6 Can you quantify that?	
テキスト、参考文献		評価方法	
O'Grady, William (2005) <i>How Children Learn Language</i> . Cambridge University Press. (ISBN: 10: 0521531926) その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 25%、課題・クイズ:約 25%、試験:約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09 年度以降	英語専門講読 II (外国語習得 音の中心に)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。 <u>講義概要</u> 春学期に同じ		1. Ch 9 2nd Language Acquisition (第二言語習得) 2. (P&R, 2004) Ch 9 Issues in Second-Language Acquisition 3. Other Linguistic Factors, Exercise A 4. Exercise A (2) 5. Patterns in Second -Language Acquisition, Phonology, Exercise B (音の問題) 6. Syntax, Exercise D (統語の問題) 7. Review Exercises 8. (Katz, 2013) Ch 9 Perusing the Phonological Rules of English (英語の音を詳しく) 9. Rule 1: Stop Aspiration, Rule 2: Aspiration Blocked by /s/ 10. Rule 3: Approximant Devoicing, Rule 4: Unreleased Stops 11. Rules 5, 6 and 7: Glottal Stopping 12. Rule 8: Alveolar Tapping 13. Rules 9 and 10: Syllabic Consonants (Nasals, Liquids) 14. Rule 11: Dentalized Alveolars, Rule 12: Velarized Laterals, Rule 13 Nasalized Vowels 15. Applying the Rules, Exercises	
テキスト、参考文献		評価方法	
Parker, Frank and Riley, Kathryn. (2009). <i>Linguistics for Non-Linguists</i> . (5 th ed.) Allin and Bacon. (ISBN: 10: 0132464268) Katz, William. (2013). <i>Phonetics for Dummies</i> . John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 10: 1118505085). その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 25%、課題・クイズ:約 25%、試験:約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09 年度以降	英語専門講読 I (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、国際関係論の中でも民主化、「アラブの春」、核拡散、北朝鮮情勢などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。		第 1 回 オリエンテーション、発表担当者決め 第 2～15 回 要約、発表、ディスカッション (論文) • U.S. National Intelligence Council, <i>Global Trends 2025: A Transformed World</i>, November 2008. • Wang Jisi, China's Search for a Grand Strategy, <i>Foreign Affairs</i>, March/ April 2011. • African Child Mortality: The Best Story in Development, <i>The Economist</i>, May 19, 2012. • Bill McKibben, Climate Change, <i>Foreign Policy</i>, January/ February, 2009.	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		授業への参加態度、要約、発表、レポートの総合評価とする。	

09 年度以降	英語専門講読 II (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、国際関係論の中でも米中関係、国連改革、人口増加、エネルギー問題などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。		第 1 回 オリエンテーション、発表担当者決め 第 2～15 回 要約、発表、ディスカッション (論文) • Joshua Kurlantzick, Innovation's Long March, <i>Bloomberg Businessweek</i>, July 2, 2012. . • Francis Fukuyama, The Future of History: Can Liberal Democracy Survive the Decline of the Middle Class?, <i>Foreign Affairs</i>, January/ February 2012. • Christopher Rhoads, Peacekeepers at War, <i>The Wall Street Journal</i>, June 23-24, 2012. • Africa: MCC and Coca-Cola's Shared Commitment to Water, <i>all Africa.com</i>, March 21, 2012.	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		授業への参加態度、要約、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

09 年度以降	英語専門講読 I (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、異文化間コミュニケーション論に関する基礎的な文献から専門的な文献までを読みます。春学期は特に、一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で、異文化コミュニケーションの概論的な文献の内容を理解することを目的にします。 授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。		1. 授業オリエンテーション 2. プレゼンテーションの準備、方法、資料の作成 3. 異文化コミュニケーション研究の意義（講義） 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 春学期のまとめ グループプレゼンテーションによる授業を行います。グループは、受講生確定後に決定します。文献は随時配布します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
1) その他にコピー教材を配布します。 2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。		グループワーク（準備、発表の仕方、発表内容）、授業への貢献度（質疑応答、議論への参加）、予習確認テスト、学期末レポートまたは試験により評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、異文化コミュニケーション論に関する専門的な文献（書籍・論文）を読みます。この際、より専門的な内容について書かれた英文を読む技術や専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。 秋学期では、特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため、文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い、およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします。 授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。		1. 授業オリエンテーション 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 秋学期のまとめ グループプレゼンテーションによる授業を行います。文献は随時配布します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
1) コピー教材を配布します。 2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。		グループワーク（準備、発表の仕方、発表内容）、授業への貢献度（質疑応答、議論への参加）、予習確認テスト、学期末レポートまたは試験により評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (火 4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的は以下の 3 点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究 (area studies) のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読 (現代東南アジアの経済・政治) I (春) と同 II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で 1 時間程度の英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし) を実施します。		第 1 回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第 2 回目以降の担当を決めます。 第 2 回～第 15 回：テキストのチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ (次週) を行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2013</i>, ISEAS, 2013. (約 360 頁、価格は 2500 円程度)。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。 CIA, The World Factbook (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/) ・テキストは担当者が授業開始前に一括注文します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が 3 回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (火 4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読 (現代東南アジアの経済・政治) I (春) と同 II (秋) は継続性が強いので、<u>本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。</u>また、本授業の受講者数には上限があります。		第 1 回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第 2 回目以降の担当を決めます。 第 2 回～第 15 回：テキストのパート (チャプター) に沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： I Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2013</i>, ISEAS, 2013. (約 360 頁、価格は 2500 円程度)。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。 CIA, The World Factbook (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/) ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が 3 回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の 1 / 3 以上欠席された方は単位をあげません。遅刻 2 回で欠席 1 回にカウント。	

09 年度以降	英語専門講読 II (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09 年度以降	英語専門講読 I (火 4) (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。 第1週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。 第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。		1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 2. グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー（ビルマ）など	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2013.		プレゼン資料、プレゼンテーション、授業内活動参加、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (火 4) (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。 第1週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。 第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。		1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 2. グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー（ビルマ）など	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2013.		プレゼン資料、プレゼンテーション、授業内活動参加、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 アルフレッド・ヒッチコック監督の映画作品を諸哲学的立場から批評した論考を精読する。精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて、映画の綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化的意義を探っていく。		1. Course Orientation 2. <i>Sabotage</i> : Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 3. <i>Sabotage</i> : Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 4. <i>Rope</i> : Nietzsche and the Art of Murder 5. <i>Rope</i> : Nietzsche and the Art of Murder 6. <i>Psycho</i> : Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 7. <i>Psycho</i> : Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 8. <i>The Birds</i> : Plato and Romantic Love 9. <i>The Birds</i> : Plato and Romantic Love 10. Featherless Biped: The Concept of Humanity in <i>The Birds</i> 11. Featherless Biped: The Concept of Humanity in <i>The Birds</i> 12. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in <i>Breakdown</i> 13. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in <i>Breakdown</i> 14. Review of chapters 15. Wrap up	
講義概要 映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講義の目的は、映画をエンターテインメントとして楽しむのではなく、映画からレトリック理論の探究という今まで意識してこなかったであろう「読み」を行うことである。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテキストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須である。		テキスト、参考文献 <i>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics</i> . ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2007)	
		評価方法 定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 II (映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		1. Course Orientation 2. <i>Vertigo</i> and the Pathologies of Romantic Love 3. <i>Vertigo</i> and the Pathologies of Romantic Love 4. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in <i>North by Northwest</i> 5. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in <i>North by Northwest</i> 6. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in <i>North by Northwest</i> 7. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in <i>North by Northwest</i> 8. Democracy Adrift in <i>Lifeboat</i> 9. Democracy Adrift in <i>Lifeboat</i> 10. <i>Rear Window</i> : Hitchcock's Allegory of the Cave 11. <i>Rear Window</i> : Hitchcock's Allegory of the Cave 12. <i>Rear Window</i> : Looking at Things Ethically 13. <i>Rear Window</i> : Looking at Things Ethically 14. Review of chapters 15. Wrap up	
テキスト、参考文献 <i>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics</i> . ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2007)		評価方法 定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 I (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定された部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春) と同 II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし) を実施します。		第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。 第2回～第15回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの中から article 選択 ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i>, ISEAS. ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード) ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布 (場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます)。事前入手の必要はありません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。		授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春学期) と同 II (秋学期) は継続性が強いので、<u>本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。</u>また、本授業の受講者数には上限があります。		第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。 第2回～第15回：指定したテキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの中から article 選択 ISEAS, <i>ISEAS Monitor</i>, ISEAS. ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード) ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。 ・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布 (場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます)。事前入手の必要はありません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。		授業内活動参加、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(<i>The Pearl</i>, 1947)を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 授業には予習をして臨んで下さい。		1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2: 小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3: Introduction by Linda Wagner-Martin 読解 4: <i>The Pearl</i> の時代的文化的背景 5: Native American について 6: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 1 7: 同上 8: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 2 9: 同上 10: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 3 11: 同上 12: Chapter 1~3 について 詳細解説と問題提起 13: Chapter 1~3 について 学生発表 14: Review 15: テスト／期末レポート回収	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト : John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		授業参加度 (30%)、提出物 (20%)、授業中の発表 (20%)、期末レポート (30%) を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に引き続き、<i>The Pearl</i> を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 *授業には予習をして臨んで下さい。		1: 前期レポートについてグループ発表 2: 同上 3: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 4 4: 同上 5: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 5 6: 同上 7: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 6 8: 同上 9: Chapter 4~6 について 詳細解説と問題提起 10: Chapter 4~6 について 学生発表 11: 同上 12: 関連資料 読解と考察 13: 同上 14: Review 15: テスト／期末レポート回収	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト : John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		授業参加度 (30%)、提出物 (20%)、授業中の発表 (20%)、期末レポート (30%) を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09 年度以降	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		* 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。教室で読むテキストは、第 1 回～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（450 字以上 500 字以下）に関する事など、詳細は教室にて説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで 60%。 観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。2 編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。	

09 年度以降	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		* 秋学期から履修する人は、第 1 回の授業の資料について、必ず事前に問い合わせください。 毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。教室で読むテキストは、第 1 回～15 回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（450 字以上 500 字以下）に関する事など、詳細は教室にて説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで 60%。 観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。2 編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。	

09 年度以降	英語専門講読 I (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
インコタームズ®(Incoterms®)とは、国際商業会議所(the International Chamber of Commerce; ICC)が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件(trade terms)の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。 ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件を考察します。(下欄に続く)。		1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略 3. E 類型（出荷地条件）の詳細 4.-5. F 類型（主要運賃買主負担条件）の詳細 6.-8. C 類型（主要運賃込み条件）の詳細 9.-11. D 類型（到着条件）の詳細 12. 改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較 13.-14. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練 15. 春学期の総復習および質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		期末試験の結果(概ね 80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重)を合計して評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
(上欄から続く)春学期は、Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲(価格の構成要素)、危険負担の分岐点(貨物の引渡し場所)、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」(Revised American Foreign Trade Definitions, 1941)の貿易条件についても学習する機会をもうけます。 秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス(logistics)の観点から有利な貿易条件を選択する戦略考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。		1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3. Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4.-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件(EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP)の詳細 8.-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4 条件(FAS, FOB, CFR, CIF)の詳細 11.-12. 各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15. 秋学期の総復習および質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		期末試験の結果(概ね 80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重)を合計して評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (水 2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、以下の 3 つの目標 (チャレンジ) が設定されています。 第 1 の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック (新聞・雑誌記事) に注目して討論することです。 第 2 の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第 3 の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料 (レジュメ) を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。		受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に 6 つのグループを作ります。 第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方、テーマに関する事例の紹介) 第 2 回～ 7 回 受講生によるプレゼンと討論 第 8 回 まとめ 第 9 ～ 1 4 回 受講生によるプレゼンと討論 第 1 5 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。		プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (水 2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、以下の 3 つの目標 (チャレンジ) が設定されています。 第 1 の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック (新聞・雑誌記事) に注目して討論することです。 第 2 の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第 3 の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料 (レジュメ) を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。		受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に 6 つのグループを作ります。 第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方、テーマに関する事例の紹介) 第 2 回～ 7 回 受講生によるプレゼンと討論 第 8 回 まとめ 第 9 ～ 1 4 回 受講生によるプレゼンと討論 第 1 5 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。		プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on reading different types of articles to build and develop integrated reading skills.		1. Introduction 2. The Importance of NVC 3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands 4. Smile across cultures 5. The Picture Paints a Thousand Words 6. Body Language: Is It Important 7. The Confusing World of Gestures 8. Time Value Across Cultures 9. Interpersonal Space and Distance 10. Space Communication Style 11. The Tempura Metaphor 12. The Ping-Pong Metaphor 13. Gender Styles in Communication 14. Culture and Communication Style 15. Summary and Assessment	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09 年度以降	英語専門講読 II (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on reading different types of challenging articles to build and develop integrated reading skills.		1. Review of First Term 2. Computer for Literacy? 3. The Power of You Tube 4. SNS: Addicting? 5. Fashion in Italy and around 6. Self-Disclosure across Cultures 7. Self-Assertiveness across Cultures 8. The Skills of Active Listening 9. Conflict Management 10. Culture Values: Are they Changing? 11. Ethnocentrism 12. Barrier to Communication: Stereotypes 13. Barrier to Communication: Prejudice 14. Barrier to Communication: Discrimination 15. Summary and Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09 年度以降	英語専門講読 I (音声が「言語音」となるしくみ)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> 日ごろ意識しない様々な音声現象（子供のおしゃべり・空耳など）が実はある程度音響音声学の理論で説明がつくという面白さに気付く。現象から仮説を立て、実験・分析をもって実証する、という過程の大切さを理解する。 <u>概要</u> 英語音声学の基本概念を元に、日常に見られる様々な現象の実例を通して学習する。授業では各章を事前に読んでおくことを前提に進めるので、予習が肝要となる。		1. コース概要 1：オリエンテーション 2. コース概要 2：音声学と音響音声学について 3. 第 1 章：音声とは 4. 第 2 章：音響音声学の基礎 5. 第 3 章：母音の知覚 6. 第 4 章：子音の知覚 7. 第 1 章～4 章のまとめ 8. <中間テスト> 9. 第 5 章：カテゴリー知覚（範疇知覚） 10. 第 6 章：音声知覚の運動理論 11. 第 7 章：弁別的素性と音声素性検出器 12. 様々な音声現象と最新の研究（1） 13. 様々な音声現象と最新の研究（2） 14. <期末テスト> 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジャック・ライアルズ 著／今富摂子・荒井隆行・菅原勉 監訳／新谷敬人・北川裕子・石原健 訳 『音声知覚の基礎』（海文堂、2003 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に、課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 II (音声が「言語音」となるしくみ)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> 日ごろ意識しない様々な音声現象（子供のおしゃべり・空耳など）が実はある程度音響音声学の理論で説明がつくという面白さに気付く。現象から仮説を立て、実験・分析をもって実証する、という過程の大切さを理解する。 <u>概要</u> 英語音声学の基本概念を元に、日常に見られる様々な現象の実例を通して学習する。授業では各章を事前に読んでおくことを前提に進めるので、予習が肝要となる。		1. コース概要 1：オリエンテーション 2. コース概要 2：音声学と音響音声学について 3. 第 8 章：音響的不変性の理論 4. 第 9 章：両耳分離聴 5. 第 10 章：並列分散処理モデル・ボトムアップ対トップダウン 6. 第 11 章：乳児の音声知覚 7. 第 8 章～11 章のまとめ 8. <中間テスト> 9. 第 12 章：音声知覚の発達 10. 第 13 章：動物の音声知覚 11. 第 14 章：音声知覚の障害 12. 様々な音声現象と最新の研究（1） 13. 様々な音声現象と最新の研究（2） 14. <期末テスト> 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジャック・ライアルズ 著／今富摂子・荒井隆行・菅原勉 監訳／新谷敬人・北川裕子・石原健 訳 『音声知覚の基礎』（海文堂、2003 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に、課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. <i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.		1. Introduction 2. Reflecting on your own language learning 3. Myth 1: Language learning and age 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 2: Bilingualism 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 3: Input, output, and interaction 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 4: Attention and noticing 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Second Language Acquisition Myths</i> S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)		In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)	

09 年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. <i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.		1. Introduction 2. Reviewing myths 1 to 4 3. Myth 5: Explicit and implicit learning 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 6: Correction and recasts 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 7: Individual differences 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 8: Social approaches 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Second Language Acquisition Myths</i> S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)		In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)	

09 年度以降	英語専門講読 I (History of International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
This course examines the history of international relations from the beginning of the First World War to the end of the Cold War. It attempts to clarify the process in which contemporary international politics took shape as it is today. The spring semester will cover the period between the beginning of the First World War to the end of the Second World War. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. There will be quizzes and/ or assignments every week. <u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English.		1. Introduction 2. The Second Phase of World War I (1) 3. The Second Phase of World War I (2) 4. The World in Postwar Confusion (1) 5. The World in Postwar Confusion (2) 6. The Return of Relative Stability (1) 7. The Return of Relative Stability (2) 8. Midterm Examination 9. The Collapse of the International Order (1) 10. The Collapse of the International Order (2) 11. The Beginning of War in East Asia and Europe (1) 12. The Beginning of War in East Asia and Europe (2) 13. World War II after Pearl Harbor (1) 14. World War II after Pearl Harbor (2) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
有賀貞『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	英語専門講読 II (History of International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on the Cold War period. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. <u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English.		1. Introduction 2. The Onset of the Cold War (1) 3. The Onset of the Cold War (2) 4. Turbulence in East Asia (1) 5. Turbulence in East Asia (2) 6. The Post-Stalin USSR and East-West Relations (1) 7. The Post-Stalin USSR and East-West Relations (2) 8. Midterm Examination 9. The Retreat of Western European Imperialism (1) 10. The Retreat of Western European Imperialism (2) 11. Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy (1) 12. Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy (2) 13. The End of the Cold War (1) 14. The End of the Cold War (2) 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
有賀貞『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	英語専門講読 I (ツーリズムの現状と課題)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国を訪問する外国人旅行者は、昨年過去最高の 1 0 0 0 万人を突破したが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムを理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。		1. Orientation 2. Outline of Tourism in Japan 3. Japan's World Heritage Site 4. Presentation & Discussion 1-(1) 5. Presentation & Discussion 1-(2) 6. Presentation & Discussion 1-(3) 7. Presentation & Discussion 1-(4) 8. Culture of Japan & "Cool Japan" 9. Travel & Tourism Competitiveness 10. Japanese National Culture 11. Pros and Cons of Japanese Tourism 12. Presentation & Discussion 2-(1) 13. Presentation & Discussion 2-(2) 14. Presentation & Discussion 2-(3) 15. Presentation & Discussion 2-(4)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストを適宜配布する。		受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (The Leaders of Airline Business)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 本講義においては、LCCモデル創設の原点に立ち返り、LCCモデル創出の背景、成功の秘訣、また、その企業をリードした名経営者の手法を学習する。 講義概要： 航空は大変重要な産業であるが、米国における航空の重要性は我が国の比ではない。米国はライト兄弟による人類初飛行以来、たえず世界をリードしている航空の最先進国である。近年LCC（低コスト航空会社）が注目を集めているが、その原点は米国にあり、この新しいビジネスモデルは、小規模な航空会社が大手航空会社との競争に打ち勝つために創造したものであった。しかし、同様のモデルを採用しながらも破綻した企業もあり、本学習を通して企業経営の成功と失敗の本質の考察も行う。		1. Orientation 2. Outline of LCC 3. PSA's Modest Beginning 4. Southwest's Early Years 5. Response to Local and National Regulation and Deregulation 6. PSA's Diversification versus Southwest's Focus 7. Kelleher – The Founder as CEO 8 – 9. Southwest versus Traditional Carriers: Different Approaches to Expansion 10. The Southwest Effect 11. The End of an Era? 12. Presentation & Discussion (1) 13. Presentation & Discussion (2) 14. Presentation & Discussion (3) 15. Presentation & Discussion (4)	
テキスト、参考文献		評価方法	
“Entrepreneurs, Managers, and Leaders-What the Airline Industry Can Teach Us About Leadership” の対象ページを配布する。		受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09 年度以降	英語専門講読 I (小さき人々の歴史——変化する英国社会を読む)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
2004 年の英国のベスト・セラーのひとつ、Andrea Levy の <i>Small Island</i> (全 439 頁) を読みます。この小説は出版の年に Whitbread Book of the Year と Orange Prize for Fiction を、翌年には Common Wealth Writers' Prize を受賞。2007 年には、史上最大規模のリーディング・プロジェクトが英国全土で展開されました。これほどまでにひろく読まれることになった作品、その魅力はなにでしょうか。 おもしろい構成をしています。1948 と Before とそれぞれ題されたセクションが交互に登場し、各セクションに属する章のひとつひとつには、Queenie、Hortense、Gilbert、Bernard と、主要登場人物の名前がついています。 1948 年とは、実は英国の現代史にとって大きな意味をもつ年です。その年の 6 月、英国が現在のような、多民族・他民族・多文化社会へと変貌していく大きなモメントとなる出来事があったのです。1948 年 6 月 23 日、429 人のジャマイカ人移民を乗せた船が、ティルベリー港に到着しました。戦後の(旧)植民地から英国への大量移民の幕開けです。「母国」の戦後復興の労働力として植民地からやってきた黒い肌の英国籍の人々は、よりよい生活を夢みながら、船を下りました。しかし彼らを待ち受けていた現実とは大きく異なるものでした。一方、移民を受け入れ側の白い英国人たちの生活もいやおうなく変化していきます。		1. Introduction—小さき人々の戦争と記憶の小説 2. Prologue—I thought I'd been to Africa. 3. <1948> chap1+2—幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5—Hortense のジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8—Gilbert と Hortense 6. <1948>chap9&10—幻滅のロンドン(2) 7. <Before> chap11-14—英国空軍軍人 Gilbert の夢と失望 8. chap15-17—Gilbert と Queenie の出会い、差別と友情 9. chap18-19—Gilbert の再出発 10. <1948> chap20-22—それぞれの 1948。Hortense, Gilbert & Queenie 11. <Before> chap23-24—Queenie の幼年時代と青春 12. chap25-27—Queenie と Bernard の出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 13. chap28-29—戦場へと去る Bernard と Queenie の恋 14. まとめの講義+レポート指導 15. まとめの講義2+レポートガイダンス 授業は原則として、1. 全体での導入 2. グループワーク 3. 全体での確認 4. プレゼンテーションの構成で行ないます。また受講生の希望によって、授業の一部は英語で行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Andrea Levy, <i>Small Island</i> + ハンドアウト テキストは版を統一するために、講師が一括して Amazon でとりよせ、第一回目の授業で購入していただきます。		授業内活動参加 40% 小テスト 30% レポート 30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (小さき人々の歴史——変化する英国社会を読む)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
(上からの続き) <i>Small Island</i> は、英国社会のこの激動の時期と、そこにいたるまでの歴史を、普通の人々の人生を丹念に語ることで描き出します。 歴史とは何でしょう。年表に羅列されるいわゆる歴史上の出来事をつなげたものでしょうか。伝記の主人公たちの人生を総合したものでしょうか。それだけではないでしょう。<i>Small Island</i> を読むと、生きられた人生の数だけ歴史の貌があるのだと実感するはずです。Hortense と Gilbert はジャマイカ生まれの黒人。白人の Queenie は英国の田舎のブッチャーの娘。Bernard はロンドン生まれの銀行員の息子。第二次世界大戦と戦後の移民という歴史の動きが、大西洋を隔てた場所にそれぞれ異なる背景をもって生まれた四人の人生をロンドンで交差させます。 作者は両親が 1948 年に英国に移住してきた、ロンドン生まれのジャマイカ系英国人女性。移民第二世代のブラック・ブリティッシュの作家が描く、「小さき人々の歴史」を読みながら、英国社会の変化についても考察します。 テキストを深く理解するには、本文の精読のみならず、歴史・文化・社会についての様々なリサーチも必要ですので、文献検索能力も身につけていただくつもりです。		1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32—日常の闘い：現実を知る Gilbert と強気の新参者 Hortense 3. chap33-34—三日目のロンドン：Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明の Bernard の帰還 4. <Before>chap35-38—Bernard の戦争 5. chap39-42—Bernard の戦争 6. chap43-45—Bernard の戦争 7. <1948> chap46-48—癒えぬ戦争の傷 8. chap49-51—Hortense の挫折 9. chap52-53—衝撃の事実：Queenie の恋の結果 10. chap54-55—誤解・告白・理解 11. chap56-57—誤解・告白・理解 12. chap58-59—それぞれの出発 13. 講義 Changing Britannia (1) 14. 講義 Changing Britannia (2) 15. 講義 過去を語るとは、歴史とは？ 一回の授業で読む頁数は 20 頁から 30 頁ほどです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

09 年度以降	英語専門講読 I (ビートに関する散文を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
「ビート」について書かれた、おもに、散文を精読する。 この、高度消費社会が浸透した日本。その 50 年以上前にそういった社会の在り方に対して違和感を提示していたビート詩人たち。かれらはなにを考えていたのか。この授業の目的は、そのビート詩人たちが示してくれた道筋を、21 世紀を迎えて 10 数年たった日本において、どのようなこれからの道筋を示してくれるのか、どのような“alternative” なあり方を示してくれるのか、おもに、ビートについて書かれた散文、そしてそれに対応する詩を読んで、これを探りたい。 テーマ系としては、「超高度消費社会」、「時間の空間化」というものがあげられるが、それのみにとどまらない。		1. introduction 2~5. “Variations on a Generation” (Ann Charters) 6. “A Supermarket in California” (Allen Ginsberg) 7~11. “Go (excerpt)” (John Clellon Holmes) 12~15. “Beat Zen, Square Zen, Zen” (Alan Watts)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable Beat Reader</i> (ed. Ann Charters, Penguin)		授業への参加度、そして、学期末のレポート。	

09 年度以降	英語専門講読 II (ビートに関する散文を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、ビートに関する散文を、詩を時折交えながら読む。 世の中のいろいろなものは、連続性を持つことを、こういった散文や詩から認識してもらいたいと思う。 音楽は J・Pop 専門、アルバム単位で聞かず、好きな曲をピンポイントでダウンロードして聞くだけ、そういう学生に最適な授業である。		1. introduction 2~8. “The White Negro” (Norman Mailer) 9~13. “The Game of the Name” (John Clellon Holmes) 14~15. “Piute Creeks”、“Axe Handles”、“Pine Tree Tops” (Gary Snyder)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable Beat Reader</i> (ed. Ann Charters, Penguin)		春学期同様。	

09 年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
時代の変化がますます激しくなってきたことを実感する機会が更に多くなってきましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないのでしょうか。 そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、詩を学ぶことも実用的だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「言葉の力」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「詩を学ぶ＝生き方を学ぶ」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージがしにあるとしたら、詩を一面的にしかみていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。(↓に続きます。)		私が解説する講義形式になるとときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。 発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。 1. ガイダンス 2. 履修確定の学生との確認、グループ&担当箇所の決定 3-4 オーストラリアの歴史①② 5-6 アボリジニの歴史①② 7-8 アボリジニの神話・伝説①② 9-10 英訳されたアボリジニの詩①② 11-14 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15. 講義のまとめ 第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。		※ 学期末レポート（提出しなかった場合不可）50％ 授業での参加度（プレゼン発表&発言）50％ ※ 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
(↑からの続きです) 「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないのでしょうか。 それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。) 講義目的をまとめて書くと、「言葉の力を体感する」「オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す」「オーストラリアを通して己を考える」また、発表形式の授業ですので「自分の言葉で考え、語る」こととなります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「自分の意見を他人に正確に伝える」ことも学んでほしい大事なことです。 授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！		春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1. ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。		※ 学期末レポート（提出しなかった場合不可）50％ 授業での参加度（プレゼン発表&発言）50％ ※ 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	英語専門講読 I (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。 講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げる。政治や技術、医療などに関する英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。「通訳I」(木曜1限) および「通訳II」(木曜2限) とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・政治 2. 政治 3. 技術 4. 技術 5. 犯罪 6. 犯罪 7. 中間テスト 8. IT 通信 9. IT 通信 10. 産業 11. 産業 12. 医療厚生 13. 医療厚生 14. 期末テスト 15. 春学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	英語専門講読 II (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。 講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げる。テーマは教育、環境、医学、経済など。英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましい。「通訳I」(木曜1限) および「通訳II」(木曜2限) とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・教育 2. 教育 3. 国際関係 4. 国際関係 5. 環境 6. 環境 7. 中間テスト 8. 軍事 9. 軍事 10. 医学 11. 医学 12. 経済 13. 経済 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。		1. 授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。 2. 前週に配布した質問表による討論。 3-15. 同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）	

09 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。		1. 春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。 2. 質問表による討論。 3-15. 同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）	

09 年度以降	英語専門講読 I (木3) (観光研究入門)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、英語文献の講読を通じて現代ツーリズムについての基礎的な理解を得ることを目的とする。 英語圏の大学で幅広く使用されているテキスト、Goeldner と Ritchie の <i>Tourism: Principles, Practices, Philosophies</i> を使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムが抱える課題について理解を深めたい。 授業では、各履修者が決められた項目を分担して担当する。なお、履修人数に応じて個人あるいはグループによる担当を判断する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分のコピーを配布する。		1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Tourism in Perspective(1) 4、Tourism in Perspective(2) 5、Tourism in Perspective(3) 6、Tourism through the Ages(1) 7、Tourism through the Ages(2) 8、Career Opportunities 9、World, National, Regional and Other Organizations 10、Passenger Transportation 11、Hospitality and Related Services 12、Organizations in Distribution Process 13、Attractions, Entertainment, Recreation and Other Tourist Draws 14、総合討論 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Goeldner, C. and J. Ritchie (2012) <i>Tourism: Principles, Practices, Philosophies Twelfth Edition</i> . Wiley.		授業内発表 40% 授業への参加 30% 期末課題 30%	

09 年度以降	英語専門講読 II (木3) (ツーリズム人類学入門)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、英語文献の講読を通じてツーリズムと文化の動態について、基礎的な理解や視座を得ることを目的とする。 英語圏で使用されているツーリズム人類学の入門書、Peter Burns による <i>An Introduction to Tourism and Anthropology</i> をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、ツーリズム人類学についての理解を深めたい。 授業では、各履修者が決められた項目を分担して担当する。なお、履修人数に応じて個人またはグループによって分担する。担当者は補助文献等を用いながら他の履修者に内容を解説し、それをもとに議論する。テキストは、該当部分のコピーを配布する。		1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Anthropology(1) 4、Anthropology(2) 5、Anthropology(3) 6、Tourism (1) 7、Tourism (2) 8、Tourist 9、Culture 10、The Anthropology of Tourism(1) 11、The Anthropology of Tourism(2) 12、Issues in the Anthropology of Tourism(1) 13、Issues in the Anthropology of Tourism(2) 14、Issues in the Anthropology of Tourism(3) 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Burns, P. (1999) <i>An Introduction to Tourism and Anthropology</i> . Routledge.		授業内発表 40% 授業への参加 30% 期末課題 30%	

09 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩—Gary Snyder 詩集 <i>Regarding Wave</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
ゲアリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(<i>Regarding Wave</i>, 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。レポートの書き方については、http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照。 最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。		1. An Introduction to Gary Snyder's poetry 2. "It" 3. "Running Water Music" 4. "Sours of the Hills" 5. "The Wild Edge" 6. "The Wide Mouth" 7. "The Trade" 8. "To Fire" 9. "Love" 10. "The Way Is Not a Way" 11. "In the Night, Friend" 12. "Beating Wings" 13. "Poke Hole Fishing After the March" 14. "Brown" 15. "Meeting the Mountains"	
テキスト、参考文献		評価方法	
Gary Snyder, <i>Regarding Wave</i> . New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)		プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしません。	

09 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩—Gary Snyder 詩集 <i>Regarding Wave</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
ゲアリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(<i>Regarding Wave</i>, 1970) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照。レポートの書き方については、原ゼミのHPの「MLA 論文の書き方」を参照。 最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。		1. "Before the Stuff Comes Down" 2. "All the Sprit Powers Went to Their Dancing Place" 3. "For Jack Spicer" 4. "Running Water Music II" 5. "Long Hair" 6. "Looking for Nothing" 7. "Stovewood" 8. "For Will Petersen the Time We Climbed Mt. Hiei Cross-Country in the Snow" 9. "Shinkyogoku, Kyoto" 10. "Hiking in the Totsugawa Gorge" 11. "Why I Laugh When Kai Cries" 12. "At Kitano Shrine for the Fair" 13. "The Old Man" 14. "Some Good Things to Be Said for the Iron Age" 15. "Cats Thinking about What Birds Eat"	
テキスト、参考文献		評価方法	
Gary Snyder, <i>Regarding Wave</i> . New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)		プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしません。	

09 年度以降	英語専門講読 I (グローバル・イシューズを考える)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関(国連等)、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読し、今日の国際関係の理解に努める。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生など、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。		1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2 文献①－1 3 文献①－2 4 文献①－3 5 文献②－1 6 文献②－2 7 文献②－3 8 文献③－1 9 文献③－2 10 文献③－3 11 文献④－1 12 文献④－2 13 文献④－3 14 文献⑤－1 15 文献⑤－2	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。		平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が5回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。	

09 年度以降	英語専門講読 II (グローバル・イシューズを考える)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関(国連等)、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読し、今日の国際関係の理解に努める。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生など、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。		1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2 文献⑥－1 3 文献⑥－2 4 文献⑥－3 5 文献⑦－1 6 文献⑦－2 7 文献⑦－3 8 文献⑧－1 9 文献⑧－2 10 文献⑧－3 11 文献⑨－1 12 文献⑨－2 13 文献⑨－3 14 文献⑩－1 15 文献⑩－2	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。		平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が5回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。	

09 年度以降	英語専門講読 I (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 講義では、下記のテキストの 3 章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお、いわゆる「救済措置」の機会はない。諸連絡にはポータルサイトを利用する。		進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 1. オリエンテーション及び講義（出席は必須である） 2. The Expression of Past Time 1 3. The Expression of Past Time 2 4. The Expression of Past Time 3 5. The Expression of Past Time 4 6. The Expression of Past Time 5 7. The Expression of Past Time 6 8. The Expression of Past Time 7 9. The Expression of Past Time 8 10. The Expression of Past Time 9 11. The Expression of Past Time 10 12. The Expression of Past Time 11 13. The Expression of Past Time 12 14. The Expression of Past Time 13 15. 春学期のまとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09 年度以降	英語専門講読 II (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。 講義では、下記のテキストの 4 章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお、いわゆる「救済措置」の機会はない。諸連絡にはポータルサイトを利用する。		進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。 1. 春学期の復習 2. The Expression of Future Time 1 3. The Expression of Future Time 2 4. The Expression of Future Time 3 5. The Expression of Future Time 4 6. The Expression of Future Time 5 7. The Expression of Future Time 6 8. The Expression of Future Time 7 9. The Expression of Future Time 8 10. The Expression of Future Time 9 11. The Expression of Future Time 10 12. The Expression of Future Time 11 13. The Expression of Future Time 12 14. The Expression of Future Time 13 15. 秋学期のまとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09 年度以降	英語専門講読 I (現代イギリスの移民の物語)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
〈講義目的〉現代のグローバル化した世界においては、人の「移住」が活発になっています。より豊かな生活を求めて貧しい国から働きに出てくる人もいれば、国内の戦争のためにやむなく「難民」として外国に逃げてくる人もいます。 「移住」とはどんな体験なのか、どんな苦勞そして希望があるのか、この講義では一冊の小説をとおして具体的に感じ取ってみたいと思います。この小説のタイトルは、日本語にすれば『ウクライナ語によるトラクター小史』とでも訳せそうで、生真面目そうな感じですが、実はかなり人を食ったタイトルで、中身に書いてあるのは、ウクライナ出身、イギリス在住の80代の男性が、ウクライナから30代の女性を呼び寄せて「歳の差婚」をしようとする悲喜こもごもについて。それが、男性の娘のひとりの視点から、毒舌のきいた英語で語られています。 (下に続く)		第1回 イン트로ダクション 第2回～14回 テキストの講読 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Marina Lewycka, <i>A Short History of Tractors in Ukrainian</i> (Penguin, 2006).		課題プリント2割、発表3割、レポート5割。ただし授業回数の2/3以上欠席した場合、評価の対象としません。	

09 年度以降	英語専門講読 II (現代イギリスの移民の物語)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
(上から続く) この講義では、小説の成り行きをみんなで見届けつつ、小説に書かれていることがどんな社会的現実に対応しているのかを考えていきたいと思います。 〈講義概要〉毎回、10～15 ページ前後を読み進めます。受講者のみんなに毎回の範囲を読んできてもらうほか、担当グループを決めて、その回の範囲について発表してもらいます。 発表のグループ決め、やり方の説明を授業第一回で行いますので、受講を希望する人はかならず一回目の授業から出席してください。		第1回 イン트로ダクション 第2回～14回 テキストの講読 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		課題プリント2割、発表3割、レポート5割。ただし授業回数の2/3以上欠席した場合、評価の対象としません。	

09 年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。 春学期は、英語圏の大学で広く読まれている日本研究の基本的文献を教材とする。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。		1. 趣旨説明・グループ分け(1 回) (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。) 2. 各課題についての解説(2~3 回) 3. 基礎文献の講読・議論(3~15 回) テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。 • Geographical and Generational Variations • Varieties in Work and Labor • Gender Stratification and the Family System • Minority Groups: Ethnicity and Discrimination • Popular Culture and Everyday Life	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sugimoto, Yoshio 2010. <i>An Introduction to Japanese Society (Third Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press.		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席(遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。 秋学期は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、在日フィリピン人女性などについて書かれた英文モノグラフを教材として扱う。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。		1 回 講義 2~14 回 プレゼンテーション 15 回 総合討論・まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席(遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09 年度以降	英語専門講読 I (米国のポピュラー・ナショナリズム ①)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、ナショナリズムに関する基礎理論を学んだ上で、米国の児童から成人まで一般庶民が抱いている自国のイメージや一般常識をポピュラー・カルチャーとして考察することを目的とします。 授業形式は、読書課題に関するグループ・ワークとグループ発表が中心となります。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。 使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。(もちろん各自で購入しても構いません。)		1. Overview of the semester 2. Warm-up activities 3. "The Problem" 4. "What it a nation?" 5. "The nation as a social relation" 6. "Motherland, fatherland, and homeland" 7. "The nation in history" 8. "Whose god is mightier?" 9. "human divisiveness" 10. "Conclusion" 11. Oral reports (TBA) 12. "No More Kings" 13. "Fireworks" 14. Consultation 15. Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Steven Grosby, <i>Nationalism: A Very Short Introduction</i> (2005, Oxford University Press).		①参加&貢献度(発表や発言など): 50% (理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績が F または × となります。) ②クイズ: 50%	

09 年度以降	英語専門講読 II (米国のポピュラー・ナショナリズム ②)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。		1. Overview of the semester 2. Warm-up activities 3. "The Shot Heard 'Round the World" 4. "The Preamble" 5. "Elbow Room" 6. "The Great American Melting Pot" 7. "Mother Necessity" 8. "Sufferin' Till Suffrage" 9. "I'm Just a Bill" 10. "Three-Ring Government" 11. Case Studies 1 (TBA) 12. Case Studies 2 (TBA) 13. Case Studies 3 (TBA) 14. Consultation 15. Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント資料及び映像教材を配布又は指定する予定		①参加&貢献度(発表や発言など): 50% (理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績が F となります。) ②クイズ: 50%	

09 年度以降	英語専門講読 I (金 3) (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点から捉えられた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。 講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。 有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。		第1週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations 第2週: Most Recent Developments 第3週: March 2011 “Triple Disaster” 第4週: Major Diplomatic and Security Issues 第5週: Japan-China Relations 第6週: Alliance Issues 第7週: Economic Issues 第8週: Japanese Politics (2) U.S.-China Relations 第9週: Overview of U.S.-China Relations 第10週: Obama Administration Policy Toward China 第11週: Security Issues 第12週: Taiwan 第13週: Economic Issues 第14週: Climate Change and Clean Energy Cooperation 第15週: Human Rights Issues	
テキスト、参考文献		評価方法	
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1)Japan-U.S. Relations 及び (2)U.S.-China Relations を扱う。		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (金 3) (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
英語専門講読 I (米国の対外政策)で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に米韓関係及び米国のアジア重視政策について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係及び米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治経済環境の総合的理解をめざす。 講義の進め方は、春学期と同様である。		第1週: Introduction (1) U.S.-South Korean Relations 第2週: Recent Developments 第3週: North Korea in U.S.-ROK Relations 第4週: South Korea's Regional Relations 第5週: Security Relations and the U.S.-ROK Alliance 第6週: South Korea-Iran Relations 第7週: Economic Relations 第8週: Nuclear Energy and Non-Proliferation Cooperation 第9週: South Korean Politics (2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's “Rebalancing” Toward Asia 第10週: Introduction 第11週: Overall Benefits, Costs, and Risks 第12週: Military and Strategic Dimensions of “The Pivot” 第13週: Diplomatic Dimensions of the “Pivot” 第14週: Economic Aspects of the “Pivot” 第15週: 1年間の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) U.S.-South Korean Relations 及び (2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's “Rebalancing” Toward Asia を扱う。		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。 大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。 授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。		1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。		授業内活動参加、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09 年度以降	英語専門講読 II (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。 取り上げる文献は、フェアトレード関連に限定せず、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。		授業では、担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをを行う。	
テキスト、参考文献		評価方法	
図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。		授業内活動参加、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09 年度以降	英語専門講読 I (金 5) (米国及び中国の対外政策決定過程)	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
米国及び中国は、今後の国際政治の帰趨に影響を及ぼす重要な大国であるといわれる。特に日本においては、両国の政策が大きなインパクトを与えることは必至である。それゆえ、両国がどのような政策を採用するのか、常に注視することが求められている。 本講義では、米国において、諸政策がどのように策定されているのか、そのメカニズムを学ぶ。その目的は、日本の類推によってではなく、米国の対外政策決定過程を理解した上で、諸政策を分析できるようにすることにある。 講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。 有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。		第1週: Introduction 第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 1. The Study of American Foreign Policy 2. The Presidency 3. The National Security Council 4. The Department of State 5. The Department of Defense 6. National Security Intelligence 7. The Foreign Economic Bureaucracy 8. Congress 9. Public Opinion 10. News Media 11. Interest Groups 第15週: 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Steven W. Hook and Christopher M. Jones (eds.), <i>Routledge Handbook of American Foreign Policy</i> , (New York: Routledge, 2012).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 II (金 5) (米国及び中国の対外政策決定過程)	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、本講義では、中国において、諸政策がどのように策定されているのか、そのメカニズムを学ぶ。その目的は、日本の類推によってではなく、中国の対外政策決定過程を理解した上で、諸政策を分析できるようにすることにある。 講義の進め方は、春学期と同様である。有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。		第1週: Introduction 第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。 1. China's Leadership and Foreign Policy 2. China's Think Tanks and Foreign Policy 3. China's National Identity and Foreign Policy 4. Financial Factors in Chinese Foreign Policy Making 第15週: 1年間の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
Gilbert Rozman, <i>China's Foreign Policy: Who makes it, and how is it made?</i> (New York: Palgrave Macmillan, 2012).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	英語の世界Ⅱ（金 1）	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者は TOEIC900 点以上の取得者から break の過去形を broked と、また dog に冠詞も・s も付けずに書く人までさまざまですが、9 割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語の本当の姿についての知識をしっかりと身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。 この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、既習文法知識とその発想を捨てたうえで予習・復習をしていればそのようなことはありません。 参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。 ★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。 ★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。 ★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。 ★英語の知識を身につけたいという意欲がありません。 ＜以下に続く＞		- モノの捉え方と表現の仕方 - 前置詞の意味 - 続き - 不定冠詞 vs. はだか名詞 - 英語と日本語の情報構造 - 情報の新旧と冠詞 - 自動詞構文と他動詞構文 - BE 受動文の使い方 - GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身 - 再帰代名詞の使い方 - 動詞の意味と構文（結果構文） - 動詞の意味と構文（二重目的語構文・ほか） - 否定の意味 - 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） - 助動詞の使い方 ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：第 2 週目からはポータルサイト PorTa を通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社		最終成績は、平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。	

09 年度以降	英語の世界Ⅱ（火 5）	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業を受ける利点には次のようなこともあります。 (1) 3 通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。 a. Anyone who plays <u>piano</u> knows that is no great feat. b. He hates playing <u>a piano</u> which is out of tune. c. Do you play <u>the piano</u>? (2) 上の c の the と the sun、the wines of France などを使う the の規則に共通性のあること知ることができる。 (3) “I was standing () the corner.” のカッコに at も in も on も入るが意味（＝見方）が違ってくる。 (4) 疲れている人に向かって「疲れているのは一所懸命働いたからだよ」という場合には a のほうがよいとわかる。 a. You feel tired because you've worked hard. b. ??Because you've worked hard, you feel tired. (5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言っても、“I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.” とは言えない理由がわかるようになる。 (6) No shoes <u>are</u> allowed. と No shoes <u>is</u> allowed. の意味の違いがわかるようになる。		- モノの捉え方と表現の仕方 - 前置詞の意味 - 続き - 不定冠詞 vs. はだか名詞 - 英語と日本語の情報構造 - 情報の新旧と冠詞 - 自動詞構文と他動詞構文 - BE 受動文の使い方 - GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身 - 再帰代名詞の使い方 - 動詞の意味と構文（結果構文） - 動詞の意味と構文（二重目的語構文・ほか） - 否定の意味 - 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） - 助動詞の使い方 ※ 上のトピックに変更を加える場合があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：第 2 週目からはポータルサイト PorTa を通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社		最終成績は、平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。	

09 年度以降	観光英語 I	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 海外に旅行する日本人、海外から来日する外国人の数も飛躍的に増えており、これに対応する職業（旅行・観光・ホテル・レストランサービス等）にあつては、必然的に外国語、特に英語による業務が急増している。そこでは英語の一般的能力だけではなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロフェッショナルの養成が急務であり、また恒常的にもかかる能力を有する人への高い需要がある。したがって、この授業では、主として海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」(Tourism English Proficiency Test) の 2 級合格を目指すことをひとつの目標とする。 授業の概要 マルチメディア(DVD/ビデオ・PC)を駆使して、実際の観光状況を確認し、観光に関する用語・表現様式、文化の差異、マナー等々について学びながら、実践的英語運用能力を高めてゆくことを目途とする。		第 1 回: Orientation(参加者の英語力・異文化経験・外国旅行経験等々調査) 第 2 回: 観光英語検定試験の模擬試験実施 第 3 回: 英語力涵養の様々な Tool(Internet, 映画、テレビ、ラジオ等々)の確認と利用実験 第 4 回: 観光体験を基にシナリオ作成 第 5 回: シナリオを基に観光活動を英語で実践 第 6 回: 観光実務に必要とされる語彙の確認 第 7 回: 異文化に対する感性を鋭くするための Case Study 第 8 回: 観光英語検定試験の模擬試験実施 第 9 回: ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第 10 回: ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第 11 回: 案内の講評と校正版の実施 第 12 回: ゲストを招き観光についてのインタビュー 第 13 回: 観光英語検定試験の模擬試験実施 第 14 回: 観光英語検定試験の解説と対策 第 15 回: まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 適宜紹介する		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 50%	

09 年度以降	観光英語 II	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 「観光英語 I」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」(Tourism English Proficiency Test) の 1 級合格を目指すことをひとつの目標とする。 授業の到達目標及びテーマ 「観光英語 I」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」(Tourism English Proficiency Test) の 1 級合格を目指すことをひとつの目標とする。		第 1 回: ガイダンス 第 2 回: 種々の英語検定試験の概観と英語語彙力テスト 第 3 回: 観光英語検定試験 1 級の問題実施 第 4 回: 問題解説 第 5 回: 学習方法の紹介と研究 第 6 回: 英語での日本観光計画作成 第 7 回: 観光客からの想定質問集作成 第 8 回: 想定質問に対する回答作成 第 9 回: 想定質問に対する回答作成 第 10 回: 日本の観光名所を選び、想定案内シナリオ作成 第 11 回: Role Playing による観光案内の練習とその経過のビデオ撮り 第 12 回: ビデオを見ながら検討会 第 13 回: 観光英語検定試験 1 級の問題実施 第 14 回: 観光英語検定試験 1 級の解説と対策 第 15 回: まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト London Alive Survival English Asahi Press 参考書 『英語で話す「日本」Q & A』 講談社		課題 20% 試験 30% 授業貢献度 50%	

09 年度以降	通訳案内士の英語 I	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とする。具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。 授業の概要 明確な目標の下、多角的な問題演習を多くこなしてゆく。また臨機応変の対処ができるよう収斂・弛緩を繰り返す集中的訓練を中心とした Pair-work, Group-work の形式で相互訓練、及び Communication 訓練を行う。		第1回：ガイダンス 第2回：Orientation（出席者の異文化体験・外国旅行体験等々調査を含む） 第3回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む 第4回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、自己の英語総合力を認識させる 第5回：幅広い理解力運用力涵養のため、様々な英語（各国の訛・特徴）を知る 第6回：Speaking の訓練方法を紹介実践 第7回：Listening の訓練方法を紹介実践 第8回：Writing の訓練方法を紹介実践 第9回：Extensive/Intensive Reading の紹介実践 第10回：模擬通訳案内士試験問題取り組み 第11回：英字新聞を利用し、時事問題について簡潔に伝える練習を行う 第12回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う 第13回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする 第14回：日本一週のガイドに挑戦 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 適宜紹介する		授業参加度 30% 課題 20% 試験・レポート 30% 授業貢献度 20%	

09 年度以降	通訳案内士の英語 II	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 「通訳案内士の英語 I」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語 I」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第2次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う 授業の概要 「通訳案内士の英語 I」の授業の 방식을踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内士の体験を行う。		第1回：ガイダンス 第2回：Orientation（通訳案内士の英語 I で身につけた総合力の確認） 第3回：Project（観光案内の計画）大テーマ策定 第4回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定 第5回：各グループで調査・演習活動（1）具体的計画策定 第6回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討 第7回：各グループ発表（審査・検討会） 第8回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定 第9回：各グループで調査・演習活動（1）前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定 第10回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討 第11回：各グループ発表（審査・検討会） 第12回：模擬試験 第13回：模擬試験検討会 第14回：各人による観光案内計画発表 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 『英語で読む日本史』 講談社、『翻訳力練成テキストブック』 日外アソシエーツ		授業参加度 30% 課題 20% 試験 30% 授業貢献度 20%	

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレター（メール）を書けないのが現状である。本講義では、本格的な Business Writing の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。 外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な Business Writing の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。 具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレター（メール）の書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。English for Business と Business Writing の講義を併せて履修すると、社会に出て也十分に通用する Business English を総合的に学習することになります。 尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第 1 回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。		第 1 回：ガイダンス 第 2 回：ビジネスレターの形式（1） 第 3 回：ビジネスレターの形式（2）& 練習問題 第 4 回：効果的なビジネスレターの書き方& 練習問題 第 5 回：よく使用される表現（取引の申込み）& 練習問題 第 6 回：よく使用される表現（取引の申込みに対する応答）& 練習問題 第 7 回：よく使用される表現（引合い）& 練習問題 第 8 回：中間試験と復習 第 9 回：よく使用される表現（オファー）& 練習問題 第 10 回：よく使用される表現（オファーに対する応答）& 練習問題 第 11 回：よく使用される表現（信用状）& 練習問題 第 12 回：よく使用される表現（積出し）& 練習問題 第 13 回：よく使用される表現（クレーム）& 練習問題 第 14 回：就職申込状の書き方（カバーレター、レジュメ）& 練習問題 第 15 回：まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。第 1 回目の授業で、各担当教員が評価方法も含めて詳しく説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。		学期末試験（60%）を中心にして、これに中間試験(30%)、毎回の授業における貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレター（メール）を書けないのが現状である。本講義では、本格的な Business Writing の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。 外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な Business Writing の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。 具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレター（メール）の書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレター（メール）の書き方も分かりやすく説明し、指導する。English for Business と Business Writing の講義を併せて履修すると、社会に出て也十分に通用する Business English を総合的に学習することになります。 尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第 1 回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。		第 1 回：ガイダンス 第 2 回：ビジネスレターの形式（1） 第 3 回：ビジネスレターの形式（2）& 練習問題 第 4 回：効果的なビジネスレターの書き方& 練習問題 第 5 回：よく使用される表現（取引の申込み）& 練習問題 第 6 回：よく使用される表現（取引の申込みに対する応答）& 練習問題 第 7 回：よく使用される表現（引合い）& 練習問題 第 8 回：中間試験と復習 第 9 回：よく使用される表現（オファー）& 練習問題 第 10 回：よく使用される表現（オファーに対する応答）& 練習問題 第 11 回：よく使用される表現（信用状）& 練習問題 第 12 回：よく使用される表現（積出し）& 練習問題 第 13 回：よく使用される表現（クレーム）& 練習問題 第 14 回：就職申込状の書き方（カバーレター、レジュメ）& 練習問題 第 15 回：まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。第 1 回目の授業で、各担当教員が評価方法も含めて詳しく説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。		学期末試験（60%）を中心にして、これに中間試験(30%)、毎回の授業における貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.		1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4. Collecting and synthesizing information 5. Paragraph to short essay 6. Descriptive essay 7. Narrative essay 8. Opinion essay 9. Peer evaluation 10. writing final draft 11. Comparison and contrast essay 12. Paraphrasing 13. Bibliography 14. In-text citations 15. Final Examination	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing. The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers. By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.		Week 1: Course Introduction Week 2: Evaluating sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting sources & paraphrasing Week 11: Using in-text citations Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Research Assignments 20% Writing Drafts 20% Participation 20% Final Essay 40%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
Points for further consideration: - Students will need an English-English dictionary - Students will be required to have a notebook		Week 1: Course Introduction Week 2: Evaluating sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting sources & paraphrasing Week 11: Using in-text citations Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Research Assignments 20% Writing Drafts 20% Participation 20% Final Essay 40%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be number of short assignments that students will resubmit after receiving feedback and one longer paper on a topic of their choice. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging.		1. Introduction to the course 2. Review of writing basics 1 3. Review of writing basics 2 4. Review of writing basics 3 - writing assignment 5. Critical reading and summary skills 1 6. Summary skills 2 – summary assignment 7. Responding to an article – summary and outlining 8. Responding to an article – summary and outlining 9. Writing assignment –revising and editing 10. Topic for the final paper -outlines 11. Citations and references 12. Writing the first draft – formatting 13. Revising the first draft – proofreading and editing 14. Presenting research – sharing the product 15. Assignment submission and wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will introduced during the course		Preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to enable students to receive detailed feedback from the instructor. Students should resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging.		1. Introduction to the course 2. Writing workshop 1 3. Writing workshop 2 – writing assignment 4. Library research skills 5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase 6. Topics, outlines and academic writing patterns 7. Different sources of information – writing assignment 8. Avoiding plagiarism 2- citations and references 9. Common errors in English – revising drafts 10. Topic for the final paper 11. Research, narrowing the topic and making an outline 12. Questionnaires, graphs and tables 13. Checking the first draft and rewriting 14. Presenting research – sharing the final product 15. Assignment submission and wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will introduced during the course		Preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
Don't worry! Although the words "Academic Writing" strike fear into the hearts of even many native English-speaking students this course will: 1) help you overcome any fears you may have 2) show you how the process of writing an academic essay on a topic of your choice can be an interesting and rewarding experience In the first third of the course: while I demonstrate the key stages in this process, you will have plenty of time to read your primary text and do research Second third: we shall focus on planning, drafting and formatting your essay Final third: editing - you will learn how to improve your own and your classmates' essays to make them as interesting as possible for their readers		1 Course overview 2 Choosing a good topic 3 Reading the primary text 4 Researching secondary sources 5 Thesis statement 6 Deadline 1: your thesis statement 7 Making your essay outline 8 Writing your first draft 9 MLA format citations & references 10 Using editing checklists 11 Deadline 2: your second draft 12 Peer correction 13 Deadline 3: your final draft 14 Sharing your work & discussion 15 Review & Evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook for this course		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation - 50% one academic essay - 50%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course we will aim to build upon the writing knowledge and ability students already have, developing their skills in the techniques and practice of writing. We will look at a variety of types of essays and study each step of the writing process in detail. We will also focus upon developing the students' own voices and ability to communicate their opinions through their choice of essay style and topic. This will be an English only class and it will help the students to order and organize their thought processes in English while enjoying improving their academic and general writing skills.		1. Course orientation. 2. Review of paragraph structure. 3. Seven steps: The writing process. 4. Essay analysis. 5. Short essay organization and features. 6. What makes a good essay? 7. Brainstorming and outlining. 8. Writing the first draft. 9. Peer review and editing. 10. Writing the second draft. 11. Citation, references, proofreading, and revision 12. Final draft and review. 13. Timed writing preparation. 14. Timed writing. 15. Course review activities.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Great Writing 4: Great Essays (Heinle, Cengage Learning)		Assessment based on class participation, homework and written compositions.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.		1. Introduction to the Course 2. Looking at the Big Picture: What is AW? 3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance 4. Rules of Thumb 1: “They Say/ I Say” 5. Rules of Thumb 2: Plagiarism 6. Research Work: collecting data 7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing 8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose: 9. Characteristics of AW2: Types of Essays 10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1 11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2 12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3 13. Writing of Draft: 14. Writing of Final Essay 15. Summary and Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the 1 st day of class.		Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.		1. Introduction to the Course 2. Looking at the Big Picture: What is AW? 3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance 4. Rules of Thumb 1: “They Say/ I Say” 5. Rules of Thumb 2: Plagiarism 6. Research Work: collecting data 7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing 8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose: 9. Characteristics of AW2: Types of Essays 10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1 11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2 12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3 13. Writing of Draft: 14. Writing of Final Essay 15. Summary and Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the 1 st day of class.		Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.	

09 年度以降	Academic Writing	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
Students will also learn how to collect, organize, and synthesize information, and to quote from sources. Students should have ample opportunity to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students should write at least <u>one 1000 or more-word-long essay</u> and revise it.		Lesson 1. Course introduction Lesson 2. Brainstorming and topic selection Lesson 3. Library research skills Lesson 4. Collecting and synthesizing information Lesson 5. Writing the first draft Lesson 6. Citation and references (using MLA) Lesson 7. Writing the second draft Lesson 8. Peer evaluation Lesson 9. Writing the final draft Lesson 10. Writing a summary of the final product Lesson 11. Copy editing Lesson 12. Sharing their final product Lesson 13. Special activity Lesson 14. Class activity Lesson 15. Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/		Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.	

09 年度以降	Academic Writing	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
Students will also learn how to collect, organize, and synthesize information, and to quote from sources. Students should have ample opportunity to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes. Students should write at least <u>one 1000 or more-word-long essay</u> and revise it.		Lesson 1. Course introduction Lesson 2. Brainstorming and topic selection Lesson 3. Library research skills Lesson 4. Collecting and synthesizing information Lesson 5. Writing the first draft Lesson 6. Citation and references (using MLA) Lesson 7. Writing the second draft Lesson 8. Peer evaluation Lesson 9. Writing the final draft Lesson 10. Writing a summary of the final product Lesson 11. Copy editing Lesson 12. Sharing their final product Lesson 13. Special activity Lesson 14. Class activity Lesson 15. Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
None, one resource will be: https://owl.english.purdue.edu/owl/		Participation and completion of all writings are necessary to attain a good grade.	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	D. ヴェラスコ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this class is to refine students' ability to construct logical, unified, coherent academic essays. The typical class will include a short lecture followed by writing-related activities (group discussions, brainstorming, and peer-review editing). Time will be provided in every class for writing practice. The class will be conducted entirely in English. Students are expected to speak English at all times in the classroom. Students are also expected to spend time outside of class reading, writing, conducting research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions, volunteer to read their work, and provide constructive feedback to their peers.		Week 1: Course Introduction Week 2: Grammar Trouble Spots Week 3: Choosing a Topic / Brainstorming Week 4: Conducting Research and Note-Taking Week 5: Thesis Statements Week 6: Outlines and Unity Week 7: The Paragraph and Coherence Week 8: Transitions Week 9: Evidence and Support Week 10: In-Text Citations Week 11: Plagiarism Week 12: Introductory Paragraphs Week 13: Concluding Paragraphs Week 14: Editing Drafts Week 15: Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no textbook for this course. The instructor will provide materials throughout the semester.		1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Essay (30%)	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	D. ヴェラスコ
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this class is to refine students' ability to construct logical, unified, coherent academic essays. The typical class will include a short lecture followed by writing-related activities (group discussions, brainstorming, and peer-review editing). Time will be provided in every class for writing practice. The class will be conducted entirely in English. Students are expected to speak English at all times in the classroom. Students are also expected to spend time outside of class reading, writing, conducting research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions, volunteer to read their work, and provide constructive feedback to their peers.		Week 1: Course Introduction Week 2: Grammar Trouble Spots Week 3: Choosing a Topic / Brainstorming Week 4: Conducting Research and Note-Taking Week 5: Thesis Statements Week 6: Outlines and Unity Week 7: The Paragraph and Coherence Week 8: Transitions Week 9: Evidence and Support Week 10: In-Text Citations Week 11: Plagiarism Week 12: Introductory Paragraphs Week 13: Concluding Paragraphs Week 14: Editing Drafts Week 15: Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no textbook for this course. The instructor will provide materials throughout the semester.		1) In-class Participation/Performance (30%) 2) Assignments (40%) 3) Final Essay (30%)	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities. In order to synthesize information to produce clear and coherent discourse, students are expected to work on self-expression and aim for continuous self-improvement. Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, citation and referencing.		Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Clustering and brainstorming. Week 3: Review, peer evaluation Week 4: Writing Process Week 5: Collecting & synthesizing Week 6: Citation & references (MLA) Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Compare & contrast essays 1 Week 9: Compare & contrast essays 2 Week 10: Write essay draft # 1 Week 11: Review, feedback & peer edit Week 12: Write essay draft # 2 Week 13: Library Research Skills Week 14: Final draft, review & peer edit Week 15: Quiz 2 - 15%	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		1. Computer written essay 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities. In order to synthesize information to produce clear and coherent discourse, students are expected to work on self-expression and aim for continuous self-improvement. Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, citation and referencing.		Week 1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements. Week 2: Clustering and brainstorming. Week 3: Review, peer evaluation Week 4: Writing Process Week 5: Collecting & synthesizing Week 6: Citation & references (MLA) Week 7: Quiz 1 - 15% Week 8: Compare & contrast essays Week 9: Compare & contrast essays Week 10: Write essay draft # 1 Week 11: Review, feedback & peer edit Week 12: Write essay draft # 2 Week 13: Library Research Skills Week 14: Final draft, review & peer edit Week 15: Quiz 2 - 15%	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		1. Computer written essay 20% 2. Weekly class activities 50% 3. Quiz 1 – week 7 15% 4. Quiz 2 – week 15 15%	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The topic of the 1000-word essay is selected from a list of issues that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. It will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. This essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).	

09～12 年度	Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay. The topic of the 1000-word essay is selected from a list of issues that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. It will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. This essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。		第1回 ガイダンス 辞書について 第2回 翻訳の難しさと面白さについて 第3回 機械翻訳の可能性について 第4回 翻訳の実例比較検討 第5回 復習テスト 第6～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		分析コメント30%、プレゼンテーション30%、翻訳実習30%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。		第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1 第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2 第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第7回 復習テスト 第8～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		分析コメント30%、プレゼンテーション30%、翻訳実習30%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでももらいます。 受講生に求める英語力のレベル： <i>Guardian</i> 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。（時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。		*授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介（授業）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題）→不明点を解決する（授業）→訳了＋提出（課題）→添削＋解説（授業）。 *15 回の授業は原則として以下のとおりにする。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。 _____15 回の授業は以下のとおり_____ 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～10. 教材 1－8 までを上記のプロセスで訳了。 （第 2 回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11 回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。） 11～15. グループ・プロジェクト （邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回から 10 回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11 回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。		授業内活動参加度 20% 授業内のアサインメント 50% 最終レポート 30%	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。		1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ 一時間に翻訳する分量は少な目かもしれません。その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。 慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう。 なお、通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。	
テキスト、参考文献		評価方法	
短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。		授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。 本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。 なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。		1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ 一時間に翻訳する分量は少な目かもしれません。その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。 慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう。 なお、通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。	
テキスト、参考文献		評価方法	
短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。		授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。	

09 年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 1 番から 25 番を扱います。		1 翻訳という仕事① 2 試練に立つ文明 3 文体論 4 技師の親指 5 過激の効用 6 神経質な私 7 独立独歩 8 詩人の感性 9 文化伝達の経路 10 旅の楽しみ 11 興味をもつこと 12 食べ物の話題 13 余暇の過ごし方 14 自分の基準をもて 15 翻訳のための文法① *各回、他に 1 題を扱います	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。	

09 年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 26 番から 50 番を扱います。		1、翻訳という仕事② 2、集団と個人 3、編集者の誇り 4、歴史が証明するもの 5、親であるよろこび 6、隣人について 7、民主主義国家の政治 8、イギリスの官界の習い 9、あるがままの人生 10、赤ずきんのお話 11、人から尊敬をうけるには 12、話すことと書くこと 13、日本人論 14、都市問題 15、翻訳のための文法② *各回とも上記ほか 1 編を扱う	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。	

09 年度以降	翻訳 I (木 4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。		1、英語の規則 ① 2、児童文学「幸福の王子」 I 3、児童文学「幸福の王子」 II 4、児童文学「ドリトル先生航海記」 I 5、児童文学「ドリトル先生航海記」 II 6、児童文学「不思議の国のアリス」 I 7、児童文学「不思議の国のアリス」 II 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。	

09 年度以降	翻訳 I (木 4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。		1、英語の規則② 2、音楽「スライ・ストーン」 3、ロマンス小説「サラの冒険」 4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き) 5、評論「日本人」① 6、評論「日本人」② 7、評伝「吉田寅次郎」 8、評伝「吉田寅次郎」(続き) 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、精神世界「ミーガンの奇跡」 11、歴史「ギロチン」 12、短編小説「悲劇のはじまり」① 13、短編小説「悲劇のはじまり」② 14、短編小説「悲劇のはじまり」③ 15、短編小説「悲劇のはじまり」④	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	田村 斉敏
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。 翻訳の対象として、児童文学作品を取り上げます。ひとつは、児童文学作者として、またJ. R. R. TolkienやC. S. Lewisの伝記などを著した児童文学研究者としても著名なHumphrey CarpenterのMr. Majeikaシリーズです。「元」魔法使いの先生と、一癖も二癖もある教え子たち、とりわけ悪魔的とさえいえるHamish Bigmoreの掛け合いは読んでいても面白く、きっと訳してみたくなるでしょう。 もうひとつは現代英国の代表的詩人のひとりでもあるTed Hughesの<i>The Iron Man</i>（アメリカンコミックではありません）です。優れた詩人の研ぎ澄まされた言葉遣いと、児童文学としての楽しさが融合した名作です。 クラスでは担当を決めて訳文を発表し、互いに批評しながら、教師が添削するという形で進めていきます。また、翻訳をする際に心得ておくべき点や、翻訳に関する従来の考え方などを講義として紹介する予定です。		1. イントロダクション 2. レクチャー 1 / 翻訳訓練（準備） 3. レクチャー 2 / 翻訳訓練（準備） 4. レクチャー 3 / 翻訳発表（Carpenter） 5. レクチャー 4 / 翻訳発表（Carpenter） 6. レクチャー 5 / 翻訳発表（Carpenter） 7. レクチャー 6 / 翻訳発表（Carpenter） 8. レクチャー 7 / 翻訳発表（Carpenter） 9. レクチャー 8 / 翻訳発表（Hughes） 10. レクチャー 9 / 翻訳発表（Hughes） 11. レクチャー 10 / 翻訳発表（Hughes） 12. レクチャー 11 / 翻訳発表（Hughes） 13. レクチャー 12 / 翻訳発表（Hughes） 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは後日指定。 参考文献は授業中に指示。		授業内の発表およびその際に提出された課題の評価を重視します（50%）。最後に課題レポートを課しますので、それによって残る50%の評価を行います。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水 4）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from English to Japanese</u>. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include <u>poems</u> (by Robert Frost, et al.), <u>novels</u> (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) <u>newspaper and magazine articles</u> (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language <u>movies</u> (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.		1.1 Introduction 1.2 Document #1 (see list at left for examples) 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%	

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水 3）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from Japanese to English</u>. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include <u>English translations of novels and essays by famous Japanese authors</u> (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with <u>movies</u> based on those authors's works, and Japanese <u>animated features</u> (looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.		2.1 Introduction 2.2 Author #1 (see list at left for examples) 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%	

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 翻訳にあたっては、目的・文脈・対象者・ジャンルに応じた訳語や決まり事など、さまざまな面を踏まえる必要がある。この講義では翻訳に必要な心得を身につけ、翻訳の実践に役立つ基礎体力を養うことを目的とする。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 翻訳演習 第 15 回 まとめ	
講義概要 さまざまなスタイルの英文を翻訳する実践的演習を中心に、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて翻訳の力を身につける。詳細は初回のオリエンテーションで説明する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。	

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 翻訳と英語学習で使われている英文和訳との間には、大きな違いがある。翻訳の第一歩は、その違いをしっかりと認識することから始まる。この講義では等価の翻訳とは何か、翻訳をするとはどういうことかの枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけることを目的とする。 秋学期のみの履修も可能だが、翻訳の基礎から学びたいと考える人は、最初に春学期の講座を履修することをお勧めします。		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 翻訳演習 第 15 回 まとめ	
講義概要 多様なジャンルのテキストを用い、パソコンを活用して訳語や表現を検索し、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていく。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。		授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。	

09 年度以降	College Grammar（月 2）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。		1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞 I 5. 述語動詞 II（1） 6. 述語動詞 II（2） 7. 文の種類・8 品詞 8. 名詞 9. 代名詞（1） 10. 代名詞（2） 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社		授業貢献度（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

09 年度以降	College Grammar（月 2）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違い易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。		1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞（1） 4. 助動詞（2） 5. 助動詞（3） 6. 時制（1） 7. 時制（2） 8. 呼応と時制の一致（1） 9. 呼応と時制の一致（2） 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞（1） 13. 関係代名詞（2） 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社		授業貢献度（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

09 年度以降	College Grammar (月 5)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。		1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店		平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	College Grammar (月 5)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。		1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店		平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。		1. オリエンテーション（出席は必須） 2. 場所扱いか道具扱いか 3. 自動詞＋前置詞は他動詞か 4. 〈道具〉はいつ主語になれるか 5. 再帰代名詞の不思議 6. EAT AT は EAT とどう違うのか 7. Mary hit John on the head. の構文 8. I did the book. = 「私はその本をした」？ 9. 「数の一致」はどのように決まるか 10. 絶対複数名詞 trousers の不思議 11. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 12. 秤の変遷：scales から scale への道 13. なぜ in a car なのに on a bus なのか 14. なぜ at night というのに at day とはいわないか 15. まとめと復習 成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお、いわゆる「救済措置」の機会はない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実（1995-2001）「発見の英文法 連載 1～13」『高校英語展望』第 8 号～第 20 号。小学館・尚学図書。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	College Grammar	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テキストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。		1. 導入 レキシカル・グラマーの世界 2. 前置詞の用法展開 3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ 4. WILL とテンス 5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト 6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造 7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く 8. GIVE のコアと構文展開と句動詞 9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界 10. AS の構文的多様性 比較、比例、同時、同様など 11. Grammar in text V 複文構造に慣れる 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』（開拓社）。参考文献：『表現英文法 GFE』（コスモピア）、『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版）。		参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5 頁以上）＝20%；自己評価＝20%。4 回以上欠席は単位を与えない。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テキストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。		1. 導入 レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める 4. TO DO と ING の用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH 構文のネットワーク 疑問詞～関係詞へ 7. Grammar in text III WH 構文を自在に操る 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT&THAT とその構文展開 11. Grammar in text V IT・THAT から見えてくること 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※ 「前置詞」は春学期も扱っているが、特に重要な項目であるため、敢えて、秋学期も再度扱うものとする。 ※ 上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』（開拓社）。参考文献：『表現英文法 GFE』（コスモピア）、『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版）。		参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5 頁以上）＝20%；自己評価＝20%。4 回以上欠席は単位を与えない。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: 英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。 講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文、受動文、時制などを学習する。		1. 英文法の全体的構成: 文型・文法 2. 文: 主部を欠く文, 「主部 + 述部」, 節・句・語 3. 主部: 主部の要素と述部の要素 4. 文型 (1): 5文型 5. 文型 (2): 5文型の拡張, 7文型 6. 述語動詞 (1): 述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 7. 述語動詞 (2): 自動詞型, 自動詞・他動詞両用の動詞 8. 述語動詞 (3): 他動詞型, 他動詞型の述部; 〈中間試験〉 9. 文の種類 (1): 文の種類, 重文と複文 10. 文の種類 (2): 疑問文, 感嘆文 11. 文の種類 (3): 命令文, 否定文 12. 時制 (1): 現在時制, 過去時制 13. 時制 (2): 現在完了形, 過去完了形, 進行形 14. 態: 能動態と受動態の区別, 受動態の用法 15. 〈文構造〉を中心とした授業内容のまとめ; 〈期末試験〉	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)		予習の状況, 受講状況, 中間試験, 期末試験の成績を総合して評価します。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされます。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	College Grammar (水 2)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。		1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習 ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店		平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09 年度以降	College Grammar (水 2)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。		1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習 ※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店		平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	College Grammar（金2）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違い易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。		1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞（1） 4. 助動詞（2） 5. 助動詞（3） 6. 時制（1） 7. 時制（2） 8. 呼応と時制の一致（1） 9. 呼応と時制の一致（2） 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞（1） 13. 関係代名詞（2） 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社		授業貢献度（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。 なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか?」、「この単語の品詞は何だろう?」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいで来たのではないのでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。		1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など) 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 態 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
綿貫陽・Mark Petersen 著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社		小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)	

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。 本講座で使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか? 疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか? 多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか? no と not には、どのような相違があるのでしょうか? こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんが、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。		1. 春学期の内容を概観 2. 仮定法 3. 疑問詞 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(no と not の相違、鯨の構文) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
綿貫陽・Mark Petersen 共著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社		小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)	

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えるのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につく、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語学習の方法である、ということがわかるようになります。この授業は、これまで習ってきた英文法についての説明が、必ずしもネイティブ・スピーカーの持つあるがままの自然な英語知識を分かりやすく反映したものとは限らないという前提に立ち、「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」「どうしてそういう意味になるのか？」ということに対して「意味の世界」から迫っていきます。		1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 日常言語の中の比喻 4. 多義語の意味も比喻によってつながる 5. 続き 6. 英語の基本構造（自動詞/他動詞構文・受動態の意味） 7. 続き（have と be のイメージ・二重目的語構文） 8. 英語の情報構造 9. a と the の使い方 10. 名詞の 2 つの用法―可算・不可算の区別はあるの？ 11. 時制の表現法―未来時制はあるの？ 12. 単純・進行・完了相の概念 13. 過去形と丁寧表現 14. 否定の意味 15. 前置詞の意味	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法：認知文法を参照した英語学習法』開拓社 参考書：田中茂範『表現英文法』コスモピア		最終成績は、課題と定期試験および授業への参加度によります。ただし、40 分以上の遅刻を 0.5 回分の欠席とみなし、欠席が 4 回を超えた場合は F となります。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、そしてこれまで習ってきたグラマーにたいしてもおかしいところはおかしいと言えるだけの、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語ということばの学問的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、母語話者の発想法が具現した、厳格かつゆるやかな規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義を聴き、練習問題を解き、そして時には実際の英文の分析をしてもらうことによってそのような規則性を探ります。		1. 文（発話行為・疑問文・命令文・感嘆文） 2. 続き 3. 文の要素（意味役割） 4. 文の構造（動詞型） 5. 文の構造（形容詞型・名詞型） 6. 文の構造（主節・従節） 7. 時制と相（現在・過去・未来） 8. 時制と相（完了相・進行相） 9. 時制と相（話法） 10. 法助動詞 11. 否定 12. 態 13. 情報構造と主題構造 14. 前提と断定 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：村田勇三郎・他『英語の文法』大修館書店 参考書：田中茂範『表現英文法』コスモピア		最終成績は、課題と定期試験および授業への参加度によります。ただし、40 分以上の遅刻を 0.5 回分の欠席とみなし、欠席が 4 回を超えた場合は F となります。	

09 年度以降	College Grammar（金 3）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。		1. 授業概要 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞 I 5. 述語動詞 II（1） 6. 述語動詞 II（2） 7. 文の種類・8 品詞 8. 名詞 9. 代名詞（1） 10. 代名詞（2） 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社		授業貢献度（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

09 年度以降	College Grammar（金 3）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、日本人学習者が間違い易い文法事項について学ぶ（授業計画 10~14 参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期の College Grammar でも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。		1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞（1） 4. 助動詞（2） 5. 助動詞（3） 6. 時制（1） 7. 時制（2） 8. 呼応と時制の一致（1） 9. 呼応と時制の一致（2） 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞（1） 13. 関係代名詞（2） 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社		授業貢献度（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.		1 Introduction 2 Future, Suprasegmentals (intonation) 3 Simple Past 4 Alibi 5 Alibi 6 Culture Presentation: food & tourist attractions 7 Comparisons and superlatives 8 Conditionals 9 Conditionals 10 Reading presentation 11 Survey: Movies 12 Survey: Personality 13 Culture Presentation 14 Speaking tests 15 Speaking tests (written summaries due) Subject to change based on class's needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Participation (Absence = -5 points) 30 Summary 10 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 30	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.		1 Introduction 2 Survey: Bilinguals 3 Survey: Dating 4 Culture Presentation: language & art 5 Survey: MASK 6 School festival 7 Survey: Travel 8 Survey: Music 9 Music presentation 10 Presentation preparation 11 Formal Presentation using PowerPoint 12 Formal Presentation using PowerPoint 13 Christmas 14 Speaking tests (written summaries due) 15 Speaking tests Subject to change based on class's needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Participation (Absence = -5 points) 30 Summary 20 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 20	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!		Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!		Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
The object of this course is to have students lead a discussion on a topic of their choosing. Students will prepare material and questions in advance and then present their topic to small groups or the class. They will take the role of discussion leader and will be responsible for ensuring an engaging discussion. Preparation and participation as members of the discussion group will also be emphasized. Students will get the chance to voice their opinions on various student generated topics. Group members are responsible for contributing meaningfully in a given discussion.		1. Introduction 2. Contributing to a Discussion - Workshop 3. Current Topics in the News – Teacher Led 4. Current Topics in the News – Teacher Led 5. Leading a Discussion – Workshop 6. Current Topics in the News – Small Group Discussion 7. Current Topics in the News – Small Group Discussion 8. Choosing a Topic – Workshop 9. Student Led Short Discussions 10. Student Led Short Discussions 11. Giving Feedback – Workshop 12. Student Led Discussions 13. Student Led Discussions 14. Student Led Discussions 15. Review and Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text book is required for this course.		Preparation and homework 20%, Contribution as a discussion group member 50%, Performance as a discussion leader 30%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on the language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 5. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques.		1. Introductions, course explanation 2. Research and analysis of topic 1 3. Discussion of topic 1; write summary of discussion 4. Presentation of findings/opinions on topic 1 5. Research and analysis of topic 2 6. Discussion of topic 2; write summary of discussion 7. Presentation of findings/opinions on topic 2 8. Research and analysis of topic 3 9. Discussion of topic 3; write summary of discussion 10. Presentation of findings/opinions on topic 3 11. Research and analysis of debate topic 12. Discussion of debate topic; write debate scripts 13. Prepare for team debate 14. Team debate 15. Team debate	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Presentations/Debate: 80%, Participation: 20%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on the language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 5. To encourage experimentation with advanced visual and multimedia techniques.		1. Introductions, course explanation 2. Research and analysis of topic 1 3. Discussion of topic 1; write summary of discussion 4. Presentation of findings/opinions on topic 1 5. Research and analysis of topic 2 6. Discussion of topic 2; write summary of discussion 7. Presentation of findings/opinions on topic 2 8. Research and analysis of topic 3 9. Discussion of topic 3; write summary of discussion 10. Presentation of findings/opinions on topic 3 11. Research and analysis of debate topic 12. Discussion of debate topic; write debate scripts 13. Prepare for team debate 14. Team debate 15. Team debate	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Presentations/Debate: 80%, Participation: 20%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills (火 2) Communicative English (火 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to international communication.)</i> Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)] Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" : communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: Body Language & 'EQ' Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your <i>future plans (for the Summer)</i>, in English. Pair practice. Final student presentations.	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <i>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</i>	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills (火 2) Communicative English (火 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en. Researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en, Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto <i>"What are you thankful for?"</i> Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatau?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <i>future plans</i> for the February & March Break.	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <i>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</i>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course gives you maximum opportunities to practice and develop the communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II We shall focus on historical events and current affairs issues through 1) research 2) critical reading 3) presentations 4) discussion & debate In the first third of the course: I will present historical and topical issues of my choice for you to read, discuss and debate Second third: You will choose, research and prepare a presentation of your own on a news story or historical event Final third: You will present your topics for your classmates to read, discuss and debate		1 Course overview 2 Historical events: research & readings 3 Presentation & discussion 4 Current affairs: research & readings 5 Presentation & debate 6 Choosing your topic 7 Reading & sharing your research 8 Outlining your presentation & handout 9 Creating your presentation 10 Presentation practice and editing 11 Class presentations for discussion or debate 12 Class presentations for discussion or debate 13 Class presentations for discussion or debate 14 Class presentations for discussion or debate 15 Review & Evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook for this course		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation - 50% one presentation with handout - 50%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is an intermediate-level context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.		UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		30% Class Work, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
This is an upper-intermediate context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.		UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		30% Class Work , 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course we will build upon what students learned in Communicative English I as well as Comprehensive English. The students will work on their speaking and reading, and development of their critical thinking processes through a variety of topics and materials, some provided by the teacher and others by the students themselves.		1. Course orientation and introductions. 2. Aspects of culture. 3. Aspects of culture. 4. Media communications and you. 5. Media communications and you. 6. Ways of thinking. 7. Ways of thinking. 8. Presentation preparation. 9. Student presentations. 10. World matters. 11. World matters. 12. Looking ahead. 13. Looking ahead. 14. Test. 15. Course review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance, presentations and a final test.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.		Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.		Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to improve students' oral communication and critical thinking skills. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of current topics. The class will also emphasize developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.		Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Introduction to critical thinking Week 3: Finding the controversy Week 4: Making effective summaries Week 5: Introduction to critical thinking Week 6: Introduction to small group discussion Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Introduction to topic presentations Week 12: Presentation workshop Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation	
テキスト、参考文献		評価方法	
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		20% class participation 40% small group discussion leadership 40% Presentation	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to improve students' oral communication and critical thinking skills. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of current topics. The class will also emphasize developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.		Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation	
テキスト、参考文献		評価方法	
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		20% class participation 40% small group discussion leadership 40% Presentation	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills (木 2) Communicative English (木 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to international communication.)</i> Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)] Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" re: communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: Body Language & 'EQ' Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your <i>future plans (for the Summer)</i>, in English. Pair practice. Final student presentations.	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills (木 2) Communicative English (木 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.		(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do...?" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto "<i>What are you thankful for?</i>" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and <i>Christmas cultures</i> in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about <i>New Year's wishes and plans</i>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?" discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <i>future plans</i> for the February & March Break.	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.		Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text - unit 2 continued Week 9: Discussions & text - unit 3 Week 10: Discussion & text - unit 3 continued Week 11: Discussion & text - unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text - unit 5 Week 14: Discussion & text - unit 5 continued Week 15: Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3		Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.		Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text - unit 2 continued Week 9: Discussions & text - unit 3 Week 10: Discussion & text - unit 3 continued Week 11: Discussion & text - unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text - unit 5 Week 14: Discussion & text - unit 5 continued Week 15: Review and feedback	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3		Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Introduction 2. Exchanging personal information 3. Personality Types 4. Appearances 5. Attitudes 6. Comparing experiences 7. Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11. Music 12. Media 13. Education 14. Commercials 15. Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on class participation and tests.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Summer vacation 2. Personal opinions 3. Japan 4. Preferences 5. Religions 6. Film and TV 7. Language 8. Poverty 9. War and Peace 10. Diet and nutrition 11. Green issues 12. Natural Disasters 13. Sexism 14. Poster Presentations 15. Poster Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on class participation and tests.	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.		Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas		Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.		1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.		1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	Communication Skills Communicative English	担当者	未定 (曜時を含め、掲示にて確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	

09 年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.		Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%	

09 年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.		Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Discussion	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.		1. Self-Introductions 2. Avertising 3. Animal Rights 4. Art & Artists 5. Beauty 6. Beliefs 7. Cime and Punishment 8. Discipline 9. Drinks and Drugs 10. Family 11. Fashion 12. Film and TV 13. IQ vs EQ 14. Future Occupations 15. Test- Poster presentation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance((40%), presentations(30%) and tests (30%).	

09 年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, the students will learn the principles and skills necessary for effective communication/discussion in English. The students will learn to cultivate and express their opinions and ideas, as well as engage in critical thinking in English.		Various discussion topics will be announced after evaluating the level of the students. Week 1: Introduction and orientation Week 2 - 12: Various discussion topics (to be announced) Week: 13-15: Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide all materials necessary.		Participation:50% Presentation:50%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.	

09 年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.	

09 年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.		1. Introduction to the Course 2. Discussion and Chat: what's the difference? 3. Discussion VS Debate: what's the difference? 4. Principles of a Good Discussion 5. Listening, Agreeing and Disagreeing 6. Topic 1: Graded (group) Exercise 7. Organization of Ideas 8. Topic 2: Graded (group) Exercise 9. The Importance of Language 10. Topic 3: Graded Exercise 11. Mind-mapping: Can't be overlooked 12. Topic 4: Graded Exercise 13. Facts, Data & Evidence 14. Topic 4: Graded Exercise 15. Summary and evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09 年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.		1. Introduction to the Course 2. Discussion VS Chat: what's the difference? 3. Discussion VS Debate: what's the difference? 4. Principles of a Good Discussion 5. Skills for Effective Discussion 6. Topic 1: Social Networking (Graded) 7. Organization of Ideas 8. Topic 2: LCC (Graded) 9. Importance of Language 10. Topic 3: Providing Evidence (Graded) 11. Mind-mapping: Can't be overlooked 12. Topic 4: Data Processing (Graded) 13. Connecting Links in Speech 14. Topic 4: Why Plastic Surgery (Graded) 15. Summary and evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09 年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.		Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Discussion Topic # 7 Week 8: Discussion Topic # 8 Week 9: Discussion Topic # 9 Week 10: Discussion Topic # 10 Week 11: Discussion Topic # 11 Week 12: Discussion Topic # 12 Week 13: Discussion Topic # 13 Week 14: Discussion Topic # 14 Week 15: Quiz	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%	

09 年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.		Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic #1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Discussion Topic # 7 Week 8: Discussion Topic # 8 Week 9: Discussion Topic # 9 Week 10: Discussion Topic # 10 Week 11: Discussion Topic # 11 Week 12: Discussion Topic # 12 Week 13: Discussion Topic # 13 Week 14: Discussion Topic # 14 Week 15: Quiz	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%	

09 年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in developing and communicating our thoughts and ideas. Through interesting topics chosen by both teacher and students we will engage the class in productive discussions that will help to give us new perspectives on the world and the complex and everyday situations, problems and circumstances. As well as pair work and group work, students will also be required to do presentations for groups or the entire class.		1. Class introductions and course orientation. 2. First impressions. 3. Show and tell, mystery items and question and answer. 4. Cultural comparisons. 5. Students' choice. Topic chosen by class. 6. Presentation preparation. 7. Presentations. 8. Paris syndrome. Perceptions and expectations of the future. 9. Versions of self. 10. On screen, movie or TV excerpts and discussion. 11. The downside. The influence and construction of attitudes in society. 12. Students' choice. Topic chosen by class. 13. Presentation preparation. 14. Presentations. 15. Course review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this class.		Assessment will be based on class participation, contributions, and presentations.	

09 年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in developing and communicating our thoughts and ideas. Through interesting topics chosen by both teacher and students we will engage the class in productive discussions that will help to give us new perspectives on the world and the complex and everyday situations, problems and circumstances. As well as pair work and group work, students will also be required to do presentations for groups or the entire class.		1. Class introductions and course orientation. 2. Group discussion activities. 3. Single life. Modern relationships and communication. 4. Scary experiences. A Halloween lesson. 5. Students' choice. Topic chosen by class. 6. Presentation preparation. 7. Presentations. 8. On track. Music and you. 9. The culture of fear. 10. The big picture. Movie or TV excerpts and discussion. 11. Students' choice. Topic chosen by class. 12. Christmas. Festivals and tradition. 13. Presentation preparation. 14. Presentations. 15. Course review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this class.		Assessment will be based on class participation, contributions, and presentations.	

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.		Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2 What listeners need. What speakers must do. Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework ! Week 4 Write and edit Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6 Presentations, evaluation, feedback. Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8 Write and edit Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10 Presentations, evaluation, feedback. Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12 Write and edit Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14 Presentations, evaluation, feedback. Week 15 Feedback, wrap-up.	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).	

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.		Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2 What listeners need. What speakers must do. Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework ! Week 4 Write and edit Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6 Presentations, evaluation, feedback. Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8 Write and edit Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10 Presentations, evaluation, feedback. Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12 Write and edit Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14 Presentations, evaluation, feedback. Week 15 Feedback, wrap-up.	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).	

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
テキスト、参考文献		評価方法	
Individual reading texts will be distributed in class.		Speeches (drafts and final version) 50% Presentations (drafts and final version) 50%	

09 年度以降	Public Speaking II	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
テキスト、参考文献		評価方法	
Individual reading texts will be distributed in class.		Speeches (drafts and final version) 50% Presentations (drafts and final version) 50%	

09 年度以降	Debate I	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to have students improve and practice their English through debating. Students will learn essential debating skills such as supporting and countering arguments, defining a topic and debate procedures. Emphasis will be placed on team work, preparation and quick thinking. The topics for the debate will be a mixture of those chosen by the teacher and those generated by the students. Students will also be active in the evaluation process and encouraged to offer feedback to their peers. Student participation is a must for success in this class.		1. Introduction 2. Debate Topic #1 – Supporting Arguments 3. Debate Topic #2 – Organizing Supporting Arguments 4. Debate Topic #3 – Preparing Counter Arguments 5. Debate Topic #4 – The Structure of a Debate 6. Debate Topic #5 – Judging a Debate 7. Debate Topic #6 – Mock Debate 8. What is a Topic? – Student Topics 9. Student Topics – Team Work & Debate Preparation 10. Final Team Preparations 11. In-class Debate I 12. Student Topics – Team Work & Debate Preparation 13. Final Team Preparations 14. In-class Debate II 15. Review and Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Debate I: 20%, Debate II: 20%, Homework 20%, Contributions made in the first six debates: 30%, Peer feedback: 10%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	Debate I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. Students considering this class should keep in mind that a continuing course is offered in the 2nd semester, and will build on the skills previously learned.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%	

09 年度以降	Debate II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same format as Debate, but will address more advanced topics and allow more time for text analysis. The two basic goals in mind for this course are : 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%	

13 年度以降	Academic Lecture (Japanese Art History)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.		1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派) 6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画) 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment	
テキスト、参考文献		評価方法	
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.	

13 年度以降	Academic Lecture (Japanese Art History)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. In addition, supplemental readings and associated vocabulary exercises will be provided to ensure comprehension of unfamiliar, specialized language and difficult-to-understand points. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal paintings and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.		1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派) 6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画) 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment	
テキスト、参考文献		評価方法	
Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.	

13 年度以降	Listening and Pronunciation	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムを課題に組み込むことによって履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。 <u>概要</u> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。		1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習（1） ー ポッドキャストによる時事英語 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語（1） 9. 機内アナウンス：雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌：英語のリズムと音のつながり（連結） 12. チャンツとラップ：強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習（2） ー 様々なメディアでの英語 14. 期末テスト及び映像を介した英語（2） 15. 総復習：今期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>教科書</u> 大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』（金星堂、2014 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

13 年度以降	Listening and Pronunciation	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> 大きな文脈における内容を理解し、要点を聞きとる力のさらなる向上を目指す。オンライン教材を補強し、コース終了後も校内外での学習が継続できることを目標とする。意味のまとまりを聞き取る演習とディクテーション等で細部を確認するタスクを並行して取り入れ、録音やシャドウイングなど発音向上へ繋がるタスクも随時導入の予定。 <u>概要</u> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。		1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. ラジオの DJ：音のつながり（同化現象） 4. コマーシャル：音のつながりに関する総まとめ 5. 初対面の人と話す：上昇のイントネーション 6. クレームを伝える：下降イントネーション 7. ウェブでのリスニング学習（1） ー 安全で効率的なサイトを検証する 8. 中間テスト及び映像を介した英語（1） 9. 予想外の出来事について：感嘆文のイントネーション 10. 楽しいプラン：列挙/選択におけるイントネーション 11. 住環境の好み：話者の意図によるイントネーション 12. 詩と歌：詩歌を通しての英語リズム 13. ウェブでのリスニング学習（2） ー 様々なサイトやアプリを紹介し合う 14. 期末テスト及び映像を介した英語（2） 15. 総復習：今期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<u>教科書</u> 大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』（金星堂、2014 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語のさまざまな面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。 <u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり、課題をやってくれることが必須となる。 <メッセージ> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、<u>一度しっかり学んでみませんか。</u> ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられるよ...」という声をよく聞きます。<u>知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。</u> ◎ゼミ応募の可能性のある人は(2 次でも 3 次でも)、是非 2 年生で履修することを勧める。		1. 第 1 章「音声学とは」学際的領域、学習者/指導者として 2. 第 2 章「発声のメカニズム」器官、音声が進ぶ情報 3. 第 3 章「音声表記」綴りと発音、IPA 4. 第 4 章「母音」基本母音、英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第 5 章「子音」分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第 3 章「音素と異音」日本の干渉 9. 第 6 章「音節」音節構造と強勢と母音 10. 第 7 章「語強勢」 11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」音縮小と統語構造、第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」音調核、統語/意味構造、パラ言語 14. 「イントネーション」(2) 15. 音声学の応用 (教育・政策・社会学・臨床・工学等)	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%, クイズ・課題:約 25%, 試験:約 60%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる。	

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声はどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語のさまざまな面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。 <u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり、課題をやってくれることが必須となる。 <メッセージ> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、<u>一度しっかり学んでみませんか。</u> ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられるよ...」という声をよく聞きます。<u>知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。</u> ◎ゼミ応募の可能性のある人は(2 次でも 3 次でも)、是非 2 年生で履修することを勧める。		1. 第 1 章「音声学とは」学際的領域、学習者/指導者として 2. 第 2 章「発声のメカニズム」器官、音声が進ぶ情報 3. 第 3 章「音声表記」綴りと発音、IPA 4. 第 4 章「母音」基本母音、英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第 5 章「子音」分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第 3 章「音素と異音」日本の干渉 9. 第 6 章「音節」音節構造と強勢と母音 10. 第 7 章「語強勢」 11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」音縮小と統語構造、第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」音調核、統語/意味構造、パラ言語 14. 「イントネーション」(2) 15. 音声学の応用 (教育・政策・社会学・臨床・工学等)	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%, クイズ・課題:約 25%, 試験:約 60%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる。	

09 年度以降	通訳 I	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 講義では、会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について説明する。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・政治 英日 2. 政治 日英 3. 技術 英日 4. 技術 日英 5. 犯罪 英日 6. 犯罪 日英 7. 中間テスト 8. IT 通信 英日 9. IT 通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	通訳 I	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みる。基礎トレーニングの一環として日本語・英語の運用能力の強化を図ると同時に、幅広い分野に対応できるような知識についても学ぶ。語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましい。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・教育 英日 2. 教育 日英 3. 国際関係 英日 4. 国際関係 日英 5. 環境 英日 6. 環境 日英 7. 中間テスト 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	通訳 I（金 1）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。		1. オリエンテーション 2. 通訳訓練 (1) シャドーイング 3. 通訳訓練 (2) リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練 (3) クイックレスポンス 5. 通訳訓練 (4) ノートテークング 6. 逐次通訳演習 (1) 7. 逐次通訳演習 (2) 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習 (3) 10. 逐次通訳演習 (4) 11. 逐次通訳演習 (5) 12. 逐次通訳演習 (6) 13. 逐次通訳演習 (7) 14. 逐次通訳演習 (8) 15. 確認テスト(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で随時配布します。		授業中に随時実施する小テストおよび 2 回の確認テストによって評価する。	

09 年度以降	通訳 I（金 1）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。		1. オリエンテーション 2. 通訳訓練 (1) シャドーイング 3. 通訳訓練 (2) リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練 (3) クイックレスポンス 5. 通訳訓練 (4) ノートテークング 6. 逐次通訳演習 (1) 7. 逐次通訳演習 (2) 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習 (3) 10. 逐次通訳演習 (4) 11. 逐次通訳演習 (5) 12. 逐次通訳演習 (6) 13. 逐次通訳演習 (7) 14. 逐次通訳演習 (8) 15. 確認テスト(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で随時配布します。		授業中に随時実施する小テストおよび 2 回の確認テストによって評価する。	

09 年度以降	通訳 I (金 2)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。		1. オリエンテーション 2. 通訳訓練 (1) シャドーイング 3. 通訳訓練 (2) リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練 (3) クイックレスポンス 5. 通訳訓練 (4) ノートテークング 6. 逐次通訳演習 (1) 7. 逐次通訳演習 (2) 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習 (3) 10. 逐次通訳演習 (4) 11. 逐次通訳演習 (5) 12. 逐次通訳演習 (6) 13. 逐次通訳演習 (7) 14. 逐次通訳演習 (8) 15. 確認テスト(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で随時配布します。		授業中に随時実施する小テストおよび 2 回の確認テストによって評価する。	

09 年度以降	通訳 I (金 2)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。 将来的に通訳者を目指す人はもちろん、総合的な英語力の向上を目指す人も対象としています。 授業では英日の逐次通訳演習を中心としますが、数字の聞き取り演習やディクテーション、クイックレスポンス、シャドーイングなどの訓練も行います。 第 1 回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。		1. オリエンテーション 2. 通訳訓練 (1) シャドーイング 3. 通訳訓練 (2) リテンション・リプロダクション 4. 通訳訓練 (3) クイックレスポンス 5. 通訳訓練 (4) ノートテークング 6. 逐次通訳演習 (1) 7. 逐次通訳演習 (2) 8. 確認テスト(1) 9. 逐次通訳演習 (3) 10. 逐次通訳演習 (4) 11. 逐次通訳演習 (5) 12. 逐次通訳演習 (6) 13. 逐次通訳演習 (7) 14. 逐次通訳演習 (8) 15. 確認テスト(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で随時配布します。		授業中に随時実施する小テストおよび 2 回の確認テストによって評価する。	

09 年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 基礎訓練ではシャドーイングをはじめとする通訳基礎トレーニングを行う。一方、応用訓練では、逐次通訳、同時通訳に向けて文化的な背景も踏まえた訳出法を習得していく。毎回単語小テストを実施しボキャブラリーを増やしていく。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・政治 英日 2. 政治 日英 3. 技術 英日 4. 技術 日英 5. 犯罪 英日 6. 犯罪 日英 7. 中間テスト 8. IT 通信 英日 9. IT 通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、環境、経済などといったテーマを取り上げる。効果的なコミュニケーションや文化的な背景も踏まえた精度の高い通訳を目指す。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましい。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。		1. オリエンテーション・教育 英日 2. 教育 日英 3. 国際関係 英日 4. 国際関係 日英 5. 環境 英日 6. 環境 日英 7. 中間テスト 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 適宜資料を配布する 参考文献： 適宜紹介する		毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および中間・期末テスト（30%）。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進捗具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上		下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①（英文ビジネスコラム） 3 国際取引概略 I 4 プリント② 5 国際取引概略 II 6 プリント③ 7 引合（inquiry） 8 プリント④ 9 オファー I（offer） 10 プリント⑤ 11 オファー II 12 プリント⑥ 13 プリント⑦ 14 プリント⑧ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進捗具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上		下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。 1 契約 1（contract） 2 プリント⑦ 3 契約 II 4 プリント⑧ 5 クレーム I（claim） 6 プリント⑨ 7 クレーム II 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 10-15 プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進捗具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上		下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント①（英文ビジネスコラム） 3 国際取引概略Ⅰ 4 プリント② 5 国際取引概略Ⅱ 6 プリント③ 7 引合（inquiry） 8 プリント④ 9 オファーⅠ（offer） 10 プリント⑤ 11 オファーⅡ 12 プリント⑥ 13 プリント⑦ 14 プリント⑧ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進捗具合などにより変更がありうる。 受講レベル：TOEIC600 点以上		下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進捗状況により変更することがある。 1 契約Ⅰ（contract） 2 プリント⑦ 3 契約Ⅱ 4 プリント⑧ 5 クレームⅠ（claim） 6 プリント⑨ 7 クレームⅡ 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 10-15 プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単なビジネス英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。 「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者、英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。 受講レベル：TOEIC600 点以上		1. 講義の説明 2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） 3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題 1 4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） 5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題 2 6. よく使用される表現（その 1—「取引の申込み」） 7. よく使用される表現（その 2—「引合い」）練習問題 3 8. よく使用される表現（その 3—「オファー」） 9. よく使用される表現（その 4—「信用状」）練習問題 4 10. よく使用される表現（その 5—「積出し」） 11. よく使用される表現（その 6—「クレーム」） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方 13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 1） 14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 2） 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、ヨーロッパの債務危機、TPP）について分かりやすく解説・説明していきます。 水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。 受講レベル：TOEIC600 点以上		1. 講義の説明 2. 「英字新聞の特徴について（1）」 3. 「英字新聞の特徴について（2）」 4. 「Headline の読み方実践練習（1）」 5. 「Headline の読み方実践練習（2）」 6. 「Lead の読み方実践練習（1）」 7. 「Lead の読み方実践練習（2）」 8. 「Lead の読み方実践練習（3）」 9. 「Lead の読み方実践練習（4）」 10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」 11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」 12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」 13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」 14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、ヨーロッパの債務危機、TPP）について分かりやすく解説・説明していきます。 火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。 <u>受講レベル：TOEIC600 点以上</u>		1. 講義の説明 2. 「英字新聞の特徴について（1）」 3. 「英字新聞の特徴について（2）」 4. 「Headline の読み方実践練習（1）」 5. 「Headline の読み方実践練習（2）」 6. 「Lead の読み方実践練習（1）」 7. 「Lead の読み方実践練習（2）」 8. 「Lead の読み方実践練習（3）」 9. 「Lead の読み方実践練習（4）」 10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」 11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」 12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」 13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」 14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度等（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者にも英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。 <u>受講レベル：TOEIC600 点以上</u>		1. 講義の説明 2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） 3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題 1 4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） 5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題 2 6. よく使用される表現（その 1－「取引の申込み」） 7. よく使用される表現（その 2－「引合い」）練習問題 3 8. よく使用される表現（その 3－「オファー」） 9. よく使用される表現（その 4－「信用状」）練習問題 4 10. よく使用される表現（その 5－「積出し」） 11. よく使用される表現（その 6－「クレーム」） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方 13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 1） 14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 2） 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト 2 回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木3）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期はUnit1～12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意： このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。 受講レベル：TOEIC600点以上		1. 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。 4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。 5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。 6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。 7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。 8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。 9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。 10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。 11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。 12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。 13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。 14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。 15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講（三訂版）』（三恵社、2013 年）および配布プリント （参考書） 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）		期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木3）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期はUnit13～21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意： このシラバスは木曜日 3 時限の授業のものです。杉山担当のもう 1 つの同一名称科目とは内容が異なります。 受講レベル：TOEIC600 点以上		1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「信用状の開設と訂正」の通信文の読解・作成を行います。 4. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。 5. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。 6. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。 7. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。 8. 「決済」の通信文の読解・作成を行います。 9. 「クレーム」の通信文の読解・作成を行います。 10. 「クレーム調整」の通信文の読解・作成を行います。 11. 「会社社交文」（推薦状）の読解・作成を行います。 12. 「会社社交文」（案内状）の読解・作成を行います。 13. 「会社社交文」（礼状）の読解・作成を行います。 14. 「会社社交文」（見舞状）の読解・作成を行います。 15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講（三訂版）』（三恵社、2013 年）および配布プリント （参考書） 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）		期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 4）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、<u>レター・オブ・インテント (Letter of Intent ; LOI)</u>、<u>スポット売買契約(One-shot Sales Contract)</u> の表面約款と裏面約款、<u>長期売買契約書(Long-term Sales Contract)</u>、<u>取扱説明書(Instruction Manual)</u> などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意：このシラバスは木曜日 4 時限の授業のものです。 受講レベル：TOEIC600点以上		1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.-3. LOI の意義と目的や作成上の注意点について説明し実際のサンプルを検討します。 4.-5. 実際の案件に基づき LOI 作成の実習を行います。 6.-8. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、「表面約款」および「裏面約款（一般取引条件）」の現物のサンプルを検討します。 9-10. 長期売買契約書について説明し、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 11-12. 製造物責任 (Product Liability) の観点から英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 13-14. “Plain English” を用いた取扱説明書作成の方略を検討します。 15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)		期末試験の結果(概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重) を合計して評価します。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木 4）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、<u>履行および決済の段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、<u>商業送り状(Commercial Invoice)</u>、<u>船荷証券 (Bill of Lading; B/L)</u>、<u>保険証券 (Insurance Policy)</u> 等の船積書類、<u>輸出申告書と輸入(納税)申告書</u>、<u>荷為替信用状 (Documentary Letter of Credit; L/C)</u> などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 *注意：このシラバスは木曜日 4 時限の授業のものです。 受講レベル：TOEIC600 点以上		1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2. 各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.-4. 商業送り状のサンプルを検討し、作成する実習を行います。 5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.-9. 輸出申告書 (Export Declaration; E/D) を作成する実習を行います。 10.-11. 輸入(納税)申告書 (Import Declaration; I/D) を作成する実習を行います。 12.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15. 秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)		期末試験の結果(概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重) を合計して評価します。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、<u>春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。</u> 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 履修条件：英語ビジネス・コミュニケーションを既修または並行履修		1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティング段階(1)：“Market Research” 7. 貿易マーケティング段階(2)：“Marketing Research” 8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設段階(2)：信用照会(credit inquiry) 10. 成約段階(1)：「一般取引条件」の意義と内訳 11. 成約段階(2)：オファー(offer)と承諾(acceptance) 12. 成約段階(3)：品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)：価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)：船積みと保険に関する条件 15. 春学期の授業の総復習および質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)		期末試験の結果(概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重)を合計して評価します。	

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、<u>秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。</u> 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 履修条件：英語ビジネス・コミュニケーションを既修または並行履修		1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：“Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類 (transport document) 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit: L/C)と荷為替手形による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)		期末試験の結果(概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね 20%の比重)を合計して評価します。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度、春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである「映画」を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、「日本語字幕と音声英語の違い」、「原作小説との比較」などを通して、「映画で学ぶ言葉と文化」を分かりやすく講義していきます。同時に、映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います。就活や社会に出てから必要な「考える力」も養います。学生諸君にとっては、きっと「目から鱗が落ちる」講義となるでしょう。 具体的に講義を説明いたします。アメリカ映画を2本取りあげます。最初の映画は、『ジャイアンツ <i>Giant</i>』（1956年）で、アカデミー賞監督賞を受賞した作品です。人種問題、東部と南部の文化の違い、テキサスの誇り、女性の自立等を扱っています。2本目の映画は、『紳士協定 <i>Gentleman's Agreement</i>』（1947年）で、ユダヤ人差別を扱った初めての映画です。2本の映画を通して、特にアメリカの「人種問題」等を中心にして講義して、皆さんとお話したいと思っております。また、Stand your ground law についても説明したいと思います。		1. 講義の説明 2. 「ジャイアンツ（その1）」部分鑑賞と講義 3. 「ジャイアンツ（その2）」部分鑑賞と講義 4. 「ジャイアンツ（その3）」部分鑑賞と講義 5. 「ジャイアンツ（その4）」部分鑑賞と講義 6. 「ジャイアンツ（その5）」部分鑑賞と講義 7. 「ジャイアンツ（その6）」部分鑑賞と講義 8. 「ジャイアンツ（その7）」部分鑑賞と講義 9. 「ジャイアンツ（その8）」部分鑑賞と講義 10. 「紳士協定（その1）」部分鑑賞と講義 11. 「紳士協定（その2）」部分鑑賞と講義 12. 「キング牧師の関連映像」鑑賞と講義 13. 「現代アメリカと Stand your ground law（その1）」 14. 「現代アメリカと Stand your ground law（その2）」 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度、秋学期も「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである「映画」を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、「日本語字幕と音声英語の違い」などを通して、「映画で学ぶ言葉と文化」を分かりやすく講義していきます。同時に、映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います。就活や社会に出てから必要な「考える力」も養います。学生諸君にとっては、きっと「目から鱗が落ちる」講義となるでしょう。 具体的に講義を説明いたします。1973年のアメリカ映画『追憶 <i>The Way We Were</i>』を取り上げます。「赤狩り」を背景とした「感動のラブ・ストーリー」である。次に、関連映像『赤狩りとアカデミー賞』を取り上げます。秋学期の授業では、この「赤狩り」を詳しく講義していきます。「赤狩り」は「共産主義の脅威」から、1948年ごろから1950年代前半にかけて、アメリカの「共産黨員・シンパ」を排斥した運動ですが、現代の「テロの脅威」と比べながら、映画を通して「現代アメリカ社会」を探っていきたいと思います。		1. 講義の説明 2. 「追憶（その1）」部分鑑賞と講義 3. 「追憶（その2）」部分鑑賞と講義 4. 「追憶（その3）」部分鑑賞と講義 5. 「追憶（その4）」部分鑑賞と講義 6. 「追憶（その5）」部分鑑賞と講義 7. 「追憶（その6）」部分鑑賞と講義 8. 「追憶（その7）」部分鑑賞と講義 9. 「赤狩りとアカデミー賞（その1）」部分鑑賞と講義 10. 「赤狩りとアカデミー賞（その2）」部分鑑賞と講義 11. 「エリア・カザンとダルトン・トランボ」講義 12. 「赤狩りと現代アメリカ社会（その1）」講義 13. 「赤狩りと現代アメリカ社会（その2）」講義 14. 「赤狩りと現代アメリカ社会（その3）」講義 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> 英語学習の目標の一つとして「いわゆる教材英語ではない生きた英語（時事英語）を直接理解すること」がある。時事的なトピックを英語で読める・聞けるようになるには一般的な英語力に加えて世界の情勢や文化への知識を持つことも必要となる。以上を前提に、このコースでは、自分の生活圏を離れた国内外の出来事への興味関心を喚起し、同時に「使える英語」の習得を目標とする。 <u>概要</u> イギリスの放送局 BBC から配信されたニュースの中から、様々なトピックを取り上げる。語彙のまとめ方などを工夫し、理解した内容を自分のフィルターを通して要約文が書けるようになるプロセスを News Report として順次学習していく。		1. コース概要 1：オリエンテーション 2. コース概要 2：ニュース英語について 3. <i>The Queen：Patron of the Arts</i> 4. <i>Finding British Food in France</i> 5. <i>Facebook and Free Speech</i> 6. <i>The Stonehenge Site</i> 7. その他オンラインニュースなど（1） 8. <中間テスト> 9. <i>Muslim Dress</i> 10. <i>The Death of the Book?</i> 11. <i>A Day Trip to Derry?</i> 12. <i>Bringing Back the Bees</i> 13. その他オンラインニュースなど（2） 14. <期末テスト> 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著『BBC Seeing the World through the News 1』（金星堂、2014 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に、課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>目的</u> ジャーナリズムの英語を中心に様々な媒体を通して生きた英語に触れ、教材英語ではない「生の英語を理解すること」を目標とする。後半は英語の理解（読解・聴解）にとどまらず、プレゼンテーションの場を設けて、英語での発信力も徐々に養っていく。 <u>概要</u> BBC のニュース記事を教材とし、表現や運用法を英語学習のリソースとして活用する。学期の後半はグループワークで地域（国）別の問題・社会現象を取り上げ、発表することを中心課題とする。		1. コース概要 1：オリエンテーション 2. コース概要 2：ニュース英語について 3. <i>Becoming British Citizens</i> 4. <i>At Home with Dementia</i> 5. <i>The Price of Parking</i> 6. <i>Space：Next Step of Dead End?</i> 7. <中間テスト> 8. グループの決定→地域／リソースの選択 9. グループワーク 1 10. グループワーク 2 11. グループワーク 3 12. プレゼンテーション 1 13. プレゼンテーション 2 14. <期末テスト> 15. Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著『BBC Seeing the World through the News 1』（金星堂、2014 年）		中間・期末試験の結果（60％）の他に、課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、3つの国（インド、スイス、ブータン）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 * 可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため） * ↑をもとに、自分の考えを創り出す * 自分の考えを他人に正確に伝える * 他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。） * 行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！		1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&担当箇所決定 3. 9.11：なぜ「歴史的イベント」となったのか？ 4-5. 再生可能エネルギーの可能性 6-7. 大企業化①：食品業界 8-9. 大企業化②：金融業界 10-11. インド独立とその後 12-13. 国交樹立150周年：スイスとの距離 14. 国民総幸福度(GNH):ブータンから何を学べるか？ 15. 春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！	
テキスト、参考文献		評価方法	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		※提出物（レポート）50%、授業内での発表&発言50% ※遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 * 可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため） * ↑をもとに、自分の考えを創り出す * 自分の考えを他人に正確に伝える * 他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。） * 行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！		1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&担当箇所決定 3-4. 3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6. 靖国神社参拝問題 7-8. 沖縄の歴史 9-10. 国の借金：本当に深刻なのか？ 11. 年間自殺者数3万人時代(1998-2011)とその後 12-13. 日本のアニメと漫画 14. これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15. 秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！	
テキスト、参考文献		評価方法	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		※提出物（レポート）50%、授業内での発表&発言50% ※遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	メディア英語 I (金 1)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.		1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09 年度以降	メディア英語 I (金 1)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.		1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>political and economic/business stories, with a focus on Japan</u>. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09 年度以降	メディア英語 I (金 3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.		1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09 年度以降	メディア英語 I (金 3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.		1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.		1 Introduction 2 Route 66, Weekly Current Event 3 The American RED Cross, Weekly Current Event 4 The Boston Ballet, Weekly Current Event 5 Comedy, Weekly Current Event 6 Political Protest, Weekly Current Event 7 The Yellow Pages, Weekly Current Event 8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event 9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event 10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event 11 Supermarkets, Weekly Current Event 12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event 13 Equal Pay for Women 14 Social Welfare Change 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.		1 Introduction 2 Tennessee, Weekly Current Event 3 The Special Olympics, Weekly Current Event 4 Sports Shoes, Weekly Current Event 5 Charities for Children, Weekly Current Event 6 Health and Comedy, Weekly Current Event 7 Broadway Musical, Weekly Current Event 8 Country Western Singers, Weekly Current Event 9 Space Exploration, Weekly Current Event 10 Analysis of Commercial 11 You tube music analysis 12 Critique of Viral video 13 The Cove 14 Whaling Issues 15 Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。		初回の授業はイントロダクション。その後は15回目まで毎回、授業の初めに単語小テストを行った後で主に和訳をしながら記事を読み進める。 第1回 イントロダクション 第2回～15回 上記の授業内容を毎回行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		毎回の単語小テストの平均点により評価する。 授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		毎回の単語小テストの平均点により評価する。 授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09 年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09 年度以降	シネマ英語		担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画		
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。 前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。 履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。		第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習と確認 第8回 学生プレゼンテーションとコメント 第9回 学生プレゼンテーションとコメント 第10回 学生プレゼンテーションとコメント 第11回 学生プレゼンテーションとコメント 第12回 学生プレゼンテーションとコメント 第13回 学生プレゼンテーションとコメント 第14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト		
テキスト、参考文献		評価方法		
プリントその他。開講時に指示します。		コメント40%、ワークシート10%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%、レポート10%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。		

09 年度以降	シネマ英語		担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画		
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。 後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。		第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習と確認 第8回 学生プレゼンテーションとコメント 第9回 学生プレゼンテーションとコメント 第10回 学生プレゼンテーションとコメント 第11回 学生プレゼンテーションとコメント 第12回 学生プレゼンテーションとコメント 第13回 学生プレゼンテーションとコメント 第14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト		
テキスト、参考文献		評価方法		
プリントその他。開講時に指示します。		コメント40%、ワークシート10%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%、レポート10%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。		

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期では、様々なジャンルの映画（「SF」「ミュージカル」「ドキュメンタリー」「歴史」「青春」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは様々あり、取り扱う映画によって異なりますが、授業では、映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 基本的に、1回の授業で1本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくことより理解が深まるかと思えます。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！		1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. Matrix (1999) : 他メディアからの影響も検証する 4. Star Wars IV(1977) : 神話学者曰く「現代の神話」 5. Gattaca (1997) : 自然出産者はデザイナーベビーを超えられるか？ 6. Slumdog Millionaire (2008) : インドの現実？英国監督作品のためか、議論を呼んだ作品 7. Mother Teresa (1988) : やっぱすごい！マザーテレサ本人を映像で観る 8. Ten Commandments (1956) : 十戒を学んでみよう 9. The Truman Show (1998) : メディアに操られる世界 10. Chicago (2002) : 殺人事件も娯楽になる？ 11. Moulin Rouge! (2001) : ラブソングの変遷を追う 12. Hedwig and the Angry Inch (2001) : 「不完全な私」を受け入れるまで 13. Outsiders (1983) : フロストとスティービー・ワンダー 14. Dead Poet Society (1989) : 「いまを生きる」とは？ 15. 春学期授業のまとめ ※順番が変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		※ 提出物（レポート） 70%、授業での発言等 30% ※ 遅刻 3 回（30分以内）で 1 回の欠席とみなします。欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では、イギリスとアメリカの「コメディ」&「コメディアン」を取り扱います。「笑い」は、いつの時代でも「武器」や「治癒」として機能してきました。「裸の王様」に向かって「王様は裸だ！」と指摘するのは道化しかできないことでしたし（道化については2回目にお話する予定です）、「笑い」によって病を治療する方法も近年ではよく知られていることです。とはいえ、右記の授業計画にあるように、コメディやコメディアンにはいろいろなタイプがあります。今回の授業では分類することはあまり重視せず（英米の比較も少し触れる程度にします）、それぞれのコメディアンたちの作品をじっくり検証、分析、批評していきます。 基本的に講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！		1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. George Carlin 4. Seinfeld 5. Eddie Murphy 6. Monty Python 7. Frasier 8. Ali G 9. Little Britain 10. Michael Moore 11. Friends 12. Mr. Bean 13. League of Gentlemen 14. Charlie Chaplin 15. 秋学期授業のまとめ ※順番が変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		※ 提出物（レポート） 70%、授業での発言等 30% ※ 遅刻 3 回（30分以内）で 1 回の欠席とみなします。欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。	

09 年度以降	シネマ英語	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本授業の目的は、映画の中の英語表現を理解するだけでなく、映画の中で描かれる海外の文化、歴史、思想、考え方を理解することである。本授業は、単なる楽しみとしての映画鑑賞の授業でも、映画の感想を言い合う授業でもないので注意してほしい。 講義概要 授業は予習を前提とし、ワークショップと講義をする。映画を指定するので、予習として、1) 最低2回は指定映画を観て、台詞だけにとらわれず、映像の中の文化の描かれ方まで観察してくること、2) 映画の背景を調べてくること。本授業では3本の映画を扱う予定であるが、学生の学習熟度、授業状況、学生の関心事項に応じて、扱う映画や授業進度を変更することがある。		1. 授業概要（必ず出席すること） 2. 映画 1-1 3. 映画 1-2 4. 映画 1-3 5. 映画 1-4 6. 映画 2-1 7. 映画 2-2 8. 映画 2-3 9. 映画 2-4 10. 映画 3-1 11. 映画 3-2 12. 映画 3-3 13. 映画 3-4 14. 映画 3-5 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：なし		授業貢献度（30%）、期末レポート（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	シネマ英語	担当者	田村 斉敏
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、映画『ノッティング・ヒルの恋人』を題材に、映画を皆で「読む」体験をしたいと思っています。同映画は 1999 年に公開されたアメリカ映画ですが、舞台はイギリスのロンドン西部にあるノッティグ・ヒルで、冴えない書店主をヒュー・グラントが、ハリウッドの大女優をジュリア・ロバーツが演じ、現在でも人気の高いロマンティック・コメディです。 本作では設定どおり、イギリス英語とアメリカ英語が交互に登場します。イギリス英語にあまりなじみのない方にも、教科書や、他の題材をつかって親しめるように配慮します。 授業は、毎回映画を少しずつ見ながら、個別のエクササイズのほか、グループワークを多用して意見を交換しながら進めていきます。また映画の様々な側面に関して感想を英語で書いてもらいますので、積極的な参加を求めたいと思います。 なお、時間が許せば後半に少し別の映画ないしドラマなどを見るかもしれません。		1. イントロダクション（映画前半を見る） 2. イントロダクション（映画後半を見る） 3. Unit 1 William's Notting Hill & 'She' 4. Unit 2 Surreal, But Nice 5. Unit 3 A Goddess Is A Movie Star 6. Unit 4 Birthday Party 7. Unit 5 A Date with Anna 8. Interlude: ここまでの感想まとめ 9. Unit 6 She's Gone 10. Unit 7 She's Back 11. Unit 8 Rude Awakening—Ain't No Sunshine 12. Unit 9 Like Me Again 13. Unit 10 The Right Decision—The Meaning of My Life Is She 14. まとめ 1 15. まとめ 2 ※授業の進度によって一部変更の可能性あり	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richard Curtis 著、神谷久美子／Kim R. Kanel 編『Notting Hill/映画総合教材「ノッティング・ヒルの恋人」』 その他参考文献は授業中に指示。		授業中の参加、発表、課題を重視します（50％）。最後に課題レポートを課しますので、それによって残る 50％の評価を行います。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関する複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関する基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識の習得を目指す。 講義では、まずツーリズムに関する基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。		1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、近代ツーリズム前史 4、近代ツーリズムの成立と交通・宿泊業 5、近代ツーリズムの成立と旅行業 6、近代ツーリズムの成立とメディア 7、ツーリストの諸分類 8、ツーリストのパラドクス 9、観光対象と観光資源①：観光地の成立 10、観光対象と観光資源②：風景へのまなざし 11、ツーリズムと地域社会①：経済効果 12、ツーリズムと地域社会②：社会的・文化的効果 13、ツーリズムと政策①：観光地計画 14、ツーリズムと政策②：訪日外国人旅行者 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前田勇編著『現代観光総論（第4版）』学文社 岡本伸之編『観光学入門』有斐閣		授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%	

09 年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
W・ディズニー映画「カリブの海賊」シリーズを鑑賞しながら、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。 毎回の授業では前半に、ディズニー映画、ノンフィクション映画、もしくはアメリカ CNN やイギリス BBC の国際ニュースを取り上げます。 また毎回の授業では後半に、テキストを参照しながらツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。 16～18 世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか——その謎を解きます。 （注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済の場合は履修不可とします。		1 ディズニー映画「カリブの海賊 <呪われた海賊たち>」鑑賞・解説 2 ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞・解説 3 英雄としての海賊 4 同上 5 映画「エリザベス<ゴールデン・エイジ>」女王と側近ウォルシンガム、ローリー 6 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割 7 まとめ 8 スパイス争奪戦——海賊の「東インド会社」 9 同上 10 映画「カリブの海賊<ワールド・エンド>」シンガポール、「東インド貿易会社」 11 コーヒーから「午後の紅茶」へ 12 同上 13 甘いクスリ<砂糖>の登場 14 映画「カリブの海賊 <生命の泉>」鑑賞 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の 3 点セットです。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をとまなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げながら、ツーリズムと文化の動態的な関係について考察する視座を得ることを目的とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげものの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。		1、ガイドンス 2、モノの移動・消費とツーリズム 3、観光みやげとは 4、観光みやげからみる近代 5、「民芸品」へのまなざし 6、観光みやげとオーセンティシティ 7、贈与交換としての観光みやげ 8、観光みやげの倒錯性 9、旅するマトリョーシカ 10、アジア雑貨観光の成立① 11、アジア雑貨観光の成立② 12、日本の観光地におけるアジア雑貨 13、観光みやげと伝統文化のマーケティング 14、観光みやげと文化的アイデンティティ 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%	

09 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ツーリズムの発展は、旅行に関する諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、実際の現場の事例をもとに、ツーリズム産業の特徴と構造について理解を深めることを目指す。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を集中的に取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題とそれに対する取り組みを紹介する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。		1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境①：旅行業界 6、ツーリズム産業の競争環境②：宿泊・航空業界 7、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 8、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 9、パッケージツアー③：商品企画のマネジメント 10、ディズニー化論からみた観光①：空間の管理 11、ディズニー化論からみた観光②：ハイブリッド消費 12、ディズニー化論からみた観光③：感情労働 13、ツーリズム産業の将来 14、ツーリズムの終焉？ 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。 講義概要： オリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。		1. オリエンテーション 2. 国際会議・イベントの意義・役割とは？① 3. 国際会議・イベントの意義・役割とは？② 4. 国際会議・イベントの歴史 5. 祭り・フェスティバルと地域活性化 6. (ディスカッション) テーマ：イベント(各種イベント、大学祭等)の意義と役割 7. イベントを成功に導く秘訣とは？ 8. 国際会議・イベントの仕組みと実務 9. MICEとツーリズム 10. スポーツイベントについて 11. オリンピックの歴史・意義・役割について 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		・受講姿勢、小テスト、講義参画：70% ・プレゼンテーションとレポート：30%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。我が国は戦後主にモノづくり産業が牽引してきたことからツーリズム政策が必ずしも充分ではなかった。このような経緯も踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： ツーリズムは単にレジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。		1. オリエンテーション 2. 世界の動き、日本の動き（東京オリンピック等） 3. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的①（観光立国など） 4. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など） 5. ツーリズム政策の変遷（鎖国時代から現代の“クールジャパン政策”まで） 6. ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等） 7. ディスカッション：ツーリズム政策について 8. 世界のツーリズム政策①（スイス、フランス等） 9. 世界のツーリズム政策②（シンガポール等） 10. 多様なツーリズム政策（世界遺産、地域振興策、グリーンツーリズム、メディカルツーリズムなど） 11. ツーリズムとキャリアデザイン 12～14. 新しいツーリズム政策についてのプレゼンテーション、ディスカッション 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、小テスト、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業と宿泊業（ホテル、旅館など）の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。さらに、旅行・宿泊産業のマーケティングを学習する。最後の「プレゼンテーション＋ディスカッション」では、旅行・宿泊産業への提案を各自パワーポイントを使って行い受講生全員でディスカッションを行う。		1. オリエンテーション 2. 旅行産業の歴史（トーマスクックの時代から） 3. 旅行産業の現状と課題 4. 旅行産業のビジネス概要と将来 5. 宿泊産業の概要（ホテルと旅館の違いなど） 6. ホテル経営（所有と運営の分離） 7. 旅行・宿泊産業における会計 8. リゾートホテル・ビジネス 9. 旅行・宿泊産業のマーケティング① 10. 旅行・宿泊産業のマーケティング② 11. 旅行・宿泊産業のマーケティング③ 12. プレゼンテーション＋ディスカッション① 13. プレゼンテーション＋ディスカッション② 14. プレゼンテーション＋ディスカッション③ 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09 年度以降	航空産業論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。		1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港、および国際航空法 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社） （注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。		ディスカッションなど講義参画：30% 最終試験：70%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	地域開発論 市民参加のまちづくり論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
地域開発論では、人づくり、開発にかかわる人々のコミュニケーションといったミクロの視点から、地域の開発を考えます。日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 地域づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「住民の参加」が望ましいのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでの NGO 活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域とは何か、発展とは何か 3. 住民参加の意義と多義性 4. 事例研究：参加型開発 ※教室ワークショップ 5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7. 内発的発展と外来型開発 8. 共益から公益の創出へ：NY と東京の事例 9. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 12. ソーシャル・キャピタル 13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定） 14. まとめ：地域開発と社会の持続可能性 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください		期末試験 (80%)、学期中課題 (20%)、授業内活動参加 (+α)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米イヌイットの事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として - まとめ （なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		- 趣旨説明 - グローバリゼーションの民族誌 1 - グローバリゼーションの民族誌 2 - 観光の誕生 - ビデオ上映 - 表象の政治学—情報資本主義と観光 - メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 - 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 - 文化装置としてのホテル - 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 - セックス・ツーリズム—タイの事例 - 少数民族と観光—タイの事例 - 文化の著作権と「サンタクロース民族」 - ダーク・ツーリズムの現状と可能性—広島および西アフリカの事例から - まとめ (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降 09～12 年度	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） ツーリズム地誌論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における 1 泊 3 日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。 リトルワールドには、22 カ国、33 の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから 1 つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末にミニ・エスノグラフィを作成する。 本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。		- 趣旨説明・グループ分け - 講義(3 回) 文化の収集と展示の歴史、芸術=文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。 - 発表・議論（4 回） 各グループによる、研究計画・中間報告。 - 研修旅行 11 月 15 日(土)、16 日(日)に実施予定（出発は 14 日(金)の夜行バス）であるが、詳細は初回の授業で説明する。費用は往路夜行バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで 2.5 万円程度（飲食費は除く）。 - 発表・議論（7 回） 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果発表。	
テキスト、参考文献		評価方法	
山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業は、「東京」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。 具体的には、1. 文化人類学、社会学、地理学、歴史学、都市計画など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を参考にしながら、2. 東京の街を縦横無尽に歩きまわった上で、東京という都市の成り立ちや人々の生の営みについて理解を深めることを目指す。 受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した5～6つのコースを1～2つ選択し、5月から6月の週末に一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの成果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。 本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。 なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。		- 趣旨説明・グループ分け - 各町歩きコースに関する講義・解説（6～7回） - 山の手と下町 - 城北地区（本郷、上野、浅草） - 城南地区（赤坂、六本木） - ウォーターフロント - 深川、佃、月島 「おばあちゃん原宿」 - 巣鴨 - 繁華街の過去・現在・未来 - 渋谷 - エスニック・タウン - 新宿、新大久保 - ジブリ映画の舞台ニュータウン - 多摩ニュータウン - 各グループの発表・議論(6～7回) - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。		授業での発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	インターンシップ	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： インターンシップを通して、自らの専攻、キャリアデザインに関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や実社会の理解、さらに自己の職業への適応力等を学習する。 講義概要： 事前学習の１２回の講義と、夏期休暇中の実習、９月に実施する事後学習（報告会）で構成されている。 事前学習は、インターンシップの意義を理解し効果的に実習が受けられることを目指している。報告会では、実施報告書、日誌などに基づき、実習で学んだことに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。報告会でのプレゼンテーションを通して実習で得た経験、情報を全員で共有する。		１．オリエンテーション ２．インターンシップの実際 ３．ツーリズム関連産業で働くということ ４．企業としてのエコツーリズム業界 ５．企業としての宿泊業界 ６．企業としての航空業界 ７．企業としての旅行業界 ８．公的機関としての政府観光局業務 ９．マナー講座 １０．インターンシップ実習前の心得① １１． " ② １２． " ③ —夏期休暇中の実習—（２～４週間） １３．報告会 １４．報告会 １５．報告会と“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		講義への参画、実施報告書、日誌、報告会での発表などから総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 09～12年度	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） ツーリズム・メディア論	担当者	倉澤 治雄
講義目的、講義概要		授業計画	
「ツーリズム」と「メディア」、それに「国際社会」をつなぐ仕組みについて、具体例に徹して考察し、理解することを目的とする。 講義ではまず新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、それにインターネットなどのメディアとして特徴や役割、それに歴史について解説。 またジャーナリズムについても「公正の原則」など、基本的な考え方を紹介、現実の記事やニュースにどのように生かされているか検証する。 一方、「ツーリズム」と「メディア」の関係を、「集客のツール」としての視点ではなく、「表現の世界」まで踏み込んで考える。 「ツーリズム・メディア」が現実の国際関係、経済、芸術、歴史、文化にどのような影響を与えるか、また影響を受けるか考察する。 「ツーリズム・メディア論」は極めて学際的な概念であり、「論」として成立途上にある。 講義では「自分で考えること」を重視し、学生の皆さんに「独創性」を発揮してもらうよう、特定の教科書を使わず、新聞・雑誌記事やビデオ素材を活用して、「目」を磨いてもらう。 なお毎回授業の最後に「レジュメ」作成の実践を行う。		1. 講義全体の概要 2. メディアの現状と課題 3. ジャーナリズム論 4. 産業としてのメディア・コンテンツ業界 5. ツーリズムの基礎的概念 6. 「ツーリズム」と「メディア」の歴史的関係 7. 東日本大震災とダークツーリズム 8. 「国際関係」と「ツーリズム・メディア」 9. 未開発の観光資源をめぐって 10. メディアの中の「ツーリズム」 11. アートの源泉～「ツーリズム芸術論」 12. 地域活性化と「ツーリズム・メディア」 13. キュレーションの時代 14. 「世界遺産」「メディア」そして「ツーリズム」 15. 波乱の時代を生き抜くために 戦争、紛争、貧困、テロ、格差、偏見、抑圧、環境破壊、高齢化、幸福の喪失、富の偏在など、人類共通の課題を解決するために何をしなければならないか、考える。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。適宜参考文献を紹介する。		期末定期試験 50% 毎回行うレジュメ作成 50%	

09 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
「トランスナショナル文化論」の目的は、トランスナショナルな人の移動と文化の変容について、現代世界に見られるさまざまな問題(issues)を手掛かりに考えていくことです。この授業では特に「人の移動（移住労働者、移民、難民）」に焦点を当てます。 教科書は2010年にイギリスで発行されたものです。「アトラス」と名がついているところから分かるように、(各種の統計データから作られた)地図帳であり、眺めているだけでも世界のいろいろなことが分かってきます。洋書なので少し値がはりますが、DUOで購入してください。万一、部数が足りない場合は、アマゾン等で、各自、手配してもらうことになります。		1. Jewish & other diasporas 36-7 2. Palestinian diaspora 3. Palestine today 4. Introduction 5. Slave Migrations 24-7 Migrations of Indenture 6. The Great Migration 28-33 7. Global Migration 38-47 8. Global Migration 47-59 9. Internal Migration 42,54 10. Refugees 60-71 11. Refugees II 12. Refugees in Japan 13. Irregular Migration 74-7 14. Migration & Integration 92-101 15. Catch up & Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
King, Russell, et.al., <i>The Atlas of Human Migration: Global Patterns of People on the Move</i> (London: Earthscan, 2010)		学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	倉澤 治雄
講義目的、講義概要		授業計画	
「新聞やテレビは真実を伝えているのか」、「海外のメディアはどのように伝えているのか」、誰もが疑問に思っている。 事実、福島第一原発事故ではアメリカ軍から提供された汚染情報が政府に握りつぶされたため、住民の被害は拡大した。福島では地震・津波による被害者の数より、災害による避難等によるいわゆる「災害関連死」が上回った。 講義では、まず日本および各国のメディアの状況および「メディアと社会の関係」を概観する。 また、「公正の原則」「取材源の秘匿」「スポンサーとの関係」など、「ジャーナリズム」の基本原則について、英語の文献を含めて解説する。 その上で個別事例について、ニュースの伝え方がどのように内外で異なるか検証し、私たちが「真実」をつかむために何をしなければならないか考える。		1. 授業全体の概要 2. ネット時代のマスメディアの興亡 産業としてのメディアの構造変化 3. メディアの歴史 メディアが果たしてきた役割 4. ジャーナリズムの諸原則～「公正の原則」 CBS ニューススタンダードから抜粋 5. ジャーナリズムの諸原則～「スポンサーとの関係」 6. ジャーナリズムの諸原則～「記者の倫理」「取材源の秘匿」 7. 「秘密保護法」とジャーナリズム 8. 米国ネットメディアの視点 米国ではなぜネットメディアが成立したのか? 9. 中国のメディア規制と「日中関係」 メディアと国際関係の典型例を見る 10. 海外メディアは「原発事故」をどう伝えたか? 11. 日本のジャーナリズムの現状と課題 12. メディアと国際関係 13. スポーツジャーナリズムの光と影 14. メディア・ジャーナリズム教育をめぐって 15. 情報化時代を生き抜くために 「情報の目利き」を目指して!	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は使わない。適宜映像素材、新聞記事などを配布。		期末定期試験 毎回行う演習	50% 50%

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
(歴史、戦争、記憶) 歴史、特に戦争の歴史がどのように表象され、記憶されてきたかを批判的に検証する。ミュージアムの展示や記念碑などが中心になるが、映画などのポピュラー・カルチャーにも言及する。 題材としては、John Ford監督『駅馬車』、ゴーストダンス・シャツの返還、スミソニアン・アメリカ美術博物館での『ウエスト・アズ・アメリカ』展(1991)、ワシントンDCのヴェトナム戦争記念碑、ヨーロッパにおけるホローコースト記念碑、スミソニアン・航空宇宙博物館で開催予定だった『エノラ・ゲイ』展(1995)、日本における戦争の展示、エイズ・キルト・プロジェクトなどを取り上げる予定。 英語の論文もいくつか読んでもらうので、覚悟して受講して欲しい。また、受講者には積極的な授業への参加が期待されている。		1 西部開拓という神話 2 西部開拓という神話 3 西部開拓という神話 4 ホローコーストの記憶 5 ホローコーストの記憶 6 ホローコーストの記憶 7 エノラ・ゲイの展示 8 エノラ・ゲイの展示 9 ヴェトナム戦争の記憶 10 ヴェトナム戦争の記憶 11 ヴェトナム戦争の記憶 12 日本における戦争の展示 13 日本における戦争の展示 14 日本における戦争の展示 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原帰一『戦争を記憶する——広島・ホローコーストと現在』(講談社現代新書)、その他、論文の抜粋などは、講義支援システムを使って配布する。		学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	開発文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉の時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』		1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（70%）、学期中課題（30%）、授業貢献（+α）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実</u>際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。 21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス・鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、授業内活動参加（+α）。	

09 年度以降	食の文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナルリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）、授業内活動参加は＋α。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13年度以降 09～12年度	トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究） パフォーマンス研究	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
導入部分でパフォーマンス・アートについて触れるが、講義の主目的はミュージアムを中心とした展示をパフォーマンスとして分析することにある。 授業は主にテキストに沿って進めていくが、テキスト以外にも英語の論文をいくつか読んでもらうので、受講には、それなりの覚悟が必要である。また、受講者には積極的な授業への参加が期待されている。 テキストは100部をDUOに発注の予定。売切れの場合にはアマゾン等を使って、各自、購入して欲しい。 内容的には春学期の「表象文化論」と繋がるので、続けて受講することを勧めるが、こちらだけの受講も可。		1. What is performance? 2. Performance Art (1) 3. Performance Art (2) 4. Museum as Performance 5. From Display to Experience (1) 6. From Display to Experience (2) 7. From Display to Experience (3) 8. From Display to Experience (4) 9. Seattle EMP Museum 10. Holocaust Museums (1) 11. Holocaust Museums (2) 12. Native American Voices (1) 13. Native American Voices (2) 14. Elizabeth Crooke, "Museums, Communities and the Politics of Heritage in Northern Ireland" 15. Wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Susan Bennett, <i>Theatre and Museums</i> (Palgrave, 2013) その他、論文の抜粋などは、講義支援システムを使って配布する。		学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義（トランスナショナルな公共圏を求めて）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
実習・ワークショップ型の授業で、いくつかのプロジェクトを学生主体で準備・完成させる。2015 年 6 月開催予定の「草加国際村一番地・インターナショナル・フェスティバル」に参加し、プロジェクトの成果を発表する。したがって、授業時間以外、また秋学期終了後も来年 6 月までは、放課後、土日などを利用して活動が続くことを了承した上で授業登録をして欲しい。なお、授業定員は 30 名である。 過去 30 年の間に、日本に中長期滞在する外国人の数は約 200 万人、人口の 2% 近くまで増加した。しかし、言語、宗教など、文化的背景を異にする人たちにとって日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえない。「多文化共生」や「文化多様性」が叫ばれる一方で、「均一性」が重んじられ、国籍や民族性を理由に「他者」が排除される傾向はいまだに強い。 国境を越えて人が移動し文化が変容していく時代に、「トランスナショナルな公共圏」はいかにして構築することが可能か。英語・日本語で書かれた先行研究をディスカッションする「理論」と、教室の外に出てプロジェクトを立ち上げる「実践」の両方を射程に入れた野心的な授業だが、受講生の熱意によってスリリングでエキサイティングで、かつ実り多いものになることは間違いない。		1. イントロダクション 2. 講義・グループワーク・発表・ディスカッションの組み合わせ 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ (授業時間以外にも、放課後、土日などにフィールドワーク、プロジェクト準備などで集まってもらうことがある。また、2015 年 6 月の国際村参加のため、秋学期の授業終了後も活動に参加することが求められる。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
渡戸・井沢編『多民族化社会・日本』（明石書店、2010） 他のテキスト、参考文献は教室で指示する。		学期末レポートと国際村へ向けたプロジェクトの内容で評価する。授業時間外を含め、プロジェクトに積極的に取り組むことが単位認定の前提となる。	

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。 公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ、イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。後半はアメリカ社会のマルチ・エスニックな成り立ちを映像ソフトをみながら解説してゆく。		1. パレスチナは独立国家たりうるのか 2. アメリカはなぜ公平な仲介者となりえないのか 3. イスラエル国防軍を掌握する宗教シオニスト 4. 在米キリスト教徒のシオニスト 5. イスラエル・ロビーの番付表 6. 最強のイスラエル・ロビーとは 7. 弟分、在欧イスラエル・ロビー 8. アラブ・ロビーはなぜ脆弱なのか 9. アメリカ先住民 10. 越境するヒスパニック 11. アメリカの黒人問題 12. 反ユダヤ主義 13. アジア系移民 14. ホワイト・エスニック 15. 異人種間結婚	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』(仮題) 日新報道、14 年 3 月刊行予定、1500 円位 佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』NTT 選書、1600 円		20 問 8 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可	

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.		1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be handed out in class.		Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence.	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術 I)	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. プッサン 3. ワトー 4. シャルダン 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクローワ 8. クールベ 9. ドーミエ 10. ミレー 11. マネ 12. 印象派-1 13. 印象派-2 14. <開催中の展覧会から：ヴァロトン> 15. <開催中の展覧会から：デュフィ>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行っても書いてもらいます。）	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術 II)	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 印象派以降、20 世紀初頭までのフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. <開催中の展覧会から：オルセー美術館展> 2. 印象派-1 3. 印象派-2 4. 印象派-3 5. セザンヌ 6. スーラ 7. ルドン 8. ゴッガン 9. ゴッホ 10. ジャポニスム 11. トゥールーズ=ロートレック 12. エコール・ド・パリ 13. マティス 14. アンリ・ルソー 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行っても書いてもらいます。）	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 a)	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。 子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶものではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。 そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語、フランス語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的関係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。 皆さんには積極的に発音をしてもらい、互いに発音を聞き合いながら、そして意見交換をしながら、講義を進めていこうと考えています。皆さんの積極的に参加をする授業をしたいと考えています。		1. ドイツ語とはどういう言語か 2. ドイツ語の音と文字 (母音) 3. ドイツ語の音と文字 (母音) 4. ドイツ語の音と文字 (子音) 5. ドイツ語の音と文字 (子音) 6. ドイツ語の発音 (日本語とドイツ語) 7. ドイツ語の発音 (英語とドイツ語) 8. ドイツ語の発音 (イントネーション) 9. ドイツ語の発音 (アクセント) 10. 復習とまとめ 11. ドイツ語の歴史概観 (1) 12. ドイツ語の歴史外観 (2) 13. ヨーロッパの中のドイツ語 14. ラテン語、フランス語とドイツ語 15. 英語、オランダ語とドイツ語 (これは予定であり、内容の変更もあり得ます)	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. I.Albrecht, U. Hirschfeld, Y.Kakinuma: Einführung in die deutsche Phonetik 獨協大学外国語教育研究所 2007 年 2. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 b)	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいでしょうか。 その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。 このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただいて、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。 どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。		1. ドイツ語の文字の成立と発展 2. 疑問に答える (1) 辞書について 3. 疑問に答える (2) 文法について 4. 標準ドイツ語の成立と正書法 5. ドイツ語の標準発音と方言 6. ドイツ語の標準発音と方言 7. 外国語とドイツ語 (1) 8. 外国語とドイツ語 (2) 9. ドイツ語の地名 10. ドイツ語の人名 11. 探求するところ (1) ドイツ語の調査・研究 12. 探求するところ (2) ドイツ語の調査・研究 13. 日本語とドイツ語の言語表現 14. 日本語とドイツ語の言語表現 15. 復習とまとめ (これは予定であり、内容の変更もあり得ます)	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004 年 2. 風間喜代蔵『言語学の誕生』岩波書店		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽 I)	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代思潮の変化とともに音楽表現の美意識がどのように変わっていくのか、時代を追って見ていきます。それによって現代の状況を考え、理解することが目的です。 春学期はまずオペラを採り上げ、そこに描かれる人間模様がどのように音楽で表現されていくかを年代順に見ていきます。 次に主に19世紀後半のヨーロッパ周辺国に焦点を当てて、音楽表現の広がりを確認します。 できるだけ作品を聴き、映像を活用しながら進めます。		1. ガイダンス 2. オペラ 1 : その始まり 3. オペラ 2 : 古典派 (1) 4. オペラ 3 : 古典派 (2) 5. オペラ 4 : ロマン派 (1 : ドイツ) 6. オペラ 5 : ロマン派 (2 : イタリア) 7. オペラ 6 : ロマン派 (3 : フランス) 8. オペラ 7 : ロマン派 (4 : フランス) 9. ヨーロッパ周辺国の音楽 1 : ロシア (1) 10. ヨーロッパ周辺国の音楽 2 : ロシア (2) 11. ヨーロッパ周辺国の音楽 3 : ロシア (3) 12. ヨーロッパ周辺国の音楽 4 : 北欧 13. ヨーロッパ周辺国の音楽 5 : スペイン 14. ヨーロッパ周辺国の音楽 6 : ハンガリー 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布 参考文献：授業時に紹介		2 回の試験の平均点 (80%) と授業時の課題 (20%)	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽 II)	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代思潮の変化とともに音楽表現の美意識がどのように変わっていくのか、時代を追って見ていきます。それによって現代の状況を考え、理解することが目的です。 秋学期は、フランス音楽との比較という意味で、ドイツ・ロマン派のあとに新しい音楽体系をつくり上げたオーストリアのシェーンベルクから始めます。その後は 20 世紀前半のフランスに焦点をしばらく主要な作曲家を細かく見ていきます。 できるだけ作品を聴き、楽譜なども活用しながら進めます。		1. ガイダンス 2. シェーンベルクの表現主義 1 3. シェーンベルクの表現主義 2 4. サティ 1 5. サティ 2 6. 六人組 1 : オネゲル (1) 7. 六人組 2 : オネゲル (2) 8. 六人組 3 : ミヨー (1) 9. 六人組 4 : ミヨー (2) 10. 六人組 5 : プーランク (1) 11. 六人組 6 : プーランク (2) 12. メシアン 1 13. メシアン 2 14. プーレーズ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布 参考文献：授業時に紹介		2 回の試験の平均点 (80%) と授業時の課題 (20%)	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 a)	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期では、「文学」って何?という問題から授業を始めます。 「読書感想文」を書かされて辟易(へきエキ)しませんでしたか? 「国語」の入試で小説などの解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか? 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか? こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、「文学」(そして文学研究)という問題を考えます。 また、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を出発点にして、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えてみましょう。 また、文学と思想(哲学・宗教など)のつながりも、必要に応じて考えていきます。他学部・科学科の受講もOKです。		詳しくは第1回授業で説明します。 1. 導入 2. 文学ははじめの一步(グリム・メルヒェン) 1 3. 同 2 4. 同 3 5. 「文学」とは何か? 6. 文学の基本ジャンル 7. 文学研究の意味 読めばわかるのになぜ? 8. 文学と思想 9. 作者とは? 作者の死? 10. 読者とは? 「読む」だけ? 11. 本とは? 本はなくなる? 12. 翻訳の諸問題 13. 明治期の翻訳 14. 春学期のまとめ 15. 授業内試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例: 手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。		毎回の授業レポート 30% (4回以上の欠席は評価の対象としません)、6月に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 50%によります。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 b)	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では、主にドイツ文学と思想のアウトライン(歴史)を知ること为目标とします。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか? 18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想(哲学・宗教など)が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。 授業では、扱う作品を知らなくてもわかるように話しますが、作品を読んでから聞くと、作品および講義内容をよりよく理解でき、より興味を持つことができます。扱う予定の作品をできるかぎり読むようにしてください。 他学部・科学科の受講も OK です。		詳しくは第1回の授業で説明します。 1. 導入 2. 近代的な恋愛のはじまり(ゲーテ『ウェルテル』) 3. 感情の実験詩、シラー「歓喜に寄せて」 4. 苦悩する近代人 ゲーテ『ファウスト』 5. 1770年 ベートーベン、ヘーゲル、ヘルダーリン 6. ロマン派というアヴァンギャルド(前衛派) 7. シャミッソー『影をなくした男』を読む 8. 文学が文学だった頃(19世紀リアリズムの時代)(ビュヒナー『ヴォイツェク』) 9. 19世紀後半からの児童少年文学(『もじゃもじゃペーター』『ハイディ』など) 10. イタリアへのあこがれ(T・マン『ヴェニスに死す』) 11. 新しい世界との遭遇(20世紀前半)(カフカ『変身』) 12. 明るく楽しくナチス批判?!(ケストナー『エーミールと探偵たち』) 13. 過去の克服? 現代ドイツ文学(シュリンク『朗読者』) 14. 秋学期のまとめ 15. 授業内試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例: H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉, 安川訳, 同学社, 2008年 テキストはコピーを配布し、文献はその都度紹介します。		毎回の授業レポート 30% (4回以上の欠席は評価の対象としません)、12月に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 50%によります。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏芸術・文化概論 a)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ルネサンス・宗教改革期 3 同上 4 同上 5 三十年戦争・バロック期 6 同上 7 同上 8 啓蒙主義時代 9 同上 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 同上 14 グリムのメルヒェン 15 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび毎回の授業アンケートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏芸術・文化概論 b)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 同上 11 ナチズムと芸術 12 同上 13 現代へ：新たな芸術の展開 14 同上 15 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび毎回の授業アンケートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
スパイ映画 007 シリーズや、ツーリズム映画を鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。 例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国 ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーを相手に、ハッカーと戦う秘密情報機関のエージェント（ID 番号が 007）が描かれています。国家機密を暴露する事件は実際に米国で発生しており、世界が直面する現実の問題です。 映画 007 シリーズは、1960 年代にリリースされて以来、「いま」にいたる 50 年間で時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 ツーリズム映画では、世界的なブランドが登場します。世界のブランドが生まれた 18 世紀から 20 世紀前半を、ツーリズム映画の中で発見します。 映画「タイタニック」では、高級バッグ「ルイ・ヴィトン」が登場しますが、すでに 20 世紀初頭に富裕層のステータス・シンボルでした。		1 スパイ映画 007 から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説 2 同上 3 スパイ映画 007—1990 年代の世界 4 スパイ映画 007—1980 年代の世界 5 同上 6 スパイ映画 007—1970 年代の世界 7 スパイ映画 007—1960 年代の世界 8 スパイ映画 007—1950 年代の世界 9 まとめ 10 ツーリズム映画「タイタニック」鑑賞と解説 11 同上（旅行バッグ「ルイ・ヴィトン」、大型豪華クルーズ船の登場） 12 ツーリズム映画「80 日間世界一周」 13 同上（旅行エージェント「トマスクック」、「ロイズ」保険、アフタヌーンティー） 14 同上 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の 3 点セットです。	

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
スパイ映画 007 シリーズや、ツーリズム映画を鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。 例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国 ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーを相手に、ハッカーと戦う秘密情報機関のエージェント（ID 番号が 007）が描かれています。国家機密を暴露する事件は実際に米国で発生しており、世界が直面する現実の問題です。 映画 007 シリーズは、1960 年代にリリースされて以来、「いま」にいたる 50 年間で時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 ツーリズム映画では、世界的なブランドが登場します。世界のブランドが生まれた 18 世紀から 20 世紀前半を、ツーリズム映画の中で発見します。 映画「タイタニック」では、高級バッグ「ルイ・ヴィトン」が登場しますが、すでに 20 世紀初頭に富裕層のステータス・シンボルでした。		1 スパイ映画 007 から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説 2 同上 3 スパイ映画 007—1990 年代の世界 4 スパイ映画 007—1980 年代の世界 5 同上 6 スパイ映画 007—1970 年代の世界 7 スパイ映画 007—1960 年代の世界 8 スパイ映画 007—1950 年代の世界 9 まとめ 10 ツーリズム映画「タイタニック」鑑賞と解説 11 同上（旅行バッグ「ルイ・ヴィトン」、大型豪華クルーズ船の登場） 12 ツーリズム映画「80 日間世界一周」 13 同上（旅行エージェント「トマスクック」、「ロイズ」保険、アフタヌーンティー） 14 同上 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の 3 点セットです。	

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自国際問題を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週の国際問題」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。		1 はじめに 2 行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3 行為主体（2）国際組織、NGO、多国籍企業 4 行為主体（3）世界政府は必要か？可能か？ 5 戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 6 戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 7 戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 8 国際機構：国際連盟、国際連合 9 地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 10 地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 11 グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12 グローバル・イシューズ（1）貧困 13 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14 グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配布する。		平常点（20%）、試験（80%）	

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自国際問題を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週の国際問題」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。		1 はじめに 2 行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3 行為主体（2）国際組織、NGO、多国籍企業 4 行為主体（3）世界政府は必要か？可能か？ 5 戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 6 戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 7 戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 8 国際機構：国際連盟、国際連合 9 地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 10 地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 11 グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12 グローバル・イシューズ（1）貧困 13 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14 グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配布する。		平常点（20%）、試験（80%）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	国際協力論	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した 2 つのトピックを取り上げます。 第 1 のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。 第 2 のトピックは、現代の海賊（パイレーツ）問題です。インド洋や東南アジアに出没するパイレーツに注目します。世界の商船やクルーズ船に脅威を与えるパイレーツ問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。		1 オリエンテーション 2 オーストラリアは、どんな国 <国際協力のテーマ> 3 国境を越える（移民の受け入れ） 4 国境を越える（移民の受け入れ） 5 国境を越える（難民の受け入れ） 6 国境を越える（難民の受け入れ） 7 地域紛争への協力 8 ニッチ外交 9 まとめ <現代の海賊問題を考える> 10 映画「キャプテン・フィリップス」鑑賞 11 現代のパイレーツ問題 12 同上 13 国際協力——パイレーツ対策 14 国際協力——パイレーツ対策 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書）、同『世界を動かす海賊』（ちくま新書）。		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の 3 点セットです。	

09 年度以降	国際開発論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、開発途上国における貧困およびそれを克服するための開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。 講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。 第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。 第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。		1. イントロダクション：開発と国際関係 <開発途上国の貧困> 2. 貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響 3. 歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治 4. 歴史的要因（3）：日本による植民地支配の功罪 5. 政治的要因（1）：民主主義と開発 6. 政治的要因（2）：開発独裁体制 7. 社会・文化的要因：インド・カースト制度 <開発途上国の開発とその実態> 8. 経済開発の方法とパターン 9. 高度経済成長の要因と弊害 10. 開発途上国にとってのグローバリゼーション 11. 中国経済発展の光と影（1） 発展の勢い 12. 中国経済発展の光と影（2） 弊害と矛盾 <グローバル化時代の国際開発> 13. 新産業開拓の展開（1）：ツーリズム関連産業 14. 新産業開拓の展開（2）：イスラム関連産業 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	国際交流論	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本の文化交流の中核を担う国際交流基金の活動を中心に、文化交流について論じます。 特に、国際交流基金活動の三本柱である、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の各分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。 分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察して行きます。 国際交流基金を取り巻く環境の変化が、文化交流にいかに関与しているかについても、検討します。		1. 講義の概要（日本の国際交流と国際交流基金） 2. 国際交流基金の歴史 3. 国際文化交流政策の変遷 4. 芸術交流 5. 芸術交流の実践 6. 芸術交流の実践（2） 7. 日本語教育 8. 日本語教育の実践 9. 日本研究 10. 日本研究の実践 11. 知的交流 12. 知的交流の実践 13. 知的交流の実践（2） 14. 国際交流基金環境と国際文化交流の実践 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		期末レポート 80%、授業への参加度・学期中の小レポート 20%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化、社会的ニーズの多様化、途上諸国の多極化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。 本講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。 第2の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。 第3の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助の実態と課題について検討します。		1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO <開発援助の仕組みと展開> 2. ODA の仕組みとトレンド 3. 日本の ODA の特徴 4. 日本の援助実績 5. 開発援助の問題点 6. ODA の課題と改革 <NGO の役割と課題> 7. 国際援助の新たなテーマと NGO 8. NGO の定義と歴史的経緯 9. NGO の機能と途上国での役割 10. 開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ <日本の NGO> 11. 市民活動の歴史と国際協力 NGO 12. 国際協力 NGO の実態と課題 <国際協力の新たなテーマとその実態> 13. マイクロクレジットという方法 14. ジェンダー問題と開発 15. 中国による「ODA」の特徴と問題点	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の結果（100%）を基に評価を行います。	

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結期まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪れ、また経済的にも繋がりが深い国でありながら、これまでオーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ない。また知りたいと思っても、日本では文献がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 そこで本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植してから6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係性の中で振り返って行く。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2～3回、小テストを実施する予定。		第1回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第2回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生 第3回：植民地オーストラリア②～植民地の発展 第4回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国の起源とその発展 第5回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英帝国から英連邦、コモンウェルスへ 第6回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第7回：多文化主義社会オーストラリア 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」 第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第12回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第13回：2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ 第14回：対日講和問題とオーストラリア 第15回：総括と質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。本講義では、戦後のアジア太平洋においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべき何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。		第1回：イントロダクション ～オーストラリア外交を見る眼 第2回：チフリー労働党政権の外交 ～新たな国際関係構築の模索 第3回：アンザス同盟の実現 第4回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第5回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第8回：講義前半の総括と質疑応答 第9回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第10回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第11回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第12回：ミドルパワー外交③核軍縮 第13回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第14回：日豪関係の歴史的展開～敵国から同盟国へ 第15回：21世紀オーストラリア外交の行方&質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

13 年度以降	グローバル・ヒストリーa	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」を国際関係史の観点から考察する。春semesterでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 （注意）なお、本講義は2013年度に水本が担当した「国際関係特殊講義a」の名称変更科目であるため、水本担当の「国際関係特殊講義a」の単位修得者は、本講義の履修登録はできませんのでご注意ください。		1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3 ヨーロッパ冷戦の起源 4 ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5 ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6 「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7 ヨーロッパ諸国の脱植民地化（アフリカ諸国の独立） 8 冷戦構造の多極化とデタント 9 米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10 デタントの崩壊：ソ連の第三世界進出 11 新冷戦とヨーロッパ 12 冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフの登場、東欧革命 13 冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14 冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配布する。		平常点（20%）、試験（80%）	

13 年度以降	グローバル・ヒストリーb	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」を国際関係史の観点から考察する。秋semesterでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 （注意）なお、本講義は2013年度に水本が担当した「国際関係特殊講義b」の名称変更科目であるため、水本担当の「国際関係特殊講義b」の単位修得者は、本講義の登録はできませんのでご注意ください。		1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3 大戦の終結と占領：日本の敗北、帝国の解体 4 朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5 脱植民地化（1）南アジア、東南アジア 6 脱植民地化（2）中東 7 非同盟・中立運動 8 アジア冷戦における中ソ対立の意義 9 ベトナム戦争 10 米中和解とその影響 11 1970年代の地域紛争：印パ戦争、第三次・第四次中東戦争、第三次インドシナ戦争 12 新冷戦とアジア 13 経済発展と民主化：ASEAN,経済成長、民主化 14 冷戦の終焉とアジア 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配布する。		平常点（20%）、試験（80%）	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を得続けている。 本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いる予定である。		第 1 回 オリエンテーション 第 2～4 回 歴史 第 5～7 回 国際支援の動向 第 8～9 回 紛争と平和構築 第 10 回 民主主義とガバナンス 第 11 回 食糧問題 第 12 回 地域協力 第 13 回 女性と人権 第 14 回 環境問題 第 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で参考文献を紹介する。		学期末試験による評価とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、日本にとって重要な地域（東南アジア）・国（中国、韓国、アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。 アメリカ、中国、韓国、東南アジアの、それぞれの現代史と特性、日本との関係史を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきます。 近年注目されている東アジア共同体の中核をなすべき「東アジア文化共同体」構想についての私論も展開します。		1. 講義の概要 2. 国際文化交流の歴史と政策の変遷 3. アメリカの特性 4. 日米関係の近現代史 5. 日米文化交流の実践 6. 中国の近現代史 7. 日中関係の近現代史 8. 日中文化交流の実践 9. 韓国の近現代史 10. 日韓関係の近現代史 11. 日韓文化交流の実践 12. 東南アジアの近現代史 13. 日本と東南アジアの関係史 14. 東南アジアとの文化交流の実践 15. 東アジア文化共同体（講義のまとめ）	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		期末レポート 80%、授業への参加度・学期中の小レポート 20%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義の目的は、20 世紀の国際関係の歴史を把握し、それを 21 世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会は限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。 本講義は二部構成となっている。第一部では 20 世紀という時代の特徴を考える。第二部では第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていく。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。また必要に応じて映像資料を用いる。2～3 回程度、出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。		第 1 回：イントロダクション～歴史を学ぶとは？ 第 2 回：20 世紀はどんな時代であったか① ～ナショナリズムの時代 第 3 回：20 世紀はどんな時代であったか② ～大量破壊兵器の時代 第 4 回：20 世紀はどんな時代であったか③ ～国際関係の多民族化・多文化化 第 5 回：20 世紀はどんな時代であったか④ ～資本主義経済のグローバル化 第 6 回：講義前半部分の総括、質疑応答 第 7 回：冷戦とは何であったのか① ～冷戦の起源をめぐる論争 第 8 回：冷戦とは何であったのか② ～冷戦とイデオロギーの役割 第 9 回：冷戦とは何であったのか③ ～戦後処理と国内政治 第 10 回：冷戦とは何であったのか④ ～冷戦時代の 6 つの特徴 第 11 回：冷戦の展開①～冷戦の開始 第 12 回：冷戦の展開②～冷戦の激化 第 13 回：冷戦の展開③～緊張緩和 第 14 回：冷戦の展開④～新冷戦と冷戦の終焉 第 15 回：講義全体の総括、質疑応答	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。		リアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
(Understanding International Relations) As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. <u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.		1. Introduction 2. What Is International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Evaluation will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 I)	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。		1. フランス政治史① 2. フランス政治史② 3. フランス政治史③ 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 議会 6. 官僚制 7. 政党システム① 8. 政党システム② 9. 政党システム③ 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小テスト（10%×2）＋期末テスト（80%）	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 II)	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。 2006 年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対 GDP 比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義ではまず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。 講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。		1. 講義目的と概要の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金① 5. 年金② 6. 中間まとめ 7. 医療保険① 8. 医療保険② 9. 高齢者介護 10. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 11. 最低所得保障（生活保護）① 12. 最低所得保障（生活保護）② 13. 家族政策（児童手当・保育サービス） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テスト（30%）＋期末テスト（70%）	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 I)	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムや経済の特徴について学ぶことは有益だと言えるだろう。本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、フランスの政治経済の変遷を歴史的に辿るとともに、現在の政治制度や経済の状況についても学ぶ。		1. 講義の概要 2. 第二帝政以前の政治 3. 第二帝政以前の経済 4. 第三共和制からヴィシー期の政治 5. 第三共和制からヴィシー期の経済 6. 第四共和制期の政治 7. 第四共和制期の経済 8. 第五共和制の成立と政治制度 9. ドゴールからポンピドゥーへ 10. ジスカールデスタン時代の政治経済 11. ミッテラン時代の政治経済 12. シラク時代の政治経済 13. 現在のフランスの政治経済(1) 14. 現在のフランスの政治経済(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 II)	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を果たしてきた。本講義では、第2次大戦以前から今日の EU に至るまでの過程において、ヨーロッパ統合という構想にフランスがどのように関わってきたかを学ぶ。		1. 講義の概要 2. 戦前の統合構想(1) 3. 戦前の統合構想(2) 4. 第2次大戦期の統合構想とフランス 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランと ECSC 7. 欧州防衛共同体構想とフランス 8. EEC の設立に向けて 9. ドゴールとヨーロッパ統合(1) 10. ドゴールとヨーロッパ統合(2) 11. 1970 年代のフランスと統合(1) 12. 1970 年代のフランスと統合(2) 13. ミッテラン時代の統合政策 14. EU 誕生から今日まで 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献：吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012 年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 a)	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的なものの見方への習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。		第 1 回： 年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 第 2 回： 歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第 3 回： 「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第 4 回： 「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア／日本 第 5 回： ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 第 6 回： ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 第 7 回： ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジアの時代 第 8 回： 19 世紀史(1)：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第 9 回： 19 世紀史(2)：1848 年革命 第 10 回： 19 世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第 11 回： 現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 第 12 回： 現代の開幕(2)：第一次世界大戦（原因） 第 13 回： 映像で見る第一次世界大戦 第 14 回： 現代の開幕(3)：第一次世界大戦（経過と帰結） 第 15 回： まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。 石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社 2007 年 増谷英樹／古田善文『図説 オーストリアの歴史』河出書房新社、2011 年		学期末に実施する筆記試験および平常点に基づいて決定する	

09 年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 b)	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は 20 世紀および 21 世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的なものの見方への習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、(1)ドイツ革命とワイマール共和国、(2)ヒトラーの独裁体制、(3)第二次世界大戦、(4)戦後ドイツの歩み、を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。		第 1 回： 革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第 2 回： ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第 3 回： ファシズムの誕生(1)：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第 4 回： ファシズムの誕生(2)：ナチス運動の誕生 第 5 回： 危機の30年代 (1)：民主政治システムの崩壊 第 6 回： 危機の30年代 (2)：戦間期の国際政治 第 7 回： ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第 8 回： 受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 第 9 回： 受容と抵抗(2)：反ナチス抵抗運動の諸相 第10回： 第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 第 11 回： 第二次世界大戦(2)：大戦の経過と帰結 第 12 回： 連合国によるドイツ占領改革 第 13 回： 東西ドイツの成立から「ベルリンの壁」建設 第 14 回： 「新東方外交」からドイツ統一まで 第 15 回： 21 世紀のドイツ連邦共和国：シュレーダー政権からメルケル政権まで	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。 石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社 2007 年 増谷英樹／古田善文『図説 オーストリアの歴史』河出書房新社、2011 年		学期末に実施する筆記試験および平常点に基づいて決定する。	

2014 年度

第二外国語（英語プラス1言語）

【全学共通授業科目】

シラバス

09 年度以降	ドイツ語 (Ia 総合 1)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A1 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (Ib 総合 1)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A1 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (Ia 総合 2)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A1 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (Ib 総合 2)	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A1 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (Ia 総合 3)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基本的能力を、実際の練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		（日本人教員の授業は、週 1 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以降	ドイツ語 (Ib 総合 3)	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基本的能力を、実際の練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。		（日本人教員の授業は、週 1 回） 1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
清野 智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材 恋するベルリン＞DVD 付き (Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』(朝日出版社) 2007 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIa 総合 1)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIb 総合 1)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIa 総合 2)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIb 総合 2)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。		(ネイティブ教員の授業は、週に 2 回) 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
DaF kompakt A2 Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIa 総合 3)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。		1. 既習事項の確認と春学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編く読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie）』（朝日出版社）2011 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIb 総合 3)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。		1. 既習事項の確認と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編く読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie）』（朝日出版社）2011 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIIa 応用)	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実地的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。		1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	ドイツ語 (IIIb 応用)	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実地的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。		1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09 年度以降	フランス語 (Ia 総合1)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ia 総合1) は日本人講師、(Ia 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (Ia 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (Ib 総合1)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ib 総合1) は日本人講師、(Ib 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (Ib 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (Ia 総合2)	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実地的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ia 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (Ib 総合2)	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実地的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語 (Ib 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (Ia 応用)	担当者	平井 康和
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を読み、書き、話すための基礎的事項を理解し、フランス語の総合的運用能力を向上させる。 日常フランス語の基本表現を学習し、音声教材を使い、「聞きとり」、「書きとり」に習熟し、すばやく、正確に自己表現できるようにする。 併せてフランス人の生活・文化についての理解を深める。		1. 講義の概要 2. 名前を言う：綴り字と発音の規則 3. 「パリ到着」：数詞（1～20） 4. 国籍・職業、ユーロ 5. 「ホテルで」：名詞と冠詞 6. 「ホテルの部屋」：形容詞 7. 「ランデヴー」：第1群規則動詞 8. 「ヴォージュ広場」：疑問文 9. 「カフェで」：否定文 10. 「ジュリアンと彼の写真」：不規則動詞 11. 「電話をかける」：近い未来 12. 「蚤の市で」：近い過去 13. 「道を尋ねる」：疑問代名詞 14. 「ロダン美術館」：疑問副詞 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤田裕二著『新・彼女は食いしん坊！1』（朝日出版社）		期末試験の結果（80%）によって評価するが、授業での実績・貢献度（20%）も評価対象とする。	

09 年度以降	フランス語 (Ib 応用)	担当者	平井 康和
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		1. 講義の概要 2. 「市場で買い物をする」 3. 数量の表現、フランス料理 4. 「サッカーを観戦に行く」 5. 時刻の表現 6. 「デパートで」 7. 数詞（21～1000） 8. 「紹介する」 9. 「ノルマンディー地方」 10. 「旅の話をする」 11. 過去を表す 12. 「別れを言う」 13. 「空港にて」 14. 未来を表す 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤田裕二著『新・彼女は食いしん坊！1』（朝日出版社）		期末試験の結果（80%）によって評価するが、授業での実績・貢献度（20%）も評価対象とする。	

09 年度以降	フランス語 (IIa 総合1)	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次のフランス語 (Ia 総合1) に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合1) は日本人講師、(IIa 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (IIa 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (IIb 総合1)	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次のフランス語 (Ib 総合1) に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合1) は日本人講師、(IIb 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (IIb 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (IIa 総合2)	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次のフランス語 (Ia 総合1) に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合1) は日本人講師、(IIa 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (IIa 総合2) では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (IIb 総合2)	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次のフランス語 (Ib 総合1) に引き続き、週 2 回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合1) は日本人講師、(IIb 総合2) はフランス人講師が担当する。 この (IIa 総合2) では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。		1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a, 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)		平常点とテストで評価する。	

09 年度以降	フランス語 (II a 応用)	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
このクラスの目的は、 (1) 初級文法を復習する。 (2) 例文の意味を文法の知識を使って理解する。 (3) 言語を通じて現代フランス事情を知る。 の 3 つです。 仏和辞典は必ず持参してください。 1 回目の授業で追加的説明を行いますので必ず出席してください。		1. 導入。 2. 名詞, 代名詞, 動詞 etre, 冠詞, 形容詞 3. 動詞 avoir, 規則動詞, 否定文 4. 所有形容詞, 縮約, 動詞 devoir 5. 疑問文, 疑問副詞, 非人称, 指示代名詞(1), 動詞 mettre 6. 動詞 finir, 関係代名詞, 指示形容詞, 疑問形容詞, 7. まとめと復習 7. 代名動詞, 強勢形, 動詞 pouvoir 8. 比較級, 指示代名詞(2), 動詞 faire 9. 過去分詞, 代名詞 y, 過去分詞の形容詞的用法, 近接過去, 近接未来 10. 疑問代名詞, 冠詞使い分け, 動詞 partir, 命令法 11. 強調構文, 語順, 動詞現在形のまとめ, 名詞の複数形 12. 目的語代名詞 13. 複合過去 14. まとめと復習 15. 総まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
大木充他,「グラメール アクティブ (改訂版) - 文法で複言語・複文化 -」, 朝日出版社		評価は, 平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。	

09 年度以降	フランス語 (II b 応用)	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
春期の続きです。 このクラスの目的は、 (1) 初級文法を復習する。 (2) 例文の意味を文法の知識を使って理解する。 (3) 言語を通じて現代フランス事情を知る。 の 3 つです。 仏和辞典は必ず持参してください。		1. 前期の復習。 2. 半過去, 中性代名詞 le) 3. 大過去, 代名詞 en, 代名詞の使い分け 4. 単純未来, 特殊な形容詞, 代名詞の併用 5. 現在分詞, ジェロンディフ, 間接疑問, 時制の一致 6. まとめと復習 7. 接続法現在 9. 条件法現在, 受動態所有代名詞 10. 前未来, 条件法過去, 関係代名詞(2), 話法 11. まとめと復習 12. 応用読解 13. 応用読解 14. 応用読解 15. 総まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
大木充他,「グラメール アクティブ (改訂版) - 文法で複言語・複文化 -」, 朝日出版社		評価は, 平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。	

09 年度以降	フランス語 (IIIa 応用)	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dans ce cours nous allons travailler la grammaire, l'expression écrite, l'expression orale, la compréhension écrite et la compréhension orale. Cela vous permettra de progresser en français et de passer le niveau 2 du DAPF.		1. Présentation des élèves 2. Poser des questions 3. Prépositions de lieu 4. Pronoms relatifs 5. Compréhension écrite 1 6. Passé composé et Imparfait 7. Futur 8. Compréhension écrite 2 9. Vocabulaire et grammaire : les vacances 10. Vocabulaire et grammaire : les activités quotidiennes 11. Compréhension orale 1 12. Vocabulaire et grammaire : la cuisine 13. Compréhension orale 2 14. Révision pour l'examen 15. Examen (épreuves orales)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre à acheter, des photocopies seront fournies à chaque cours.		Présence: 50% Devoirs : 30 % Examen : 20 %	

09 年度以降	フランス語 (IIIb 応用)	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dans ce cours nous allons travailler la grammaire, l'expression écrite, l'expression orale, la compréhension écrite et la compréhension orale. Cela vous permettra de progresser en français et de passer le niveau 2 du DAPF.		1. Raconter ses vacances d'été. 2. Conditionnel présent 3. Subjonctif présent 4. Compréhension orale 1 5. La comparaison 6. Compréhension écrite 1 7. Vocabulaire pour donner et expliquer son opinion 8. Compréhension écrite 2 9. L'impératif 10. Vocabulaire pour indiquer un chemin 11. Compréhension orale 2 12. Faire des hypothèses 13. Vocabulaire pour parler de Noël 14. Révision pour l'examen 15. Examen (épreuves orales)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre à acheter, des photocopies seront fournies à chaque cours.		Présence: 50% Devoirs : 30 % Examen : 20 %	

09 年度以降	スペイン語（I a 総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 なお、この授業はスペイン語（I a 総合2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の用法 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ 動詞の活用---直説法現在規則活用（-ar 動詞） ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用（-er, -ir 動詞） ⑩ 代名詞の用法 ⑪ gustar 型動詞の用法 ⑫ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑭ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑮ 今学期のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（I b 総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I b 総合1）は、スペイン語（I a 総合1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目指す。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書くこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語（I b 総合2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑭ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑮ 今学期のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語（I a 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I a 総合2）はスペイン語（I a 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（I a 総合1）と（I a 総合2）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語（I a 総合1）に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語（I b 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I a 総合2）の継続の授業である。 スペイン語（I b 総合2）はスペイン語（I b 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（I b 総合1）と（I b 総合2）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語（I b 総合1）に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（I a 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語（I a 総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（I a 総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（I a 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（I b 会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（I a 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（I b 総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語（I b 総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（I b 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 会話 1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 会話 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・大過去、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅲa 応用）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目指す。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと。		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	スペイン語（Ⅲb 応用）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目指す。 この授業ではとくに予習が不可欠である。		クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09 年度以降	中国語（I a 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようにします。 【講義概要】 ①語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1回 中国語概論 授業の進め方、履修上の注意、発音①、基本母音発音 第2回 第1課 我饿了 発音② ○声調 ○単母音 ○複母音 ○子音① 第3回 第2課 真好吃! 発音③ ○子音② ○鼻母音 ○主母音の省略 ○声調の変化 第4回 第3課 多少钱? 発音④ ○数詞 ○儿化 ○声調の組み合わせ ○挨拶表現 第5～6回 第4課 我们都是学生。 ○“是”構文 ○副詞“也”“都” ○閲読 ○練習問題 第7～8回 第5課 你去哪儿? ○主語+動詞+目的語 ○名乗り方 ○疑問詞 ○選択疑問文 第9回 中間試験・補充説明 第10～11回 第6課 你今年多大了 ○“的”の用法 ○年月日、曜日 第12～13回 第7課 这个很好吃。 ○形容詞述語文 ○比較を表す文 ○反復疑問文 ○指示代名詞 第14～15回 第8課 你家在哪儿? ○有(存在) ○在(所在) ○時刻と時間量	
テキスト、参考文献		評価方法	
内田慶市他 『中国語への道』(金星堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（I b 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。 注意 1) 第16課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もありますし、2年次にその内容を学習します。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1～2回 春学期の復習 第9課 我们在哪儿吃饭? ○前置詞 ○経験を表す構文 ○数量と語順 ○方位詞 第3～4回 第10課 好一点儿了吗? ○主述述語文 ○“了”の用法 ○願望の助動詞 ○「少し」の表現 第5～6回 第11課 我在看中国地图。 ○「～している」の表現 ○連動文 ○結果補語 第7回 中間試験 補充説明 第8～9回 第12課 你会开车吗? ○「～できる」の表現 ○必要・義務を表す助動詞 ○“是”～“的”の構文 ○“就”と“才”の用法 第10～11回 第13課 谁教你们汉语? ○様態補語 ○二重目的語を取る文 ○受身表現 ○動詞の重ね型 第12～13回 第14課 我把她送到车站。 ○存現文 ○方向補語 ○可能補語 ○“把”の構文 第14～15回 第15課 你一定能背得很好。 ○使役表現 ○反語の言い方 ○“又”と“再”	
テキスト、参考文献		評価方法	
内田慶市他 『中国語への道』(金星堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（I a 会話1）	担当者	張 亜紅
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話を主に学習します。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中、学事歴で休みが入った場合は会話1・2で順序が前後することがあります。		第1回 中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第2回 発音 有気音と無気音 複合母音 第3回 発音 声調の変化、声調の組み合わせ練習 第4回 第1課 人称代名詞、「～です」の文 反復疑問文 第5回 第2課 動詞述語文 文末の助詞“吧” 連体修飾語① 第6回 第3課 形容詞述語文 副詞“也”と“都”の用法 第7回 第4課 代名詞（指示・場所） 所在を表す“在” 第8回 1～4課中間試験 文法説明不足箇所補充 第9回 第5課 助詞“了”の用法① 前置詞“在”の用法 第10回 第6課 “有”の用法 数詞①・量詞 方位詞 第11回 第7課 助詞“了”の用法② 時間量 起点の前置詞 第12回 第8課 名詞述語文 数詞② 数の尋ね方 第13回 説明不足箇所補充 会話練習 第14回 第9課 時刻の表現 願望の助動詞 連動文 第15回 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大久保明男他『たのしい中国語 愉快的汉语』（金星堂）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（I b 会話1）	担当者	張 亜紅
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 1) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。途中、学事歴で休みが入った場合は会話1・2で順序が前後することがあります。		第1回 春学期の復習 秋学期履修上の注意 第2回 第10課 経験・持続を表す助詞 選択疑問文 第3回 第11課 様態補語 可能の助動詞 動量詞 第4回 第12課 比較の表現 義務の助動詞 方向補語 第5回 第13課 連体修飾語③ 後置の程度のを表す副詞 第6回 第14課 動作の進行表現 呼応“是～的”構文 第7回 説明不足箇所補充 会話練習 第8回 11課～14課 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第15課 兼語文 二重目的語を取る動詞 前置詞“跟” 第10回 第16課 前置詞“到”と“对” 第11回 第17課 存現文 形容詞の重ね型 第12回 第18課 使役文 受身文 後置の前置詞 “把”構文 第13回 補充課文 手紙文 第14回 説明不足箇所補充 会話練習” 第15回 補充教材 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
楊凱榮『中国語の基礎づくり』（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（I a 会話 2）	担当者	蔡 曉軍
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1～2回 発音（1） ○声調 ○単母音 ○複母音 ○子音 第3～4回 発音（2） ○鼻母音 ○半3声 ○声調の変化 ○轻声 ○儿化 ○声調の組み合わせ 第5～6回 第1課 「校門で」 ○主語＋述語 ○“是”構文 ○人称代名詞 ○疑問文 ○トレーニング1 第7～8回 第2課 「廊下で」！ ○動詞述語文 ○疑問詞 ○“呢”の用法 ○トレーニング2 第9回 中間試験・補充説明 第10～11回 第3課 「キャンパスで」 ○指示代名詞 ○連体修飾語 ○形容詞述語文 ○“吧”の用法 ○トレーニング3 第12～13回 第4課 携帯を見ながら ○“有”の用法1 ○反復疑問文 ○数詞 ○数を尋ねる ○トレーニング4 第14～15回 第5課 「学生食堂で」 ○場所代名詞 ○“有”の用法2 ○副詞 “也” “都” ○二重目的語 ○トレーニング5	
テキスト、参考文献		評価方法	
喜多山幸子『はじめまして！ 中国語』（白水社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（I b 会話 2）	担当者	蔡 曉軍
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 1) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1～2回 春学期の復習 第6課 「王先生の研究室で」 ○“在”の用法 ○動詞の重ね型 ○時を表す語の位置 ○年月日、曜日 ○トレーニング6 第3～4回 第7課 「コンビニで」 ○量詞 ○完了の動態助詞 “了”・文末の“了” ○願望などの助動詞 ○トレーニング7 第5～6回 第8課 「バス停で」 ○連動文 ○時刻 ○前置詞 “在” ○“是”の省略 第7～8回 第9課 「放課後に」 ○可能を表す助動詞 ○前置詞 “跟”, “给” ○“主＋述”述語文 ○トレーニング9 第9回 中間試験 復習2「鈴木的一天」 補充説明 第10～11回 第10課 「卓球中継を見ながら」 ○様態補語 ○“过”の用法 ○比較文 “比”の用法 ○“喜欢”の用法 ○トレーニング10 第12～13回 第11課 「ディズニーランドで待ち合わせ」 ○進行を表す文 ○簡単な方向補語 ○選択疑問文 ○トレーニング11 第14～15回 第12課 「カフェテラスで」 ○“是～的”の構文 ○結果補語 ○動作量、回数の位置 ○トレーニング12	
テキスト、参考文献		評価方法	
喜多山幸子『はじめまして！ 中国語』（白水社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1 年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び、総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終れば中国語検定 3 級に合格する力を付けたことになります。 【講義概要】 ①語学力の 4 分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②1 年次の教材より量的に少し長めの文章を、文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで、学習した文法事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し、中国語の表現力を増していきます。 ⑤会話部分は時間に余裕があるときに学習します。会話の授業に合わせて自習し、将来延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第 1 回 1 年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第 2 回 第 1 課 「自己紹介」 文法 介詞「对」、動詞「来」の用法 第 3 回 第 1 課 復習・練習問題 第 2 課「私の家族」 第 4 回 第 2 課 文法 呼応 呼応「除了～还(也)…」， “不是～就是…” 練習問題 第 5 回 第 3 課 「私の一日」 文法 呼応 “一边～一边…”，“先～再…”，副詞 “就” の用法 第 6 回 第 3 課 復習 練習問題 第 4 課「買い物」 第 7 回 第 4 課 復習 文法 “一种是～，一种是…”，“当～时候…”，“～的话” の用法 練習問題 第 8 回 第 1 課～4 課中間試験 説明不足個所補充 第 9 回 第 5 課 「中華料理」 文法 介詞、受身表現 「～と呼ぶ」の表現 第 10 回 第 5 課 復習と練習問題 第 6 課 「中国の気候」代々 第 11 回 第 6 課 文法 呼応 “虽然～但是…”，“因为～所以…”、慣用句 “听说～”、練習問題 第 12 回 第 7 課 「旅行」 文法 呼応 “对于～来说…”，“有的～，有的…”，“越来越…”，“每逢～，就…” 第 13 回 第 7 課 練習問題 第 8 課「夏休みの生活」 文法 呼応 “从～开始…”，“是～的” 第 14 回 第 8 課 復習 練習問題、 第 15 回 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
海村惟一他『中級 サクセス中国語』（郁文堂）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。 注意） 1) 履修者の学習状況・理解状況によっては進度を調整することもあります。		第 1 回 春学期の復讐 第 2 回 第 9 課 「上海の今」 文法 “把”，“与”，“离” 結果補語 第 3 回 第 9 課 復習練習問題、 第 10 課「上海の交通」 第 4 回 第 10 課 文法 “由～组成”，可能を表す助動詞 練習問題 第 5 回 第 11 課 「ネットのある生活」 文法 使役表現 呼応 “只要～，就…” 第 6 回 第 11 課 復習 練習問題 第 12 課 「若者の消費観」 第 7 回 第 12 課 文法 呼応 “为(了)～，…”，結果補語 “光” 復習 練習問題 第 8 回 第 9～12 課 中間試験 説明不足個所補充 第 9 回 第 13 課 「中国の経済変化」 文法ポイント “看来…”，“～了没有?”，“为什么～? 因为～” の用法 第 10 回 第 13 課 復習 練習問題 第 14 課 「中国のお茶」 第 11 回 第 14 課 文法結果補語 “到”，呼応 “不但～，也…”，“根据～来，…” 復習 練習問題 第 12 回 第 15 課 「中国の医療」 文法 “到～为止，…”， “多～一点儿”，“有点儿” の用法 第 13 回 第 15 課 復習 問題 第 16 課 「年越し」 第 14 回 第 16 課 “～在一起”，“在～之前”，練習と練習問題 第 15 回 補充説明 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
海村惟一他『中級 サクセス中国語』（郁文堂）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 1）	担当者	星野 芳欣
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1回 1年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第1課 「打电话」 文法ポイント 第2回 第1課 復習読み練習とドリル 第3回 第2課 「接风」 文法ポイント 第4回 第2課 復習読み練習とドリル 第5回 第3課 「介绍」 文法ポイント 第6回 第3課 復習読み練習とドリル 第7回 中間試験 第4課 「交通工具」 文法ポイント 第8回 第4課 復習読み練習とドリル 第9回 第5課 「换钱」 文法ポイント 第10回 第5課 復習読み練習とドリル 第11回 第6課 「吃饭」 文法ポイント 第12回 第6課 復習読み練習とドリル 第13回 第7課 「生病」 文法ポイント 第14回 第7課 復習読み練習とドリル 第15回 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
楊凱榮『表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 1）	担当者	星野 芳欣
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます - 中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 - 発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 - 春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 - 会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 1) 第15課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第1回 春学期復習 第8課 「交通工具」2 文法ポイント 第2回 第8課 復習読み練習とドリル 第3回 第9課 「网上聊天儿」 文法ポイント 第4回 第9課 復習読み練習とドリル 第5回 第10課 「网上聊天儿」2 文法ポイント 第6回 第10課 復習読み練習とドリル 第7回 中間試験 第11課 「买东西」 文法ポイント 第8回 第11課 復習読み練習とドリル 第9回 第12課 「爱好」 第10回 第12課 復習読み練習とドリル 第11回 第13課 「坐火车」 文法ポイント ドリル 第12回 第13課 復習読み練習とドリル 第13回 第14課 「观光」 第14回 第14課 復習読み練習とドリル 第15回 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
楊凱榮『表現する中国語Ⅱ』（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 2）	担当者	蔡 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅱa(会話 1)と中国語Ⅱa(会話 2)は 2 つの科目として、異なる教材、異なる教員が担当します。 【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。会話 1 と共に会話力習得に重点を置きます。 【講義概要】 語学力の 4 分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。 2) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第 1 回 1 年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第 2 回 第 1 課 紹介 呼応 “是～的” “不但～而且…” 第 3 回 第 1 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 4 回 第 2 課 最初の授業 第 5 回 第 2 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 6 回 第 3 課 おしゃべり 第 7 回 第 3 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 8 回 1 課～3 課 中間試験 説明不足箇所補充 第 9 回 第 4 課 値切りの交渉 第 10 回 第 4 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 11 回 第 5 課 タクシーに乗る 第 12 回 第 5 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 13 回 第 6 課 バスに乗る 第 14 回 第 6 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 15 回 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
顧明耀『中国語Ⅱ 中級会話コース』（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 2）	担当者	蔡 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 1) 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。		第 1 回 春学期復習 第 7 課 小包を出す 第 2 回 第 7 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 3 回 第 8 課 レストランで 第 4 回 第 8 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 5 回 第 9 課 診察を受ける 第 6 回 第 9 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 7 回 第 10 課 お呼ばれ 第 8 回 第 10 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 9 回 中間試験 説明不足箇所補充 第 10 回 第 11 課 旅行 第 11 回 第 11 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 12 回 第 12 課 春節で見たこと 第 13 回 第 12 課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第 14 回 第 13 課 送別 第 15 回 第 13 課 復習読み練習と表現練習、練習問題	
テキスト、参考文献		評価方法	
顧明耀『中国語Ⅱ 中級会話コース』（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅲ a 応用）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義概要】 中国語は漢字を使用しているので、中には見ればすぐに内容が理解できるものもある。ところが聞くとなると思うように聞き取れず、内容の理解に苦しむことが多い。これは留学を経験した学生の多くが語ることである。先ず聞いて分かるように、目は極力使わない授業を行う。 【講義目的】 - 中国語の語彙を増やして読解力を増強する。 - 発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。 - 教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明また復習する。 注意 1) 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。		第1回 中国語基礎の確認、学習方と授業に臨む注意事項を説明 第2回 第1課「山本」 音声を漢字に変換、課文を配布 第3回 第1課 学習語句と文法を説明 読み練習 第4回 第2課「人の好みは様々」 音声を漢字に変換 第5回 第2課 学習語句と文法を説明 読み練習 第4回 第3課「本を2冊買いました」 音声を漢字に変換 第6回 第3課 学習語句と文法を説明 読み練習 第7回 第4課「一人っ子」 音声を漢字に変換 第8回 第4課 学習語句と文法を説明 読み練習 中間試験 第9回 第5課「なまりがつよい」 音声を漢字に変換 第10回 第5課 学習語句と文法を説明 読み練習 第11回 第6課 「まだ取れていない」 音声を漢字に変換 第12回 第6課 学習語句と文法を説明 読み練習 第13回 第7課「成田空港へ」 音声を漢字に変換 第14回 第7課 学習語句と文法を説明 読み練習 第15回 春学期の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は音声で配布		平常の授業への取り組み(予習の聞き取りを含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	中国語（Ⅲ b 応用）	担当者	阿邊 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進める - 中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とする。 - 発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。 - 教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明・復習していく。 - 辞書を丹念に調べる習慣を身につける。 - 春学期に続き多読(ピンインなしで)をしていく。多読するなかで語彙力を高め、文法の知識を更に深めていく。 注意 1) 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。		第1回 第8課「小遣い」 音声を漢字に変換 第2回 第8課 学習語句と文法を説明 読み練習 第3回 第9課 「曇りのち晴れ」 音声を漢字に変換 第4回 第9課 学習語句と文法を説明 読み練習 天気表現 第5回 第10課「ラジカセを買う」 音声を漢字に変換 第6回 第10課 学習語句と文法を説明 読み練習 第7回 中間試験 第8回 第11課「インフルエンザ」 音声を漢字に変換 第9回 第11課 学習語句と文法を説明 読み練習 第10回 第12課 「友人」 音声を漢字に変換 第11回 第12課 学習語句と文法を説明 読み練習 第12回 第13課 「中華料理」 音声を漢字に変換 第13回 第13課 学習語句と文法を説明 読み練習 第14回 課文朗読大会 第15回 秋学期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は音声で配布		平常の授業への取り組み(予習の聞き取りを含む)、中間・期末試験の結果等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09 年度以降	韓国語（I a 総合1）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（I b 総合1）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。		1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㄷ語幹 8 ㄷ変則用言 9 ㄴ変則用言 10 ㄹ変則用言 11 ㅎ変則用言 12 ㄹ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（I a 総合2）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語 I（文法・読解1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 名詞文 7 存在文 8 用言文 9 数詞① 10 数詞② 11 否定形 12 尊敬形 13 連用形 14 해요体 15 해요体の尊敬形	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（I b 総合2）	担当者	森 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用することにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。		1 基本事項の確認① 2 基本事項の確認② 3 過去形 4 連体形① 5 連体形② 6 未来意思形 7 ㄷ語幹 8 ㄷ変則用言 9 ㄴ変則用言 10 ㄹ変則用言 11 ㅎ変則用言 12 ㄹ変則用言 13 変則用言のまとめ 14 まとめと復習① 15 まとめと復習②	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（I a 応用）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、韓国語会話の基礎を習得することを目的とする。		1-2. 文字と発音 3-4. 挨拶と自己紹介 5-6. 場所を確認する 7-8. 物の位置などについて話す 9-10. 趣味と好き嫌い 11-12. 職業や夢について話す 13-14. 物を比較する 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
金京子著『パランセ韓国語 会話入門』朝日出版社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（I b 応用）	担当者	沈 元燮
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に身につけた初歩の会話をさらに磨き、さまざまな表現ができるようにする。積極的な授業参加が期待される。		1-2. 注文する 3-4. 日程や予定について話す 5-6. 道案内 7-8. ショッピング 9-10. 理由をたずねる 11-12. 天気について 13-14. 理由を説明する 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
金京子著『パランセ韓国語 会話入門』朝日出版社		中間テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合1）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では「韓国語Ⅰ応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1. 1年次の復習 2. 1年次の復習 3. 第1課 4. 第2課 5. アクティビティ（Kpopを聴こう！） 6. 第3課 7. 復習問題 8. 中間テスト 9. アクティビティ（映画鑑賞） 10. 第4課 11. 第5課 12. 第6課 13. 復習問題 14. - 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ちょこっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合1）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。		1. 春学期の復習 2. 春学期の復習 3. 第7課 4. 第8課 5. アクティビティ（Kpopを聴こう！） 6. 第9課 7. 復習問題 8. 中間テスト 9. アクティビティ（映画鑑賞） 10. 第10課 11. 第11課 12. 第12課 13. 復習問題 14. - 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ちょこっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合2）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では「韓国語Ⅰ応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1. 1 年次の復習 2. 1 年次の復習 3. 第 1 課 4. 第 2 課 5. アクティビティ（Kpop を聴こう！） 6. 第 3 課 7. 復習問題 8. 中間テスト 9. アクティビティ（映画鑑賞） 10. 第 4 課 11. 第 5 課 12. 第 6 課 13. 復習問題 14. - 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ちょこっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合2）	担当者	柳 蓮淑
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には前期より深いコミュニケーションができるように期待したい。		1. 春学期の復習 2. 春学期の復習 3. 第 7 課 4. 第 8 課 5. アクティビティ（Kpop を聴こう！） 6. 第 9 課 7. 復習問題 8. 中間テスト 9. アクティビティ（映画鑑賞） 10. 第 10 課 11. 第 11 課 12. 第 12 課 13. 復習問題 14. - 15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ちょこっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 応用）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では「韓国語Ⅰ総合」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。		1. ガイダンス 2. 復習 3. 復習 4. 第 1 課 遅れて申し訳ありません 5. 第 2 課 この背の高い人が主人ですか 6. 第 3 課 付き合っている人はいなかったです 7. 第 4 課 通いながらずっと学びましたか 8. 第 5 課 どこに行くつもりですか 9. 第 6 課 小学校で習ったことがありますよ 10. 第 7 課 韓国が勝ちそうです 11. 第 8 課 見ようと思います 12. 第 9 課 雨が降り始めました 13. 第 10 課 食事でもしに行きましようか 14. 復習 15. 期末テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明『基礎から学ぶ 韓国語講座 中級』国書刊行会		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 応用）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
今まで身につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。		1. 復習 2. 復習 3. 第 11 課 実現したらいいのですが 4. 第 12 課 高校の時に修学旅行で来ました 5. 第 13 課 開かれるといいます 6. 第 14 課 すごくきれいになりましたよ 7. 第 15 課 建てられて依頼どのぐらい経ちましたか 8. 第 16 課 健康そうですね 9. 第 17 課 同じ年かもしれません 10. 第 18 課 タレでも作っておいて 11. 第 19 課 痩せるために我慢しなくちゃ 12. 第 20 課 私も行くから 13. 総合復習 14. 総合復習 15. 期末テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
木内明『基礎から学ぶ 韓国語講座 中級』国書刊行会		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅲa 応用）	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、今まで身につけた知識を活かし、文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。		1. 復習 2. ハングル能力試験対策 3. ハングル能力試験対策 4. ハングル能力試験対策 5. ハングル能力試験対策 6. ハングル能力試験対策 7. 第 1 課 病院で 8. 第 2 課 バス停留場で 9. 第 3 課 銀行で 10. 第 4 課 本を読む 11. 第 5 課 韓国料理 12. 第 6 課 天気 13.—15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集 3 級』		小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語（Ⅲb 応用）	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、今まで身につけた知識を活かし、文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第 7 課 趣味は何ですか 3. 第 7 課 文法と表現 4. 第 8 課 約束 5. 第 8 課 文法と表現 6. 第 9 課 道を歩く 7. 第 9 課 文法と表現 8. 第 10 課 引っ越し 9. 第 10 課 文法と表現 10. 第 11 課 あけましておめでとうございます 11. 第 11 課 文法と表現 12. 第 12 課 秋夕 13.—15. まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
李昌圭『韓国語上級』白帝社 前田真彦『韓国語上級演習ノート』白帝社		小テスト、期末テスト	

2014 年度

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座（時空を行き交う知の変容 1）	担当者	コーディネーター 高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし、文学や批評、思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画、また、演劇、音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなからう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は、異なる時代や異なる文化圏に、また異なる分野に受容されることで、変容する。学問すらも、それを文化現象のひとつとしてとらえるならば、異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統）、さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を、各担当者は、具体的な事例をもって明らかにする。		1. 高橋輝暁 「時空を行き交う知の変容 1」開講にあたって 2. 矢羽々崇 日本におけるグリム・メルヘンの受容 3. 柿田秀樹 メディアとしての視覚の変容 4. 田村 毅 海を渡る女神たち—地中海文化圏の拡大と神話の習合— 5. 若森栄樹 現代フランスの精神分析理論—ジャック・ラカンをめぐる— 6. 福田美雪 開かれたアーカイブス—フランス国立図書館— 7. 安井美代子 言語生得説に関する知の変容 8. 米沢 薫 論争によるドイツの自己認識の変容 1—ホロコースト記念碑論争（1988～2005）— 9. 米沢 薫 論争によるドイツの自己認識の変容 2—ベルリン宮殿再建論争（1989～2002）— 10. 上野直子 歴史、暴力、言葉の海へ 11. 阿部明日香 日ジャポニスム—ヨーロッパにおける日本の「美術」の受容— 12. 須永和博 時空を行き交う「日本文化」 13. 野澤丈二 近世におけるワイン文化のグローバリゼーション 14. 片山亜紀 スウィフトの『ガリヴァー旅行記』から宮崎駿の『天空の城ラピュタ』へ 15. 山本 淳 ブルーノ・タウトと日本	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。		毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し、その総合点によって評価する。	

09 年度以降	総合講座（時空を行き交う知の変容 2）	担当者	コーディネーター 高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし、文学や批評、思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画、また、演劇、音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなからう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は、異なる時代や異なる文化圏に、また異なる分野に受容されることで、変容する。学問すらも、それを文化現象のひとつとしてとらえるならば、異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統）、さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を、各担当者は、具体的な事例をもって明らかにする。		1. 高橋輝暁 「時空を行き交う知の変容 2」開講にあたって 2. 工藤和宏 異文化体験に見る日本の若者の変容 3. 工藤和宏 留学生政策の変容と獨協大学の未来 4. 佐野康子 コーヒー発祥の国エチオピア—飲料文化の創造と変容— 5. 町田喜義 多文化主義に関する日本・韓国・カナダの比較 6. 白川貴子 翻訳にみる知の変容について 7. 米 沢薫 キリスト十字架像論争（1995）とイスラム教ベール着用論争（1998～）にみるドイツの自己認識の変容 8. 原 成吉 伝承バラッド“Lord Randal”とボブ・ディランの“A Hard Rain’s A-Gonna Fall” 9. 工藤達也 思考と比喩—ヘレトピアとしての哲学— 10. 東郷公德 ルネッサンスの暗号 11. 佐藤唯行 ユダヤ人、ユダヤ教 12. アダム・ザ・リゾー 時空を行き交う『風神雷神』 13. 江花輝昭 ヌーヴェル・キュージーヌ—フランス料理におけるジャポニスム— 14. 柿沼義孝 能の歴史と外国における受容 15. まとめと展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。		毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し、その総合点によって評価する。	

09 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とする。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるであろう。		1. 講義の概要 2. 欧州統合前史 3. 両大戦間期の欧州構想(1) 4. 両大戦間期の欧州構想(2) 5. 第 2 次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合(1) 7. 戦後復興と欧州統合(2) 8. 欧州審議会の創設 9. 欧州石炭鉄鋼共同体の成立 10. 欧州防衛共同体構想と政治共同体構想 11. 欧州経済共同体の成立 12. 自由貿易圏構想 13. 欧州経済共同体の定着期 14. 統合の深化と拡大 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、EU の制度や、欧州統合の「深化」に伴って生まれた EU 独自の政策や規制がどのようなものかを学ぶ。また、EU の「拡大」が加盟国間にどのような問題をもたらしたかについても確認する。 EU 誕生以降の話が中心となるため、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU 成立の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましい。		1. 講義の概要 2. 統合の「暗黒時代」から単一欧州議定書の成立へ 3. 単一通貨の導入に向けて(1) 4. 単一通貨の導入に向けて(2) 5. マーストリヒト条約以降の EU(1) 6. マーストリヒト条約以降の EU(2) 7. EU の機構 8. EU 共通農業政策 9. 共通農業政策の改革 10. EU の産業政策 11. EU の社会政策 12. 加盟国と EU：ドイツ、フランス、イギリス 13. 中東欧加盟国と EU 14. EU の課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、コンピュータシステム、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用方法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポートの完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、〔入門〕科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、〔入門〕科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス（＝言語データ）とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。 従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。 言語情報 Ia と Ib では、Ia の方が言語学的内容です。		1. 【ガイダンス】第 1 章「コーパス言語学への招待」 2. 第 2 章「コーパスとは何か」 3. 第 3 章「さまざまなコーパス」 4. 第 5 章「コーパス検索の技術」 - 第 6 章「コーパス頻度の処理」 5. 第 7 章「コーパスと語彙」(1) 6. 第 7 章「コーパスと語彙」(2) 7. 第 8 章「コーパスと語法」(1) 8. 第 8 章「コーパスと語法」(2) 9. 第 9 章「コーパスと文法」(1) 10. 第 9 章「コーパスと文法」(2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQ を検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(使用テキスト) 『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)		毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)	

09 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ib では、「日本人英語学習者のコーパス（＝言語データ）」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかししてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が高い人に向いている内容といえます。 授業では、教科書（下記参照）を参照しながら既存の学習者コーパスを分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。		1. 【ガイダンス】第 1 章「コーパス言語学への招待」 2. 第 10 章「コーパスと学習者」(1) 3. 第 10 章「コーパスと学習者」(2) 4. 第 4 章「コーパスの作成」とデータ加工 5. 学習者コーパスの語彙分析 (1) 6. 学習者コーパスの語彙分析 (2) 7. 学習者コーパスの文法分析 (1) 8. 学習者コーパスの文法分析 (2) 9. 学習者コーパスの誤り分析 (1) 10. 学習者コーパスの誤り分析 (2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQ を検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(使用テキスト) 『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)		毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)	

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過等）で総合評価する。	

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1. イントロダクション - 「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。	

09 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動，対人行動としてのコミュニケーション 4. ソーシャルネットワーク：つながりが生み出すもの 5. 社会的交換(1)：互惠性 6. 社会的交換(2)：社会的ジレンマ 7. 集団による問題解決 8. 文化(1)：心の文化差はどのように生まれるか 9. 文化(2)：名誉の文化 10. 社会的感情：他者の前での様々な感情 11. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 12. 健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦 13. 社会心理学の未来 14. 期末試験と振り返り 15. 期末試験の解説とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。	

シラバス 交流文化学科

2014年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	